

# Veritas Backup Exec<sup>™</sup> 23 ライセンスガイド (改訂版1)

本資料は、Veritas Backup Execの販売と見積もりを支援することを目的とし、使用可能なライセンス、メンテナンスプログラムについて説明しています。価格およびSKUについては、WEBなど最新の価格表を参照してください。本資料は予告なく変更されることがあります。

## • 改定履歴

版数	発行日	改定履歴
Backup Exec 23 ライセンスガイド初版	2024年3月	<ul style="list-style-type: none"><li>初版発行</li></ul>
Backup Exec 23 ライセンスガイド (改訂版1)	2024年5月	<ul style="list-style-type: none"><li>P41-42: V-Ray Editionが適用される仮想ホストの明記 (VMware/Hyper-Vのみ)</li><li>P57: ガバメント、アカデミックライセンスプログラムが廃止され、コーポレートプログラムに統一されたことを明記</li></ul>

目次	頁
Veritas Backup Execの製品概要	4
パッケージとライセンスの概要	6
容量ライセンスへの移行	44
アップグレードとその条件	49
サポート/メンテナンスサービスの提供	51
追加情報	57
ライセンスの並行使用について	59
付録1 : 単体ライセンスでのライセンス構成例	60

注) 本資料の記載内容は、2024年03月現在のものです。製品仕様/価格などの内容は、予告無く変更される場合があります。

本資料を含むBackup Execの各種資料はこちらに公開されています。

- Backup Exec製品紹介ページ  
[https://www.veritas.com/content/dotcom/ja\\_jp/protection/backup-exec.html](https://www.veritas.com/content/dotcom/ja_jp/protection/backup-exec.html)

## 1. Veritas Backup Exec™の製品概要

Veritas Backup Exec™は、高性能、柔軟性、使いやすさを追求したバックアップとリカバリソリューションです。プラットフォームが仮想、物理、またはクラウドのいずれであっても、インフラ全体を保護します。Backup Execにより、あらゆるレベルで、データとシステムの迅速で信頼性の高いバックアップとリカバリを実現します。最新リリースのVMwareやHyper-Vとの高度な統合も可能です。仮想マシン、データベース、ファイル、フォルダ、アプリケーションの個別オブジェクトを含むあらゆる単位での迅速なリカバリを実現します。1台から数百台までの仮想マシンとサーバをすべて同じユーザーコンソールから保護できるため、管理者の手間を減らし、効率を高めてくれます。

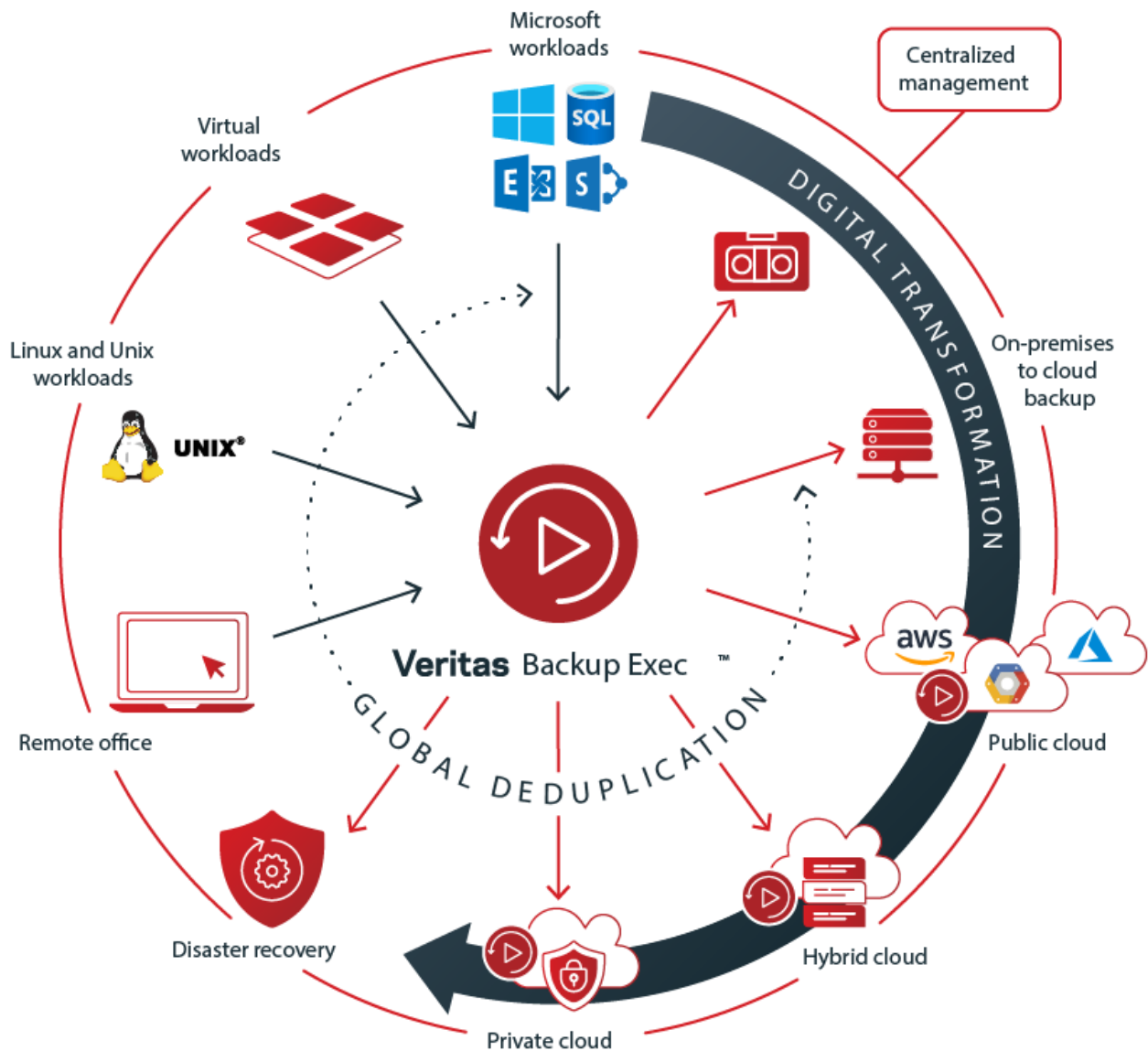
**高性能：** Backup Execにより、バックアップとリカバリの性能が向上します。あらゆるレベルで、データとシステムの迅速で信頼性の高いバックアップとリカバリを実現し、最新リリースのVMwareやHyper-Vとの高度な統合にも対応しています。データの増加という課題にも、データの変化の大きさに関係なく対応できます。さらに、長いダウンタイムを回避し、バックアップ時間帯に収めることが可能です。

**柔軟：** すべてのバックアップソリューションが、小回りの利くりカバリを提供しながら環境を保護する柔軟性を備えているとは限りません。Backup Execは、物理/仮想/クラウドのアーキテクチャを保護し、あらゆるものをすべてのストレージデバイスにバックアップし、どこへでもリストアできます。仮想マシンからサーバ全体、アプリケーション、または単一ファイルやフォルダまで、Backup Execは1つのソリューションであらゆるニーズに対応できます。

**使いやすい：** 複雑なバックアップ/リカバリ製品は、非効率的で時間がかかり、管理コストが高額になる可能性があります。Backup Execには、直感的なウィザードと適切に情報を把握できるダッシュボードが用意されており、以前のバージョンからのアップグレードであれ競合製品からの移行であれ、簡単に実装、使用、管理できます。

Backup Exec を使えば、時間とコストが節約され、機密データが保護されます。また、すべての重要な情報が常にバックアップされ、リカバリ可能です。

## 概要図：



- 物理、仮想、クラウド環境を垣根なく、経験が浅い管理者でも、すぐに簡単にバックアップとリストアが行えます！
- 中小規模のシステムに最適なバックアップソリューションです！

## 2. パッケージとライセンスの概要


### ライセンスモデル

Backup Execは使いやすく、ライセンス取得も簡単です。


Backup Execには以下の種類のライセンスモデルを用意しています。お客様の用途や予算に合わせて、最適なライセンスを選択できます。

- Simpleライセンス
- Bronze/Silver/Gold Editionのインスタンスライセンス – 永続ライセンスのみ
- Bronze/Silver/Gold Editionの容量ライセンス – 永続ライセンスのみ
- 単体ライセンス (Custom Edition) – 永続ライセンスのみ
- 仮想環境用CPUライセンスV-Ray Edition – 永続ライセンスのみ

それぞれのライセンスタイプと対応している機能は以下の通りです。後ほどそれぞれについて詳しく説明します。



Veritas Backup Exec  
**ライセンス**



すべての機能が含まれたオールインワンライセンス！

Veritas Backup Exec 機能一覧	BE Simple	従来の永続ライセンス				
	サブスクリプション	アカルト (単体)	V-Ray (CPU単位)	Bronze	Silver	Gold
Backup Execサーバ →	✓		✓	✓	✓	✓
WindowsI-エージェント →	✓		無制限*	✓	✓	✓
VMware / Hyper-VI-エージェント →	✓		無制限*	✓	✓	✓
重複排除オプション →	✓		✓	✓	✓	✓
アプリケーションとデータベースI-エージェント →	✓		無制限*	--	✓	✓
Linux / UnixI-エージェント →	✓		--	--	✓	✓
Library Expansion Option (LEO) →	✓		--	1ドライブ	4ドライブ	無制限
Remote Media for Linux Servers (RMAL) →	✓		--	--	--	✓
VTL Unlimited Drive Option (VUDU) →	✓		--	--	--	✓
Enterprise Serverオプション →	✓		--	--	--	✓
NDMPオプション →	✓		--	--	--	✓
M365I-エージェント →	✓		--	--	--	--

### 販売形態

Backup Execのご提供形態は、永続的に利用可能なソフトウェアライセンス、またはソフトウェアを借りて利用した期間に応じて支払うサブスクリプションライセンスの使用許諾契約となります。

Backup Execの基本的な販売形態はライセンス販売です。

お客様と販売店様は申込書に必要事項を記入してご発注いただくだけで、電子メールにより最短の納期でライセンス情報を受領できます。

(※) 申込書に不備が無い場合、弊社での受注処理完了後、2営業日以内でメール納品

お客様は、電子メールで受領したライセンス情報を元に、専用WEBサイト「Veritasサポート」から、インストールに必要なライセンスファイルやインストールファイルをすぐにダウンロードいただけます。そのため、物理的なインストールメディアのご購入は必須ではありません。物理的なインストールメディアが必要なお客様のために、「メディア」も販売しております。

## Backup Exec Simpleライセンス



- Backup ExecのSimpleライセンスは、インスタンス（保護対象のマシン台数）を対象にしたサブスクリプションライセンスです。
- 一つのライセンスで、Backup Execの全機能を最初から利用することができます。従来のライセンスで発生しがちなオプションの選択漏れを心配する必要はありません。
- Microsoft 365(以下M365)の保護を行うためには、Simpleライセンスが必要となります。  
※従来のライセンス(単体ライセンス、Bronze/Silver/Gold Edition、V-Ray)では、M365の保護は行えません。
- Simpleライセンスは、2種類のライセンスで構成されています。

## ① Simple Core Packライセンス

- Simpleライセンスのベースライセンスとなります。Simple Core Packライセンスは、Backup Execサーバが導入されているサイト（1物理拠点または1パブリッククラウド – AWS/Azure/GCPまたはエアギャップされた環境）に、最低 1 つ導入する必要があります。
- Simpleライセンスは、Backup Exec 22以上が導入されたBackup Execサーバのみにインストールすることができます。過去にリリースしたBackup Execバージョン（21.x, 20.x）にSimpleライセンスを導入することはできません。
- Simple Core Packライセンスには以下の機能/権利が含まれています。

• Backup Execサーバ*1	
• 5インスタンスを保護する権利	
• M365 10ユーザ分を保護する権利 (M365ボーナスインスタンス)	

- 1つのインスタンスで、1 台の仮想マシンもしくは1台の物理マシンもしくはM365ユーザ 10人分を保護する権利が与えられています。

1 インスタンス = or or


仮想マシン (クラウドインスタンスも含まれます)      物理マシン (Windows, Linux, NAS, CIFSボリューム)

10 x M365 ユーザ

\*1 Backup Execサーバ自身を保護する権利も含まれています。  
Backup Execサーバ自身の保護は、Core Packライセンスに含まれるため、インスタンスを消費しません。

## ② Simple Add Onライセンス

- インスタンス追加用のライセンスです。
- Simple Core Packライセンスで賄えないインスタンス数を補うためのライセンスです。
- Simple Add Onライセンスは、1インスタンス単位のライセンスとなっています。

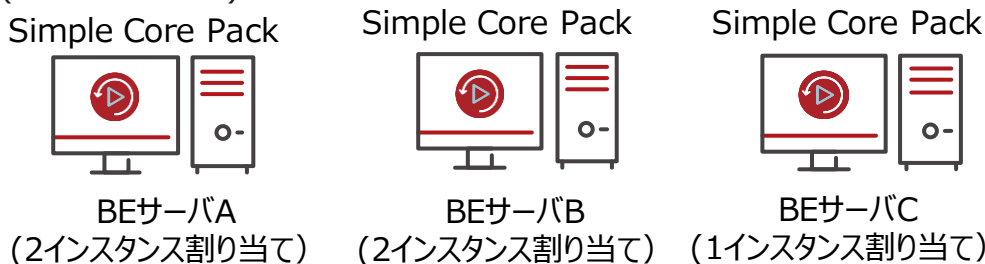
1 インスタンス = 

- インスタンスの使い道、用途はSimple Core Packライセンスと一緒にです。
  - 物理マシン、仮想マシン、M365 x 10ユーザのいずれかの用途に使用
- Simple Add Onライセンス単体をBackup Execサーバに導入することはできません。先にSimple Core PackライセンスをBackup Execサーバに導入してからでないと、Add Onライセンスを追加することはできません。
- Simple Add Onライセンスには、Simple Core Packライセンスに含まれている「M365のボーナスインスタンス」は含まれていません。

### • Simple Core Packライセンスのサイト毎の導入に関する注意事項

- Simple Core Packライセンスはサイト（1物理拠点または1パブリッククラウド – AWS/Azure/GCPまたはエアギャップされた環境）毎に最低 1 つ購入が必要です。
- 但し、同一サイト内に限り、サイト内に複数のBackup Execサーバを導入する場合、同一のSimple Core Packライセンスのライセンスファイルを利用して、複数のBackup ExecサーバにSimple Core Packライセンスに付随する5インスタンスを分割して導入することができます。

例：（同一サイトに限り）



- 尚、Simple Core PackライセンスをBackup Execサーバに導入するためには、最低 1 つのインスタンスを割り当てる条件となっています（割り当てを「0」にすることはできません）。
- 同一サイト内であっても、5インスタンスを超える数のBackup ExecサーバにSimple Core Packライセンスを導入する場合、新たなSimple Core Packライセンスの購入が必要となります。Backup Execサーバ5台まで使用した同一のライセンスファイルを、さらに6台目以降で使用する事はライセンス規約上、認めておりません。
- 同一のSimple Core Packライセンスのライセンスファイルを、「複数サイト」に跨ったBackup Execサーバに導入することも認めておりません。必ずサイト毎に、Simple Core Packライセンスを最低1つ購入が必要となります。
- Backup Execサーバ自身の保護はインスタンスとしてカウントされません。但し、他のBackup Execサーバをリモートで保護する場合、保護対象のBackup Execサーバはインスタンスを消費します。Simple Core Packライセンスに含まれるBackup Execサーバ自身を保護する権利は、リモートのBackup Execサーバの保護に利用することはできません。
- Add Onライセンスの場合、同一のライセンスファイルを使って、複数サイトに跨ったBackup Execサーバに導入することは可能です。ただこの際、それぞれのBackup Execサーバに割り当てたインスタンス数の合計が、Add Onライセンスで許可されているインスタンス数を超えないことが条件です。



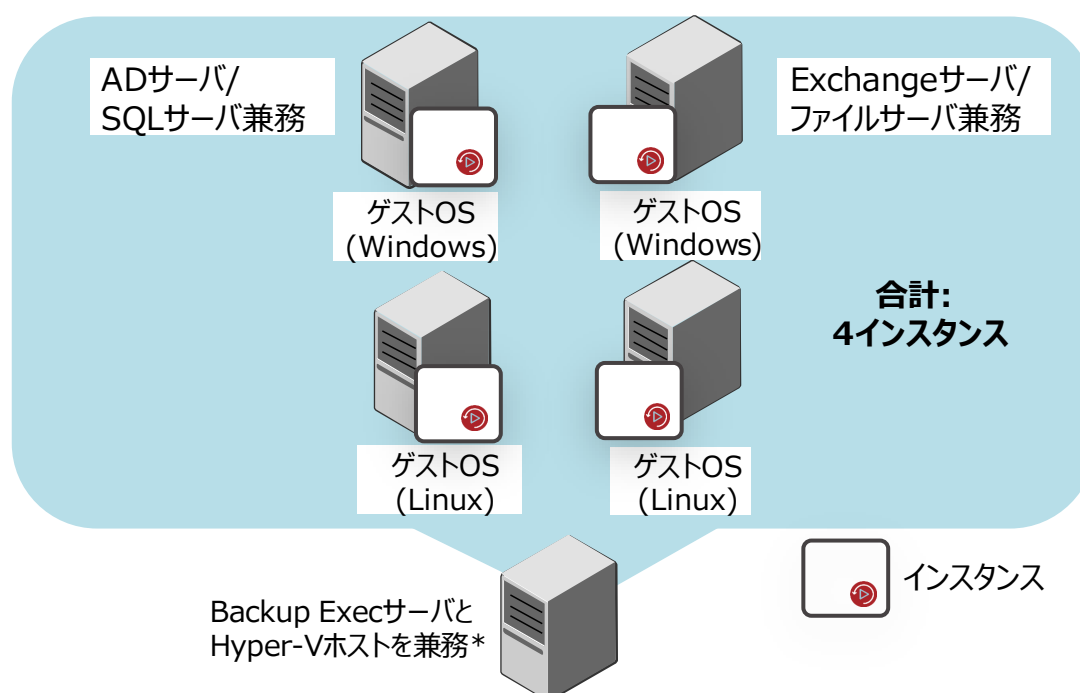
### • Simpleライセンスに関する注意事項

- Simpleライセンスでは、1つのインスタンスを上記3種類(仮想、物理、M365)のいずれかの用途にご利用いただけます。例えば、M365のボーナスインスタンスと、Simple Core Packライセンスに含まれている5つのインスタンスをすべてM365の保護に充てた場合、Simple Core Packライセンスで最大60ユーザのM365の保護を行うことが可能です。この後、いくつかのシナリオをご紹介します。
- 1つのインスタンスは、同時に複数の用途に使用することはできません。  
(例: 物理マシンとM365の保護の同時使用)
- Backup Execサーバのインスタンスカウントの扱いは、この後説明する「Bronze/Silver/Gold Edition」と異なりますのでご注意ください。  
Bronze/Silver/Gold EditionではBackup Execサーバは必ず1インスタンスとしてカウントします。
- サブスクリプションライセンスであるSimpleライセンスの契約を更新しなかった場合または失効した場合、失効後、直ちにバックアップを実行することができなくなります(猶予期間もありません)。但し、管理コンソールへのログイン、システム復旧ディスクの起動(SDR)は可能となるため、過去に取得したバックアップからの「復旧」(リストア)を行うことはできます(サブスクリプションライセンスが失効した状態までも)。サブスクリプションライセンスが失効しても、すべての機能を利用する権利が失われるわけではありません。

### • 複数の役割を兼務するマシン(サーバ)を保護する場合のインスタンスカウントについて

- 1台の物理マシン、仮想マシンまたはクラウドインスタンスが複数の役割を兼務する場合(例: ADサーバとSQLサーバ、Hyper-VホストとExchangeサーバなど)、インスタンスのカウントはOSインスタンスにもとづいて算出されるため、インスタンスカウントは「1」となります。
- 但し、Backup Execサーバが導入されているマシンの場合、Core Packライセンスに含まれているBackup Execサーバ自身を保護する権利が利用できるため、インスタンスはカウントされません。以下の例をご覧ください。

#### 例



\* この場合、Core Packライセンスに含まれるBackup Execサーバ自身を保護する権利が利用できるため、インスタンスはカウントされません。Backup Execサーバを兼務していない場合は、インスタンスは「1」としてカウントされます。

**• CIFSボリュームとiSCSIボリュームのインスタンスのカウント対象について**

- CIFS共有をバックアップ対象とする場合、各共有に対してUNCパス（例：¥¥マシン名 ¥共有名）を指定してバックアップを行うため、インスタンスを消費します。又、同じマシンから複数のCIFS共有をバックアップする場合でも、それぞれの共有に対してインスタンスを消費します（例：¥¥マシンA ¥共有名1、¥¥マシンA ¥共有名Bがバックアップ対象であれば、インスタンスを2つ消費します）
- 一方のiSCSIボリュームの場合、そのボリュームを収容しているマシンがインスタンスカウントの対象となります。例えば、あるマシンにD, E, F ドライブをマッピングしている場合（iSCSI/ローカルディスクに関係なく）、消費されるインスタンスはそのマシンのみとなり、消費されるインスタンスはこの場合 1 となります。
- ここでご紹介したCIFS/iSCSIボリュームのインスタンス数のカウントのされ方は、この後ご紹介するBronze/Silver/Gold Editionのインスタンス課金にも適用されます。

注) 同じリソース（例：先ほどのマシンA）を、FQDNで指定したり、IPアドレスやその他のエイリアスを指定してバックアップを行うと、Backup Exec側では異なるリソースとして認識してしまい、それぞれに対してインスタンスが消費されるため、なるべく共通の方法（ネーミング）でバックアップ対象を指定することを推奨しています（異なる名前でも同じリソースを指定することは避けるべき）。

## Simpleライセンスのシナリオの例



- 次のページ以降、Simpleライセンスのシナリオをいくつかご紹介します。
- 尚、Simpleライセンスで必要なライセンス数を計算するためのツールをご用意しています。こちらのサイトからアクセスできます。  
<https://www.veritas.com/resources/be-simple-license-calculator>
- サイト（物理拠点、クラウド、エアギャップ環境）の数、保護したいマシン・デバイスの数を入力すると、必要となるCore Packライセンス、Add Onライセンスの数が算出されます。すべてのケースを網羅しているわけではありませんので、あくまでも参考としてご利用いただき、正式なお見積は弊社またはパートナー営業窓口までご依頼ください。

## 例:

BE Simple | License Calculator

Backup Exec is now licensed as a simple subscription offering.  
Use the inputs below to calculate your licensing requirements.

Enter the number workloads you want to protect:

Sites	Virtual Machines	Physical Devices ⓘ	Microsoft 365 Users
3	10	5	0

Required Licenses:

3 BE Simple Core Pack + 0 BE Simple Add On

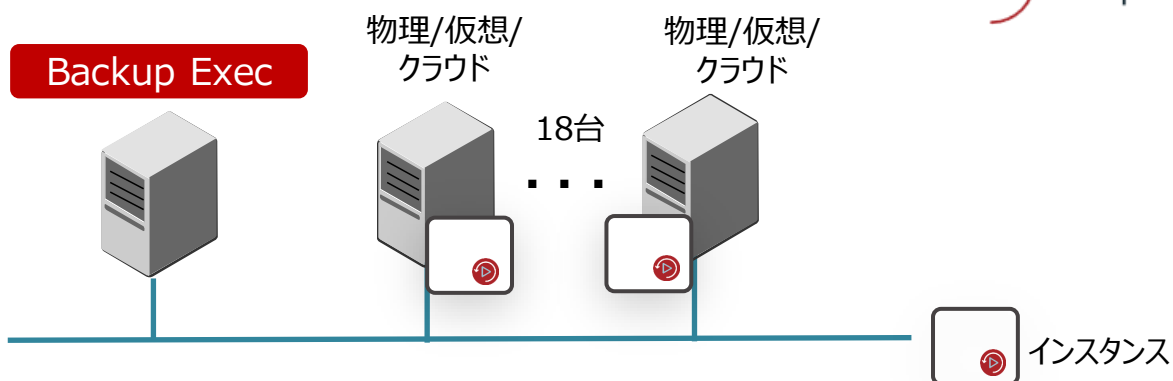
What's Included? +

Talk to a Backup Exec specialist. +

Simpleライセンス シナリオの例

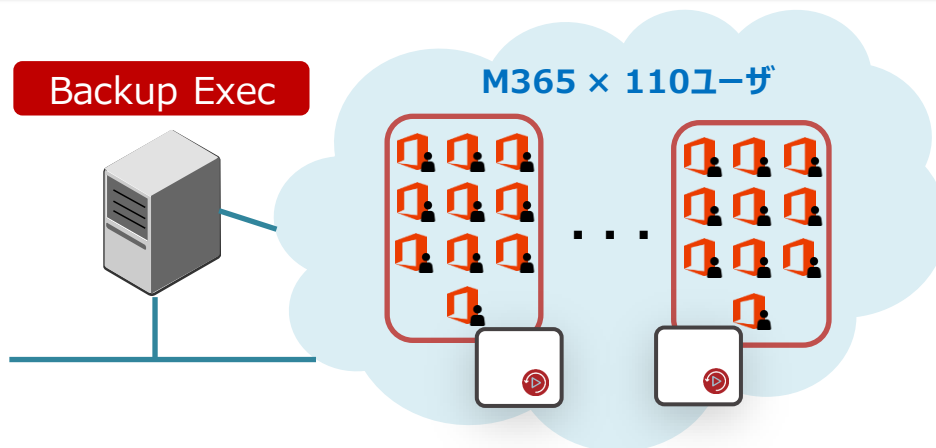


例1:



お客様のご要望	必要とするライセンス数
<ul style="list-style-type: none"> <li>18台の物理/仮想/クラウドのデータソースを保護</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Simple Core Packライセンス × 1</li> <li>Simple Add Onライセンス × 13</li> </ul> <p>算出根拠:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>18台のうち、5台をCore Packライセンス(5インスタンス)で保護</li> <li>残り13台をAdd Onライセンス × 13で保護</li> </ul> <p>※Backup Execサーバ自身はインスタンスを消費しません。</p>

例2:

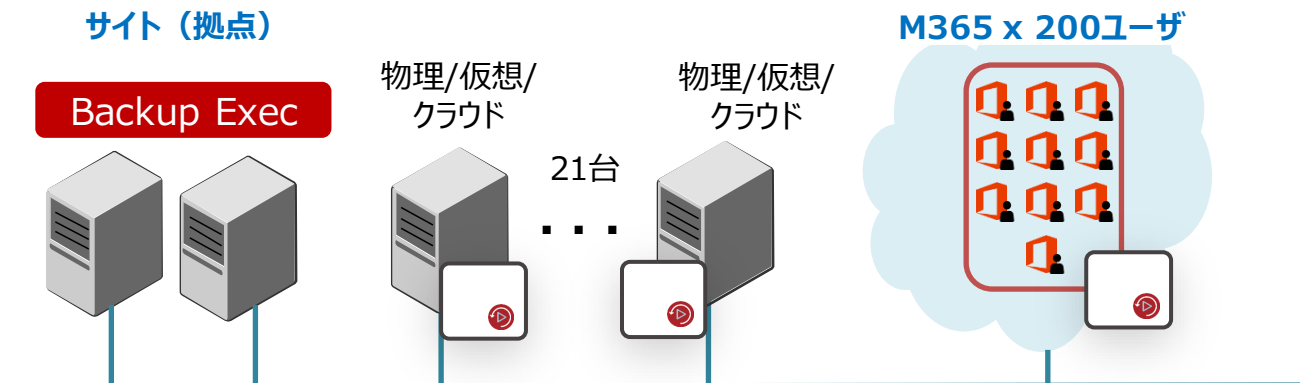


お客様のご要望	必要とするライセンス数
<ul style="list-style-type: none"> <li>M365の110ユーザを保護</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Simple Core Packライセンス × 1</li> <li>Simple Add Onライセンス × 5</li> </ul> <p>算出根拠:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>M365の110ユーザのうち、60ユーザをCore Packライセンス(60ユーザ)で保護</li> <li>残り50ユーザをAdd Onライセンス × 5で保護</li> </ul> <p>※Core Packライセンスに含まれる5インスタンスをすべてM365の保護に使用した場合、M365のボーナスインスタンス(10ユーザ分)を含めると最大60ユーザの保護が可能です。</p>

## Simpleライセンス シナリオの例(続き)



例3:

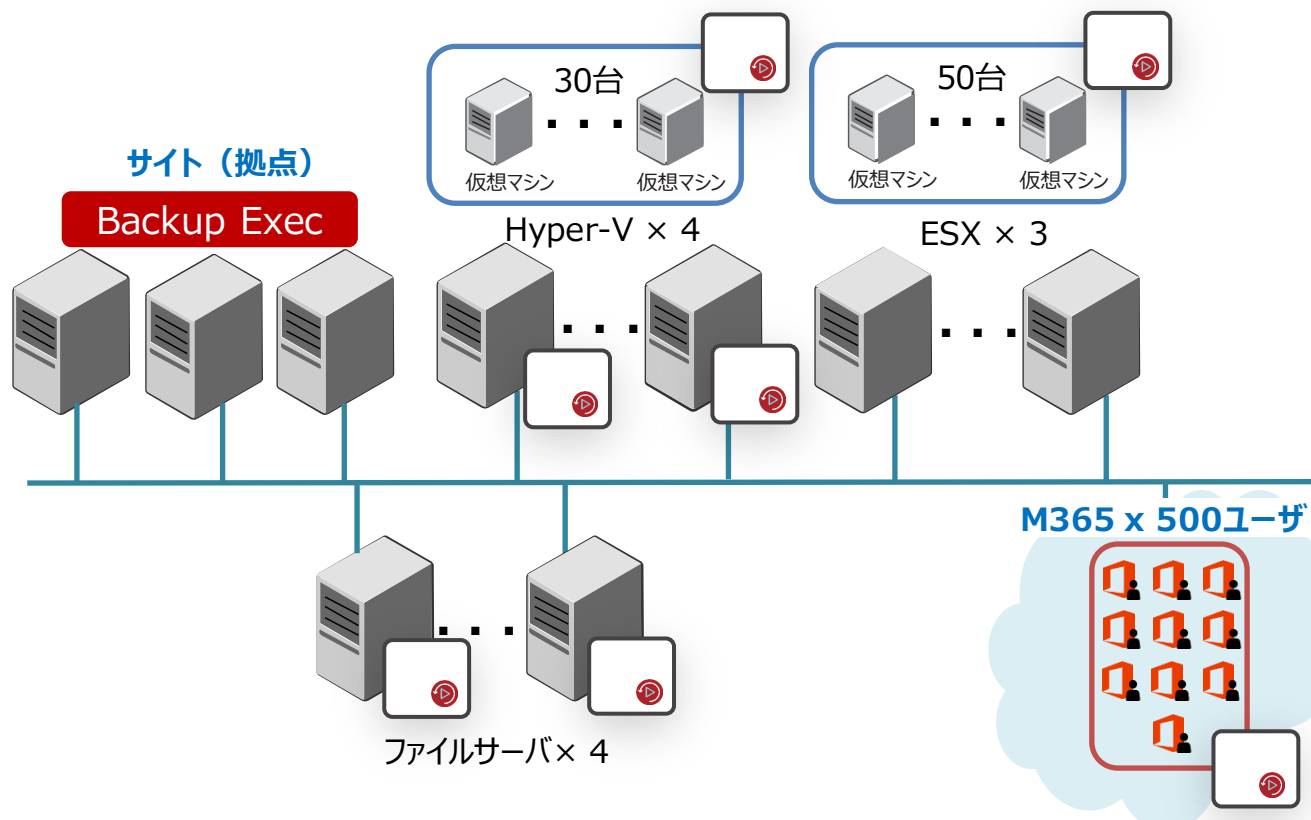


お客様のご要望	必要とするライセンス数
<ul style="list-style-type: none"> <li>同一サイト(物理拠点) 内に Backup Execサーバ2台を導入</li> <li>21台の物理/仮想/クラウドのデータソースを保護</li> <li>Microsoft 365の200ユーザーを保護</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>Simple Core Packライセンス × 1</b> ※同一サイト内なので、同一ライセンスファイルを使用して、インスタンスをBackup Execサーバ間で分割</li> <li><b>Simple Add Onライセンス × 35</b></li> </ul> <p>算出根拠:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>21台のうち、5台をCore Packライセンス (5インスタンス)で保護</li> <li>残り16台をAdd Onライセンス×<b>16</b>で保護</li> <li>M365 x 200ユーザーのうち、10ユーザーをCore Packライセンスに含まれるM365ボーナスインスタンスで保護、残り190ユーザーをAdd Onライセンス × <b>19</b>で保護</li> </ul> <p>※Backup Execサーバ自身はインスタンスを消費しません。但し、他のBackup ExecサーバをBackup Execサーバで保護した場合、バックアップを行った側のBackup Execサーバのインスタンスは消費されます。</p>

## Simpleライセンス シナリオの例(続き)



例4:

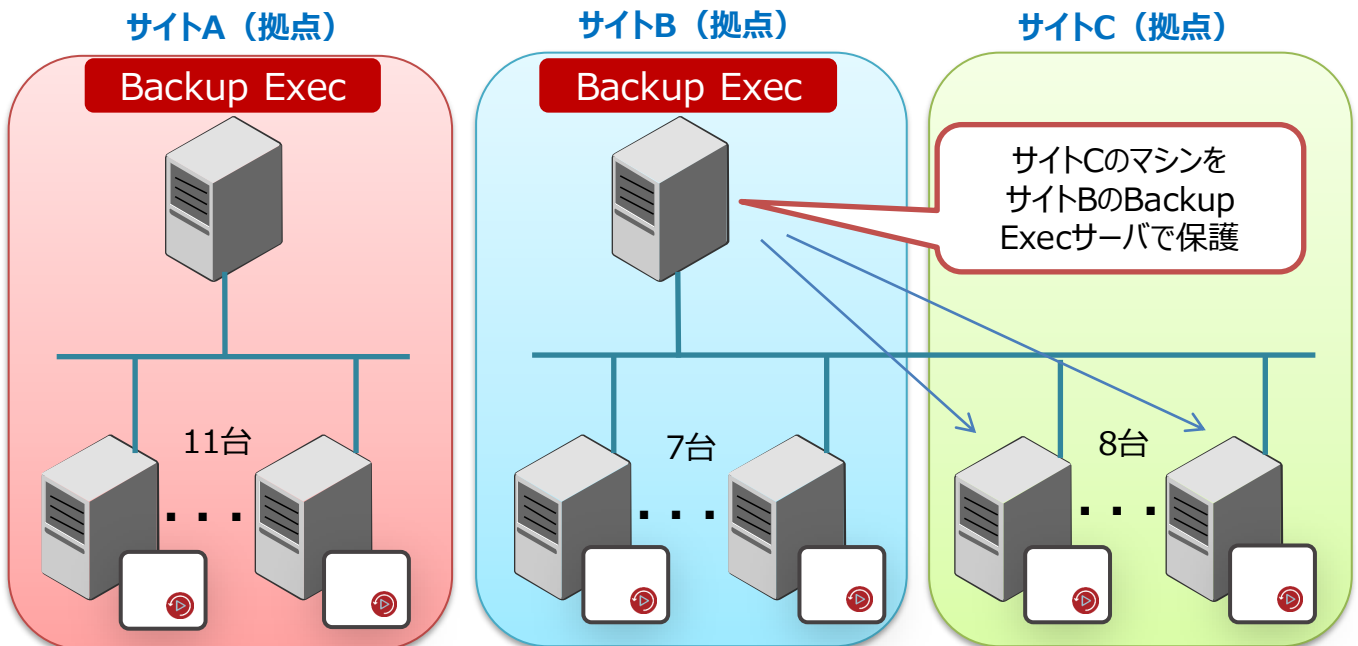


お客様のご要望	必要とするライセンス数
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 同一サイト（物理拠点）内に Backup Execサーバ3台を導入</li> <li>• Hyper-Vクラスタ（4ノード）上の仮想マシン30台を保護</li> <li>• VMware 3ノードクラスタ上の仮想マシン50台を保護</li> <li>• ファイルサーバ4台を保護</li> <li>• Microsoft 365の500人分を保護</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>Simple Core Packライセンス × 1</b> ※同一サイト内なので、同一ライセンスファイルを使用して、インスタンスをBackup Execサーバ間で分割</li> <li>• <b>Simple Add Onライセンス × 132</b></li> </ul> <p>算出根拠:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Hyper-Vクラスタ4ノードは、Simple Core Packライセンス4 インスタンスで保護。残り1インスタンスはファイルサーバの保護に利用 ※Hyper-VはWindowsサーバで保護対象でもあるため、カウントの対象となります</li> <li>• ファイルサーバ残り3台は、Simple Add Onライセンス × <b>3</b>で保護</li> <li>• Hyper-V上の30台の仮想マシンは、Simple Add Onライセンス × <b>30</b>で保護</li> <li>• ESX上の仮想マシン50台の仮想マシンは、Simple Add Onライセンス × <b>50</b>で保護 ※ESXはカウントの対象外</li> <li>• M365のユーザ490人分は、Simple Add Onライセンス × <b>49</b>と、Core PackライセンスのM365ボーナスインスタンス10人分で保護</li> </ul> <p>Add On合計: <b>132</b></p>

## Simpleライセンス シナリオの例(続き)



例5:



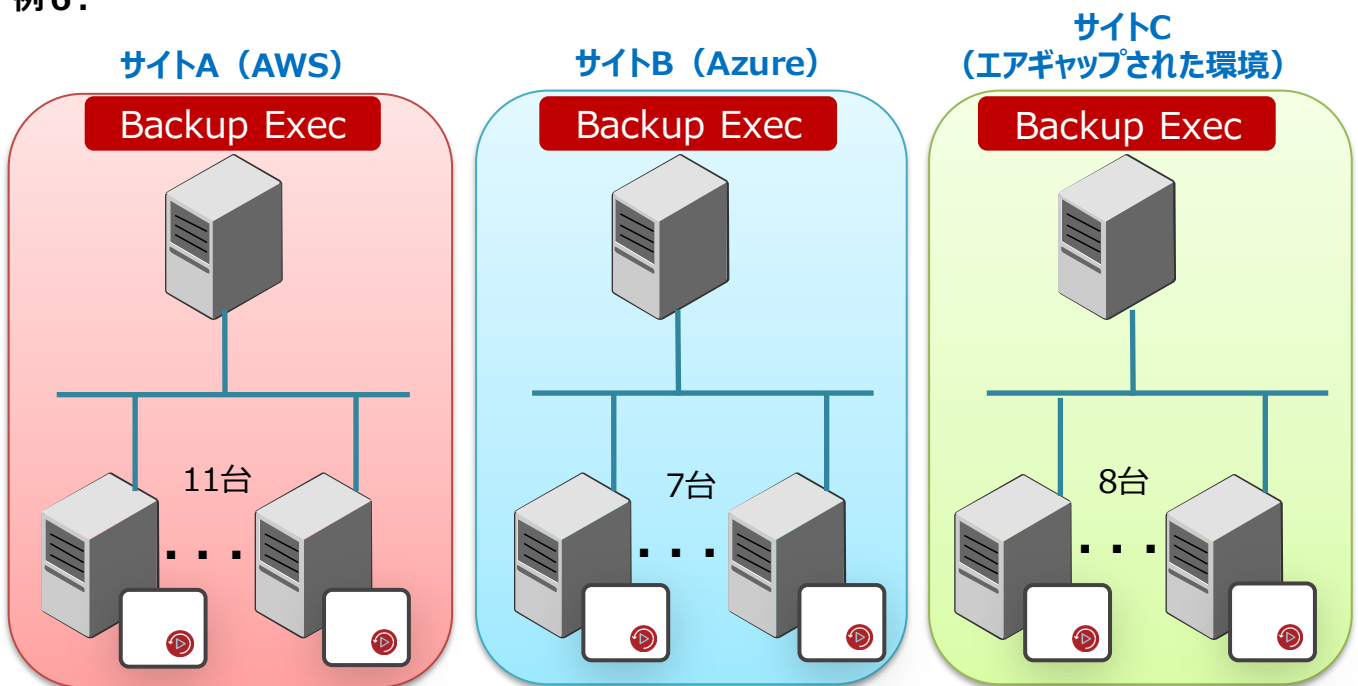
お客様のご要望	必要とするライセンス数
<ul style="list-style-type: none"> <li>2つのサイト（サイトAとB）にBackup Execサーバを導入（2台）</li> <li>サイトAで11台の物理/仮想/クラウドのデータソースを保護</li> <li>サイトBでサイトBの7台とサイトCの8台（合計15台）を保護</li> </ul> <p>合計26台を保護</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>Simple Core Packライセンス × 2</b> ※同一サイト内ではないので、それぞれのBEサーバ用のライセンス購入が必要</li> <li><b>Simple Add Onライセンス × 16</b></li> </ul> <p>算出根拠:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>サイトA: 11台のうち、5インスタンスを<b>Core Packライセンス</b>1つ、残り6台をAdd Onライセンス×6で保護</li> <li>サイトB: 7台のうち、5インスタンスを<b>Core Packライセンス</b>1つ、残り2台をAdd Onライセンス×2で保護</li> <li>サイトC: Add Onライセンス×8で保護</li> </ul> <p>※異なるサイト毎にBackup Execサーバを導入する場合、それぞれのBackup Execサーバ用に新規でSimple Core Packライセンスの購入が必要です。 ※同一のSimple Core Packライセンスをサイトを跨いで利用することはできません。</p>



## Simpleライセンス シナリオの例(続き)



例 6:



お客様のご要望	必要とするライセンス数
<ul style="list-style-type: none"> <li>3つのサイト (サイトA,B,C)にBackup Execサーバを導入 (3台)</li> <li>サイトA(AWS)で11台の物理/仮想/クラウドのデータソースを保護</li> <li>サイトB(Azure)で7台を保護</li> <li>サイトC (エアギャップされた環境) で8台を保護</li> </ul> <p>合計26台を保護</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>Simple Core Packライセンス × 3</b> ※同一サイト内ではないので、それぞれのBEサーバ用のライセンス購入が必要</li> <li><b>Simple Add Onライセンス × 11</b></li> </ul> <p>算出根拠:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>サイトA(AWS): 11台のうち、5インスタンスを<b>Core Packライセンス</b>1つ、残り6台をAdd Onライセンス×6で保護</li> <li>サイトB(Azure): 7台のうち、5インスタンスを<b>Core Packライセンス</b>1つ、残り2台をAdd Onライセンス×2で保護</li> <li>サイトC(エアギャップされた環境) : 8台のうち、5インスタンスを<b>Core Packライセンス</b>1つ、残り3台をAdd Onライセンス×3で保護</li> </ul> <p>※異なるサイト毎にBackup Execサーバを導入する場合、それぞれのBackup Execサーバ用に新規でSimple Core Packライセンスの購入が必要です。 ※同一のSimple Core Packライセンスをサイトを跨いで利用することはできません。</p>



## Simpleライセンスに関する一般的なFAQ

**Q. Simpleライセンスと従来のライセンス (Bronze/Silver/Gold Edition、単体ライセンス、V-Ray Edition)をBackup Execサーバ、またはBackup Exec集中管理サーバ、およびそれらの配下で管理されるバックアップ対象サーバで混在利用できますか。**

A. 混在はできません。ただし、Backup Execサーバ、またはBackup Exec集中管理サーバ、およびそれらの配下で管理されるバックアップ対象サーバを完全に分離し、独立して構築することは可能です。

**Q. 私は単体ライセンスを使用している既存のお客様で、Simpleライセンスへの移行を希望していません。可能でしょうか。**

A. クロスグレード用の型番（移行型番）は提供しておりませんので、Simpleライセンスへの移行をご希望のお客様は、一度弊社営業窓口もしくは販売元/仕入れ元の販売店窓口までお問合せください。

**Q. Backup Execサーバと保護対象が2台しかないのに、2インスタンスしか必要ありません。2インスタンス分のライセンスのみを購入することは可能でしょうか。**

A. できません。例え2インスタンスでも、最低Simple Core Packライセンス一つの購入が前提となりますので、5インスタンスが付きます（こちらを減らした販売は行っておりません）。余ったインスタンスは、将来拡張用に使用するか、Simpleライセンスがご予算や用途に合わなければ、他のライセンス体系をご検討いただくことも可能です。

**Q. Backup Execの管理コンソールに表示される「利用可能な数」と「割り当て済みの数」の違いは何でしょうか。**

A. Backup Execでは必要とするインスタンス数分のライセンスを購入して、それぞれのBackup Execサーバに異なる数のインスタンスを割り当てることができます。例えば、Core PackとAdd Onを合わせて50インスタンス分のライセンスをまとめて購入し、複数のBackup Execサーバに割り当てることができます(例: サーバAには10インスタンス、サーバBとCには5インスタンスずつ、サーバDには20インスタンス)。この例ですと、利用可能な50インスタンスをサーバ4台に40インスタンス割り当てたこととなります。利用可能なインスタンスをすべて最初から割り当てる必要はありません。

**Q. サブスクリプション契約を更新しなかった場合または失効した場合、どうなりますか。製品を継続して使用することはできますか。**

A. バックアップを実行することができなくなります。ただし、管理コンソールへのログイン、SDRの起動は可能で、過去にバックアップしたデータを復元することは可能です。サブスクリプション契約の有効期限が終了する90日前からユーザーに警告を発します。60日前からは週次で、30日前からは日次で警告を発します。

**Q. Simpleライセンスではクラウド重複排除機能は利用できますか。**

A. 利用できます。Simpleライセンスは、Gold Editionに相当するBackup Execのすべての製品機能をご利用いただけます。

**Q. Backup Execサーバはインスタンスとしてカウントの対象となるのでしょうか。**

A. Backup Execサーバ自身の保護はインスタンスを消費しません。但し、他のBackup ExecサーバをリモートでBackup Execサーバで保護した場合、バックアップを行った側のBackup Execサーバのインスタンスは消費されます。注) この後説明するBronze/Silver/Gold Editionでは、必ずBackup Execサーバはインスタンスとしてカウントします。Simpleライセンスとこの点では扱いが異なりますので、混乱しないようご注意ください。

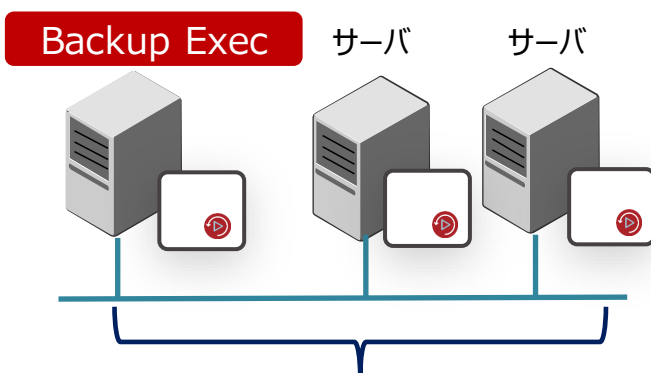
## Bronze/Silver/Goldエディション：2種類の課金方法

- Backup ExecのBronze/Silver/Goldエディションは、お客様の使用目的や予算に合わせてBackup Execが提供する機能を3つのエディション（パッケージ）で提供します。
- さらに、Bronze/Silver/Goldエディションは2種類の課金方法を提供します：物理、仮想マシンの台数（**インスタンス**）による課金と、従来から提供しているバックアップ対象の総データ量（**フロントエンドテラバイト（FETB）**）による課金を提供しています。
- Backup Execサーバ、エージェント、オプションを本数無制限に導入する権利が含まれていますが、ライセンスで指定されている保護対象のマシン数（インスタンス数）またはフロントエンドTBを超えないことが条件となります。
- 「インスタンス」は、Backup Execサーバ、Backup Exec集中管理サーバ、および、それらの配下で管理されるバックアップ対象の物理、仮想マシンとして定義されています。
- インスタンスライセンスは、1ライセンスにつき10インスタンスで販売されています。保護が必要な端末台数に合わせて、10インスタンス単位に必要なインスタンスライセンスを購入します。
- 「フロントエンドTB」は、保護対象となる非圧縮データ（つまり、重複排除されていないデータ）のサイズとして定義されます。保護が必要なデータ容量に合わせて、TB単位に必要な容量ライセンスを購入します。
- Bronze/Silver/Goldエディションは、永続ライセンスのみの販売となります。Bronze/Silver/Goldエディション用のサブスクリプションライセンスは、2022年8月をもって販売を終了いたしました。上記で解説した「Simpleライセンス」が後継製品となります。

注）Backup Execサーバ、またはBackup Exec集中管理サーバ、およびそれらの配下で管理されるバックアップ対象サーバ内で容量ライセンス(FETB)とインスタンスライセンスの混在、エディション間の混在利用はできません(例：SilverとGoldエディションを混在利用等)

### <インスタンスによる課金方法>

※サーバ台数（物理、仮想）が課金対象



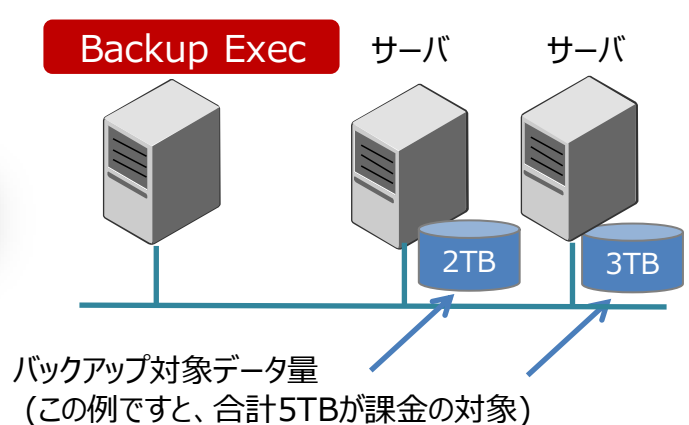
3インスタンスに対して、  
1ライセンスの課金



※10インスタンス以内であれば1ライセンスの課金で済みます

### <容量による課金方法>

※バックアップ対象データ量が課金対象



バックアップ対象データ量  
(この例ですと、合計5TBが課金の対象)

- **Bronze/Silver/Goldエディションに含まれる機能**  
Bronze/Silver/Goldエディションに含まれる機能は下表の通りです。

※FETB = フロントエンドTB

製品機能		Bronze	Silver	Gold
		10インスタンス単位 またはFETB単位	10インスタンス単位 またはFETB単位	10インスタンス単位 またはFETB単位
保護対象	仮想/物理	✓	✓	✓
対象プラットフォーム	Windows	✓	✓	✓
	Linux/Unix	(* 4)	✓	✓
	VMware	✓	✓	✓
	Hyper-V	✓	✓	✓
アプリケーション保護	Microsoft Exchange		✓	✓
	Microsoft SQL Server		✓	✓
	Microsoft SharePoint		✓	✓
	Active Directory (※1)		✓	✓
	Oracle		✓	✓
	Enterprise Vault		✓	✓
	その他機能	物理環境から仮想環境への変換	✓	✓
	重複排除	✓	✓	✓
	一元管理			✓
	物理テープライブラリサポート	スタンドアロンテープ装置のみ	4ドライブ (※2)	ドライブ数無制限
	仮想テープライブラリサポート		✓	ドライブ数無制限
	NDMPサポート			✓
	クラウド重複排除ストレージ(※5)		✓	✓
サポート	24時間365日対応サポート (※3)	✓	✓	✓

※1) Active Directory全体のバックアップとリカバリは、Windowsエージェントでサポート可能

※2) Silver Editionは最大4台のテープドライブをスタンドアロンテープ装置、オートローダ機能付きテープ装置、仮想テープライブラリ装置を跨って使用することができます

※3) ベーシックメンテナンス (BM)、エッセンシャルサポート (ES)をお選びいただけます

※4) VMware &amp; Hyper-Vエージェントを利用した仮想マシンバックアップであれば仮想環境上のLinuxマシンのバックアップ、リストアが可能です。ただし、仮想マシンへのLinuxエージェントのインストールはできません。

※5) クラウドストレージへの重複排除機能を利用するには、Silver Edition以上のライセンスが必要です。本機能はBronze Edition、単体ライセンス、V-Ray Editionでは提供されません

- 各エディションに含まれる単体ライセンスのエージェント/オプションは以下の通りです。

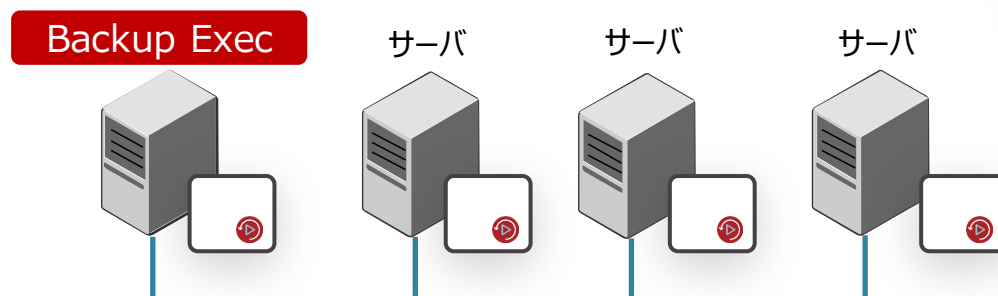
※FETB: フロントエンドTB

課金単位	10インスタンス単位 またはFETB単位	10インスタンス単位 またはFETB単位	10インスタンス単位 またはFETB単位
エージェントおよび機能	Bronze	Silver	Gold
Backup Execサーバ	✓	✓	✓
Windowsエージェント	✓	✓	✓
VMware & Hyper-Vエージェント	✓	✓	✓
重複排除オプション	✓	✓	✓
テープドライブ	スタンドアロン テープ装置 1台まで	テープドライブ 4台まで	ドライブ数無制限
ロボットテープライブラリ装置（物理）		✓	✓
仮想テープライブラリ装置		✓	✓
アプリケーション&データベースエージェント		✓	✓
Linux/Unixエージェント		✓	✓
Linux Server リモートメディアエージェント			✓
Enterprise Serverオプション（統合管理 も含む）			✓
NDMPオプション			✓

- Backup Execサーバが複数サイトにインストールされている環境で容量またはインスタンスを共有するには、すべてのサイトで同じエディションが必要となります。詳細については、容量・インスタンスライセンスの割り当てを参照してください。
- エージェントおよびオプションを個別にBronze/Silver/Gold Editionに追加することはできません。
- 容量ライセンスの場合、保護対象のデータ量が、ライセンスされた容量を30日間連続して15%以上超えると、バックアップが実行できなくなります。但し、リストアのみは実行可能です。
- Bronze Editionは、エディション全体でスタンドアロンテープ装置 1台（ロボット機構のないテープ装置）までのサポートとなります（BEサーバ毎に1台ではありません）。
- Silver Editionは、エディション全体で最大4台のテープドライブを、スタンドアロンテープ装置、オートローダ機能付きテープ装置または仮想テープライブラリ装置にまたがって使用することができます（BEサーバ毎の台数ではありません）
- ベーシックメンテナンス（BM）、エッセンシャルサポート（ES）をお選びいただけます。

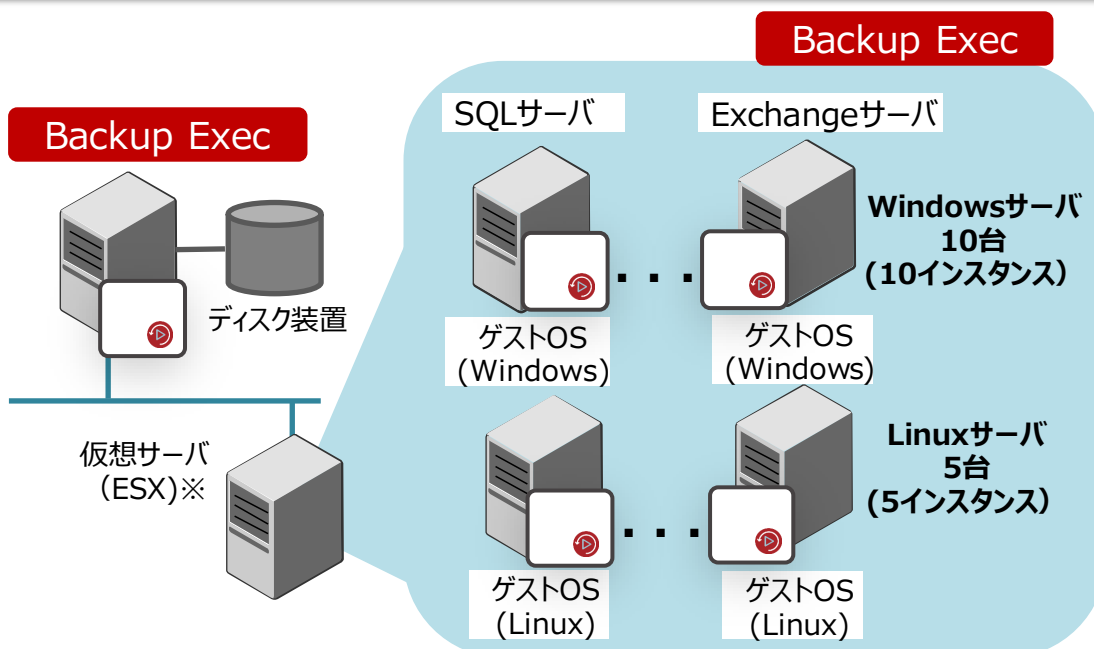
インスタンスライセンスのシナリオの例

例A:



お客様の環境とニーズ	お客様が購入する必要がある製品
<ul style="list-style-type: none"> <li>Backup Execサーバ×1台(物理)</li> <li>Windowsサーバ×3台(物理)</li> </ul>	<p><b>Backup Exec Bronze Instanceライセンス x 1</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>4インスタンスに対して1ライセンスの課金となります</li> <li>10インスタンス以内であれば、1ライセンスの課金で済みます</li> </ul>

例B:

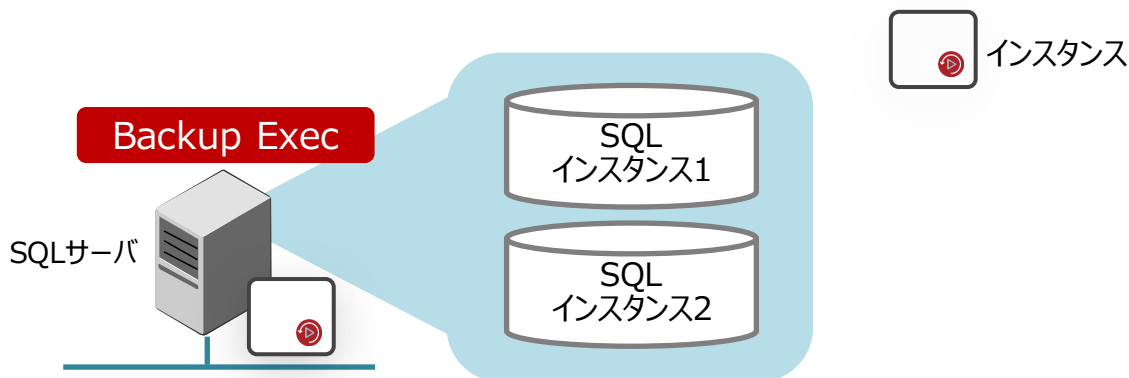


お客様の環境とニーズ	お客様が購入する必要がある製品
<ul style="list-style-type: none"> <li>Backup Execサーバ×1台(物理)</li> <li>Windowsサーバ×10台 (仮想)                             <ul style="list-style-type: none"> <li>- このうち、SQLサーバ、Exchangeサーバが2台</li> </ul> </li> <li>Linuxサーバ×5台 (仮想)</li> </ul>	<p><b>Backup Exec SilverまたはGold Instanceライセンス x 2</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>16インスタンスに対して、2ライセンスの課金となります</li> <li>SQL/Exchangeサーバのバックアップに必要なアプリケーション&amp;データベースエージェント、Linuxのバックアップに必要なLinux/Unixエージェントは、Silver Edition以上が必要となります</li> <li>20インスタンス以内であれば、2ライセンスの課金で済みます</li> </ul>

※仮想サーバ (ハイパーバイザー) がVMware ESXの場合、インスタンスのカウントに含まれません。但し、Hyper-Vの仮想サーバは、Windowsサーバと同様の扱いとなるため、カウント対象となります。

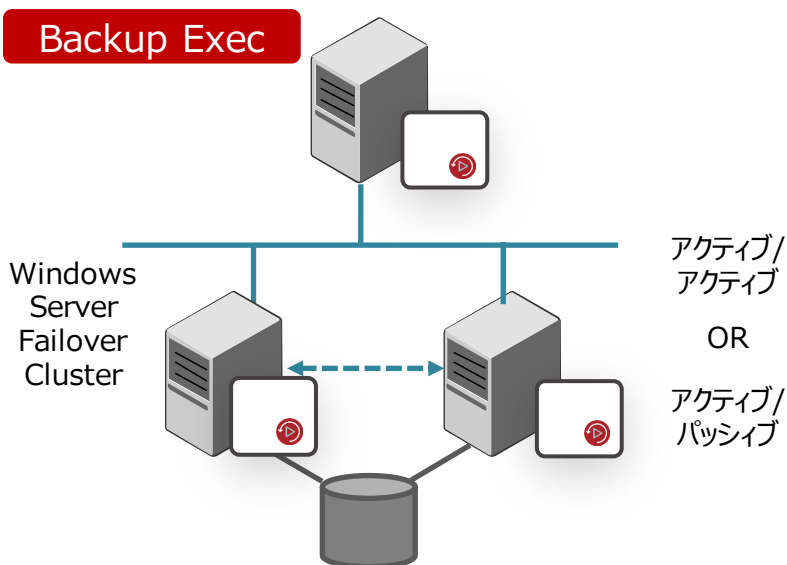
インスタンスライセンスのシナリオの例

例C:



お客様の環境とニーズ	お客様が購入する必要がある製品
<ul style="list-style-type: none"> <li>Backup Execサーバ × 1 台 (物理)</li> <li>Backup Execサーバと同一物理サーバ上にSQLサーバのDBインスタンスが2つ</li> </ul>	<p><b>Backup Exec Silverまたは Gold Instanceライセンス x 1</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>SQLサーバのDBインスタンス数に関係なく、マシンは1台しかないなので、この場合もインスタンス数は「1」となります</li> <li>1インスタンスに対して、1ライセンスの課金となります</li> <li>SQLサーバのバックアップを行うためのアプリケーション&amp;データベースエージェントが必要なため、Silver Edition以上が必要となります</li> <li>10インスタンス以内であれば、1ライセンスの課金で済みます</li> </ul>

例D:



お客様の環境とニーズ	お客様が購入する必要がある製品
<ul style="list-style-type: none"> <li>Backup Execサーバ×1台 (物理)</li> <li>2ノードのWindowsクラスタ構成 (物理)</li> </ul>	<p><b>Backup Exec Bronze Instanceライセンス x 1</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>それぞれのクラスタノードもカウントの対象となります</li> <li>3インスタンスに対して、1ライセンスの課金となります</li> <li>10インスタンス以内であれば、1ライセンスの課金で済みます</li> </ul>

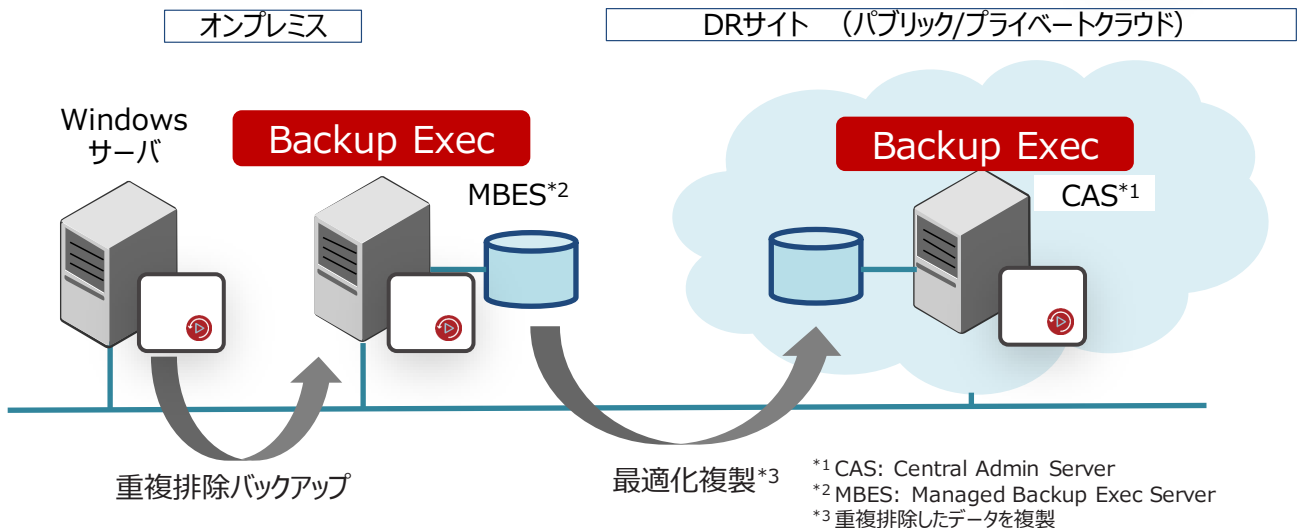


インスタンスライセンスのシナリオの例

例E:



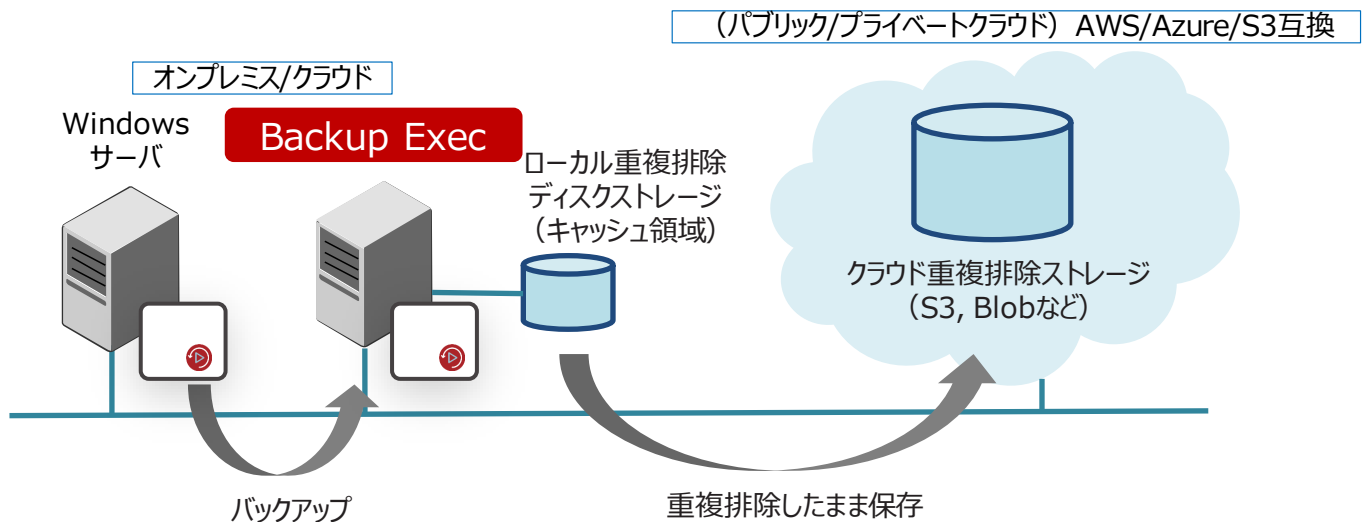
インスタンス



お客様の環境とニーズ	お客様が購入する必要がある製品
<ul style="list-style-type: none"> <li>Backup Execサーバ × 1 台(物理)</li> <li>災害対策用の複製先 Backup Execサーバ × 1 台(仮想)</li> <li>バックアップ対象のWindowsサーバ × 1台(物理)</li> </ul>	<p><b>Backup Exec Gold Instanceライセンス × 1</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>3インスタンスに対して、1ライセンスの課金となります</li> <li>災害対策など、バックアップデータの複製を行なうにはEnterprise Server OptionのCAS(Central Admin Server)機能が必要となるため、Gold Editionが必要となります</li> <li>10インスタンス以内であれば、1ライセンスの課金で済みます</li> </ul>

## インスタンスライセンスのシナリオの例

例F:



お客様の環境とニーズ	お客様が購入する必要がある製品
<ul style="list-style-type: none"> <li>Backup Execサーバ × 1台</li> <li>バックアップ対象のWindowsサーバのバックアップをクラウド重複排除ストレージに直接保存</li> </ul>	<p><b>Backup Exec SilverまたはGold Instance ライセンス x 1</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Backup Execサーバの1インスタンスとWindowsサーバの1インスタンスの合計2インスタンスがカウントの対象となるため、1ライセンスの課金で済みます。</li> </ul> <p>※クラウド重複排除機能を利用するためには、Silver/Gold Editionのライセンス、Simpleライセンスが必要となります。またBackup Exec 21.3以上が必要となります。</p> <p>※Bronze Edition、単体ライセンス、V-Ray Editionではクラウド重複排除機能はご利用いただけません。</p>



## インスタンスライセンスに関する一般的なFAQ

**Q. インスタンスライセンスと容量ライセンスをBackup Execサーバ、またはBackup Exec集中管理サーバ、およびそれらの配下で管理されるバックアップ対象サーバで混在利用できますか？**

A. 混在はできません。ただし、Backup Execサーバ、またはBackup Exec集中管理サーバ、およびそれらの配下で管理されるバックアップ対象サーバを完全に分離し、独立して構築することは可能です。

**Q. 異なるエディションのインスタンスライセンスをBackup Execサーバ、またはBackup Exec集中管理サーバ、およびそれらの配下で管理されるバックアップ対象サーバに導入することはできますか。**

A. できません。導入するインスタンスライセンスは、すべて同じエディションで揃える必要があります。

**Q. インスタンスライセンスは単体ライセンスやV-Ray Editionといった他のライセンスモデルと組み合わせ導入することはできますか。**

A. できません。ご利用のエディション(例: Bronze)を機能拡張させたい場合は、上位エディション(例: Silver/Gold)へのクロスグレードSKUを用意していますのでこちらをご購入ください。

**Q. インスタンスライセンスは1ライセンスにつき10インスタンスが購入単位となっていますが、2インスタンスしか必要ありません(Backup Execサーバ1台、Windowsサーバ1台)。2インスタンス分のライセンスのみを購入することは可能でしょうか。**

A. できません。例え2インスタンスでも、最低10インスタンス単位での購入が必要となります。余ったインスタンスは、将来拡張用に使用するか、インスタンスライセンスがご予算や用途に合わなければ、他のライセンス体系をご検討ください。

**Q. 単体ライセンスの有効なメンテナンス契約を保有していますが、Bronze, SilverまたはGold Editionのインスタンスライセンスに切り替えたいと考えていますがこれは可能ですか？**

A. できません。単体ライセンスからインスタンスライセンスへのクロスグレードには現在対応しておりません。単体ライセンスからBronze/Silver/Gold Editionの容量ライセンスへのクロスグレードは可能です。

**Q. NDMPサーバ (NAS)はインスタンスとしてカウントされるのでしょうか。**

A. はい、バックアップ対象であるNDMPサーバ (NAS)もインスタンスとしてカウントされます。CIFS共有ボリューム (¥¥マシン名¥共有名)もインスタンスとしてカウントされます。

**Q. メインサイトが1つ、リモートサイトが2つあります。メインサイト用にGold Editionを購入し、リモートサイト用にSilver Editionを購入できますか？**

A. できません。連携するすべてのサイトに対して同じ種類のライセンスを購入する必要があります。Backup Execサーバ、またはBackup Exec集中管理サーバ、およびそれらの配下で管理されるバックアップ対象サーバで必要とするインスタンスライセンスを購入し、必要なインスタンスを割り当てることができます。サーバは統合管理されている必要はありません。

**Q. Backup Execの管理コンソールに表示される「利用可能な数」と「割り当て済みの数」の違いは何でしょうか？**

A. Backup Execでは必要とするインスタンス数分のライセンスを購入して、それぞれのBackup Execサーバに異なる数のインスタンスを割り当てることができます。例えば、50インスタンス分のライセンスをまとめて購入、複数のBackup Execサーバに割り当てることができます(サーバAには10インスタンス、サーバBとCには5インスタンスずつ、サーバDには20インスタンス)。この例ですと、利用可能な50インスタンスをサーバ4台に40インスタンス割り当てたこととなります。割り当て済みのサーバは統合管理されている必要はありません。

## 容量ライセンス (Bronze/Silver/Gold)のシナリオの例

### 例A: Bronze Editionライセンス購入のシナリオ

お客様の環境とニーズ	お客様が購入する必要がある製品
<ul style="list-style-type: none"> <li>3TBのデータ (年間のデータ増加分を含む)</li> <li>Windowsファイルサーバのみのバックアップ (アプリケーション、データベースのバックアップは不要)</li> <li>重複排除機能が必要</li> </ul>	Backup Exec Bronze Capacity以上 x 3

### 例B: Silver Editionライセンス購入のシナリオ

お客様の環境とニーズ	お客様が購入する必要がある製品
<ul style="list-style-type: none"> <li>10TBのデータ (年間のデータ増加分を含む)</li> <li>Windows/Linux混在環境</li> <li>SQLとExchangeのバックアップ</li> <li>重複排除機能が必要</li> </ul>	Backup Exec SilverまたはGold Capacity x 10

### 例C: Gold Editionライセンス購入のシナリオ

お客様の環境とニーズ	お客様が購入する必要がある製品
<ul style="list-style-type: none"> <li>7TBのデータ (年間のデータ増加分を含む)</li> <li>バックアップサーバの統合管理 (CAS構成)</li> <li>コールドDRサイトへのデータの最適化複製</li> </ul>	Backup Exec Gold Capacity x 7

### 例D: Bronze Editionライセンス購入のシナリオ (DRサイトにデータをレプリケート)

お客様の環境とニーズ	お客様が購入する必要がある製品
<ul style="list-style-type: none"> <li>2TBのデータ (年間のデータ増加分を含む)</li> <li>ISP/パートナーがホストしているコールドDRサイトへのデータの複製</li> </ul>	Backup Exec Bronze Capacity以上 x 2

### 例E: Silver Editionライセンス購入のシナリオ (追加購入)

お客様の環境とニーズ	お客様が購入する必要がある製品
<ul style="list-style-type: none"> <li>10TBのSilverライセンスに2TB追加</li> </ul>	Backup Exec Silver Capacity以上x2を追加購入

## Capacity Edition/Capacity Edition Liteの追加資格について

Capacity Edition / Capacity Edition Liteをお使い続けていて、有効な保守契約をお持ちのお客様は、Gold Edition / Silver Editionの永続ライセンスを取得する権利が与えられています。お客様は、Veritasサポート（VEMSポータル）からソフトウェアのダウンロード、ライセンスキーファイルの入手が可能です。VEMSのポータルには、「BE21 Gold/Capacity Edition」または「BE21 Silver/Capacity Lite Edition」と表示されます。尚、インスタンスライセンスへのクロスグレード（移行）には対応しておりません。

### 追加資格のサマリ

既存製品	ライセンスメーター	数量	追加資格	ライセンスメーター	数量
Capacity Edition	FETB	1	Gold Edition	FETB	1
Capacity Edition Lite	FETB	1	Silver Edition	FETB	1

## 容量ライセンスに関する一般的なFAQ

### Q. 何 TB 購入すればよいですか？

A. 今後 1 年以内にバックアップするフロントエンドデータ（非圧縮で重複排除されていないデータ）の量に応じたライセンスを購入する必要があります。バックアップする必要があるデータの量が増加すると思われるものの、どの程度増加するかわからない場合は、一般的な目安として 20% のデータ増加率を考慮し、その量を購入する合計 TB に含めることをお勧めします。以下の表を目安として参照してください。

現在のTB	推奨される購入TB
1	2
2	3
3	4
4	5
5	6
10	12

### Q. Bronze Editionを検討中で、後からオートローダーを追加する可能性がある場合、単体ライセンスを追加購入することは可能か？

A. できません。容量ライセンスを他のライセンスモデル(単体ライセンス、V-Ray Edition)と組み合わせることはできません。この場合は、Library Expansionオプションが必要であれば、Bronze Editionではなく、SilverまたはGold Editionを購入してください。

### Q. メインサイトが 1 つ、リモートサイトが 2 つあります。メインサイト用に Gold Editionを購入し、リモートサイト用にSilver Editionを購入できますか？

A. いいえ。連携するすべてのサイトに対して同じ種類の容量ライセンスを購入する必要があります。システム全体で必要とするフロントエンドTB分のライセンスを購入し、それぞれのサーバに容量を割り当てるができます。サーバは統合管理されている必要はありません。詳細は、「容量ライセンスの割り当て」のセクションをご参照ください。

### Q. BronzeまたはSilver Editionを購入し、その後、より多くの機能が必要になった場合、SilverまたはGold Editionにアップグレードできますか？

A. はい。Bronze EditionからSilver Edition、Silver EditionからGold Edition、Bronze EditionからGold Editionにアップグレードできます。アップグレードを簡単に行うためのクロスグレードSKUを用意しています。

### Q. 単体ライセンスの有効なメンテナンス契約を保有していますが、Bronze, SilverまたはGold Editionに切り替えたいと考えています。これは可能ですか？

A. はい。容量ライセンスではない旧Backup Exec ライセンスをご購入で、有効なメンテナンス契約または既に契約が失効しているお客様も、容量ライセンスに移行できます。「容量ライセンスへの移行」に関するセクションを参照してください。尚、単体ライセンスからインスタンスライセンスへの移行には現在対応しておりません。

**Q. 他に利用可能なライセンスオプションはありますか？**

A. はい。先ほどご説明したBronze/Silver/Gold Editionのインスタンスベースの課金ライセンス、そしてこれまでの単体ライセンスも引き続き利用可能です。

**Q. Backup Execの管理コンソールに表示される「利用可能」ライセンスと「割り当て済み」ライセンスの違いは何でしょうか？**

A. Backup Execでは必要とする総容量分のフロントエンドTBのライセンスを購入して、それぞれのBackup Execサーバに分割して利用することが可能です。例えば、15TB分のライセンスをまとめて購入、複数のBackup Execサーバに分割して利用することができます(5TBをサーバA、3TBをサーバBとC、4TBをサーバD)。この例ですと、15TB利用可能な容量をサーバ4台に割り当てたこととなります。いずれかのサーバに容量をさらに追加するには、既存と同じBronze/Silver/Gold Editionの容量ライセンスを購入しなければなりません。この例ですと、2TBの追加ライセンスを購入した場合、17TBが利用可能で、15TBが割り当て済みとなっています。割り当て済みのサーバは統合管理されている必要はありません。

**Q. 契約した容量ライセンスを超える容量を使用した場合、どうなりますか？**

A. 契約した容量の15%を30日間連続で超えた場合、バックアップジョブを実行することができなくなります。但し、本製品を使ってバックアップデータのリストアを行うことはできます。バックアップ機能を正常に戻すため、容量ライセンスの追加発注を推奨します。追加発注に関してはご担当営業までご連絡ください。

**Q. Capacity Edition / Capacity Edition Liteの有効なメンテナンス契約を保有していますが、Bronze, SilverまたはGold Editionに切り替えたいと考えています。これは可能ですか？**

A. 可能です。Capacity Edition / Capacity Edition Liteを保有するお客様は、Gold Edition / Silver Editionを取得する権利が自動的に付与されています。Backup Exec 23にアップグレードするお客様は、Veritasサポート（VEMSポータル）からソフトウェアのダウンロード、ライセンスキーファイルの入手が可能です。尚、Capacity Edition / Capacity Edition Liteは、2020年7月6日を持ちまして、ライセンスの提供を終了しました。

**Q. 1つのお客様で、容量ライセンスと単体ライセンスをBackup Execサーバ、またはBackup Exec集中管理サーバ、およびそれらの配下で管理されるバックアップ対象サーバで混在利用できますか？**

A. 混在はできません。但し、Backup Execサーバ、またはBackup Exec集中管理サーバ、およびそれらの配下で管理されるバックアップ対象サーバを完全に分離し、独立して構築することは可能です。

## 従来のパッケージとライセンス

### 単体ライセンス (Custom Edition)

物理環境や仮想環境、バックアップニーズに応じて必要なエージェントとオプションを選択し、ニーズに応じたバックアップソリューションを構築および構成できます。

製品	ライセンス単位	詳細
Backup Execサーバ	Backup Execサーバ	<p>Backup Execサーバは、バックアップ環境（エージェント／オプション）とバックアップに使用されるすべてのテープ／ディスクのストレージデバイスを管理します。各 Backup Exec 環境に、少なくとも1つの Backup Execサーバが必要です。</p> <p>各 Backup Execサーバライセンスには、Backup Execサーバ自身のローカルの保護用として Windows エージェントの機能が含まれます。</p>
Windowsエージェント	Windowsサーバ	<p>バックアップ時にオープンされているファイルを保護可能です。システムのディザスタリカバリ用に Simplified Disaster Recovery 用のバックアップを取得できます。</p> <p>Active Directory のドメインコントローラーも保護可能です。(AD全体のリカバリのみ対応)</p> <p>NASのCIFS共有をWindowsのファイルサーバと見立ててバックアップする際にも、このライセンスを利用します。</p> <p>注) CIFS共有をBackup Execサーバにネットワークドライブとして接続しても、Backup Execサーバのローカルのバックアップ対象には出来ません。</p>



製品	ライセンス単位	詳細
<p>アプリケーション &amp; データベースエージェント (略称App&amp;DB)</p> <p>この製品セクションは次ページへ続きます</p>	<p>アプリケーションサーバ台数/データベースインスタンス数</p> <p>注) システム内のバックアップ対象の合計数量分購入します。</p>	<p>次のアプリケーションを保護します。</p> <p>Microsoft SQL Server Microsoft Exchange Server Microsoft SharePoint Active Directory(オブジェクト単位のリカバリ) Oracle Enterprise Vault</p> <p>各アプリケーション&amp;データベースエージェントライセンスには次のものが含まれます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>•WindowsまたはLinuxエージェント × 1</li> </ul> <p>注1) Linux上のOracleの保護時のみ、Linuxエージェントを利用可能です。</p> <p>注2) Windows/Linux エージェントのライセンスを分離して他のサーバの保護に利用することは出来ません。</p> <p><u>Microsoft Exchange Server</u> 個々のメール、フォルダ、メールボックスを数秒でリストアします。1種類のバックアップジョブで対応できるため、バックアップジョブの種類を減らし、リカバリ時間を短縮します。これにより、完全なExchangeリカバリ、個々のメールボックスのリカバリ、個々のメールのリカバリが可能です。2ノードのアクティブ/パッシブクラスタサーバ構成の場合は、アクティブノードのみライセンスが必要です。</p> <p>Exchange DAG ( Database Availability Group ) 環境のライセンスを取得する場合は、Exchangeエージェント用のライセンスがDAG内の各Exchangeサーバで必要になります。Client Access Server (CAS) としてのみ機能するExchange サーバにはライセンスは必要ありません。ただし、Windows エージェントがインストールされている必要があります。</p>

製品	ライセンス単位	詳細
<p>アプリケーション &amp; データベースエージェント (略称App&amp;DB)</p> <p>この製品セクションは次ページへ続きます</p>	<p>アプリケーションサーバ台数/データベースインスタンス数</p> <p>注) システム内のバックアップ対象の合計数量分購入します。</p>	<p><u>Active Directory*</u> 個々の Active Directoryオブジェクト、ユーザー設定などを、Active Directoryドメインコントローラーを再起動せずにリストアします。2ノードのアクティブ/パッシブクラスタサーバ構成の場合は、アクティブノードのみライセンスが必要です。 *Active Directory全体のリカバリは、Windows エージェントのみで対応できます。</p> <p><u>Microsoft SQL Server</u> ローカルまたはリモートのバックアップ先からデータを迅速にリストアします。最新の変更データをリカバリします。1種類のバックアップジョブで、完全なインスタンス、個々のデータベース、およびファイルグループのリカバリが可能です。2ノードのアクティブ/パッシブクラスタサーバ構成の場合は、アクティブノードのみライセンスが必要です。インスタンス単位で購入します。</p> <p><u>Microsoft SharePoint</u> 個々の SharePointオブジェクトとドキュメントを数秒で処理するきめ細かなりカバリが可能です。SharePoint ServerとSharePoint Servicesを柔軟にサポートします。ファーム環境の場合、コンテンツデータベースを保護するために1エージェントが必要です。SharePointファームの追加メンバー（Webサーバ、インデックスサーバ、クエリサーバ、SQLサーバなど）ごとに、個別のWindowsエージェントライセンスが必要になります。2ノードのアクティブ/パッシブクラスタサーバ構成の場合は、アクティブノードのみライセンスが必要です。 SharePointファームにおいて、SQLサーバが非SharePointデータもホストする場合、その非SharePointデータベースデータを保護するためのアプリケーション &amp; データベースエージェントのライセンスも必要になります。</p>



製品	ライセンス単位	詳細
アプリケーション & データベースエージェント (略称 App&DB)	アプリケーションサーバ 台数/データベースインスタンス数  注) システム内のバックアップ対象の合計数量分購入します。	<p><u>Oracle</u> バックアップとリカバリ操作のためのOracle RMANテクノロジーと統合します。バックアップジョブを作成するだけで、自動的にRMANスクリプトが生成されます。マルチストリームサポートでパフォーマンスが向上します。WindowsプラットフォームとLinuxプラットフォームの両方をサポートしています。インスタンス単位で購入します。</p>
		<p><u>Enterprise Vault</u> Enterprise Vaultアーカイブのデータを保護し、個々のPartitionファイルやIndexを数秒でリカバリします。Enterprise Vaultアプリケーション向けのバックアップ、リカバリ、アーカイブの統合ソリューションです。このエージェントは、Enterprise Vaultサーバ環境（サーバ構成、ボルト、データベース）の保護を提供します。メールのリカバリはできません。</p>

製品	ライセンス単位	詳細
VMware & Hyper-V エージェント	仮想ホストサーバ  注) 複数台の仮想ホストが存在する場合、バックアップ対象の仮想マシンが稼動するすべてのホスト台数分のライセンスが必要	<p>ゲスト仮想マシンのデータを保護します。仮想マシンの台数に制限はありません。VMware vSphere vStorage API およびMicrosoft Volume Shadow Copy Service (VSS) との統合により、バックアップ / リカバリのパフォーマンスが最大化されます。VMware と Hyper-V のきめ細かなデータリカバリにより、時間を節約し、コストを削減します。vStorage API、vCenter、vMotion、ESX/ESXi、VSAN、VVOL、VMware Toolsを含むすべての主要 VMware テクノロジをサポートし、統合します。</p> <p>Backup Exec が提供するインスタントリカバリは、数分での仮想マシンの起動を可能にするリカバリ手法です。Granular Recovery Technology (GRT) は、ゲスト仮想マシン全体をリストアせずに、ゲスト仮想マシン内部の個々のファイルとフォルダをリストアする機能を提供します (GRTは Windows ゲストマシンでのみ利用可能です。Linux OS ゲストマシン用の GRT は、VMware の制限のため、現在のところ利用できません)。</p> <p>VMware &amp; Hyper-V エージェントの各ライセンスには、Windows エージェントと Linux/Unix エージェントを無制限に導入する権利が含まれます。これらのエージェントは、特定の ESX/Hyper-V サーバホスト上の仮想マシンでのみ使用できます。Exchange メールやSQLデータベースなどのアプリケーションデータのきめ細かなリカバリには、適切なアプリケーションエージェントがインストールされていることが必要です。アプリケーションサーバには、アプリケーションごとの個別のアプリケーション &amp; データベースエージェントライセンスが必要になります。たとえば、Exchange を実行する 3 つの仮想マシンと SQL を実行する 2 つの仮想マシンがある場合、お客様は、アプリケーション &amp; データベースエージェントを5 ライセンス購入する必要があります。</p> <p>特例として、ライセンス対象の Hyper-V のホストとなっている Windows 物理サーバに、Windows エージェントをインストールして保護する権利も含まれています。</p>

製品	ライセンス単位	詳細
Linux/Unixエージェント	Linux/Unixサーバ	サポート対象の Linuxディストリビューションに対してファイルとフォルダのデータ保護とオープンファイル保護を提供します。Linux/Unix のメジャーバージョンを保護します。
Linux Server リモートメディアエージェント (略称 RMAL)	リモートメディアサーバとして導入される Linux Server	Backup Exec for Windows Server 環境で実行されるLinux サーバのバックアップに柔軟なストレージ構成を提供します。リモートの Linux サーバにストレージデバイス (テープまたはディスク) を直接接続、またはSAN環境に接続可能とすることで、ストレージ構成の柔軟性が増し、リモートの Linux サーバのバックアップジョブに必要なネットワーク帯域幅を削減します。ジョブ構成と管理のための Windows 上の Backup Exec Server が必要です。

製品	ライセンス単位	詳細
Library Expansionオプション(略称 LEO)	<p>テープデバイス(ドライブ)</p> <p>※) 複数ドライブ内蔵ライブラリの2台目以降のテープドライブを対象に課金</p>	<p>マルチドライブのテープライブラリやオートローダー、または仮想テープライブラリ (VTL) 内の追加ドライブをサポートします。それぞれのデバイスへのバックアップ先の割り振りを簡単に管理します。</p> <p>ライブラリ内の 1 台目のドライブ用のライセンスは、Backup Exec Server に含まれています。2 台目以降の各ドライブは、ドライブごとに追加のLibrary Expansion オプション (LEO) を必要とします。複数の共有ライブラリがある環境では、各ライブラリの 1 台目のドライブは無料です。2 台目以降の各ドライブにはLEOが必要です。仮想テープライブラリ (VTL) は、物理テープライブラリと同じ方法でライセンスを取得する必要があります。または、Virtual Tape Library Unlimited Drive Option (VUDO) を購入できます。なお、スタンドアロンのテープドライブではLEOは不要です。</p>
VTL Unlimited Driveオプション(略称 VUDO)	<p>仮想テープライブラリ(仮想ライブラリ単位)</p> <p>※) VTLの筐体単位のライセンスではないことにご注意ください。VTL内の“仮想ライブラリ”単位のライセンスです。</p>	<p>Backup Exec サーバに接続されている仮想テープライブラリ (VTL) 内の 1 台の仮想テープライブラリ内のテープドライブを台数無制限にサポートします。共有されている1つのVTLに VUDO のライセンスがある場合、その 1つのライセンスを複数の Backup Exec サーバで使用できます。ただし、VTL を複数の Backup Exec サーバで共有するには、Enterprise Server オプションが必要です。VUDO のライセンスがない場合、各VTLは、物理テープライブラリと同じ方法で LEO を購入する必要があります。1 台のテープドライブによるVTLは、物理テープライブラリ/オートローダーと同じ方法でサポートされ、1 台目のドライブは無料になります。</p> <p>1 筐体のVTL 内に複数の仮想ライブラリを構築する場合、仮想ライブラリ単位で VUDO オプションが必要です。</p>

製品	ライセンス単位	詳細
Enterprise Server オプション (略称 ESO)	管理対象の Backup Execサーバ環境	<p><b>集中管理サーバ(CASO)</b>            1箇所から複数の Backup Exec サーバを管理することでシンプルに管理できます。Backup Exec サーバの負荷分散によってジョブの耐障害性が向上します。お客様は、SAN/iSCSI ハードウェアを複数の Backup Exec サーバで共有することで、最大限に利用できます。SAN 環境上で、ライブラリ内のテープドライブをさまざまな Backup Exec サーバと共有します。Backup Execサーバ間でバックアップデバイスも共有します。複数の Backup Execサーバでのテープデバイスの共有時、同時アクセスを制御します。集中管理サーバ、SAN上でのストレージの共有、および Advanced Disk-based Backup 機能が含まれます。            20台以上の Backup Execサーバを管理する場合は、集中管理を実行する Backup Execサーバに、SQL Serverのフルバージョン（Express Edition 以外の製品版）をインストールする必要があります。            データとライブラリがSAN環境上に存在していれば、バックアップトラフィックがSANを経由するとお考えのお客様もいらっしゃるかもしれませんが、バックアップトラフィックのためにSANを利用するには、保護されるサーバを Backup Execサーバにアップグレードし、独自のローカルバックアップを実行する必要があります。</p>
		<p><b>Advanced Disk-based Backup(ADBO)</b>            合成バックアップの機能により、サポートされるリモートリソース（ファイルシステム）に対して定期的なフルバックアップを実行する必要がなくなります。ディレクトリの内容を、フルまたは増分バックアップ時点での状態にリストアします。重要なデータセットの管理とリストアを単純化します。週単位のバックアップ時間を短縮します。            また、バックアップ処理をホストコンピュータから Backup Execサーバへ移行できます。オフホストバックアップには、サードパーティのハードウェアスナップショットユーティリティが必要です。             注) ESOでADBO機能のみを利用する場合（CASO/SSO を利用しない場合）は、ESO 1ライセンスで Backup Execサーバ5台までADBO機能を利用可能</p>
		<p><b>SAN Shared Storage Option (SSO)</b>            SAN接続されている複数の Backup ExecサーバからSAN経由（FC/iSCSI）でストレージデバイス（テープ装置、ディスク装置など）に共有アクセスすることを可能にします。            ・SAN接続でも、BEサーバ1台（テープ装置非共有）の場合、SSOオプションは不要です。</p>

製品	ライセンス単位	詳細
NDMP オプション	NDMPベースのNASデバイス（コントローラ単位）	<p>NDMP に対応したNetApp、EMC Celerra、およびIBM NシリーズなどのNASのバックアップとリストアをサポートします。ダイレクト/リモート/3-Wayのバックアップ方式をサポートします。SAN（ストレージエリアネットワーク）構成内を含むリモートロケーションに存在する NDMPデバイスを保護します。NDMPファイラデータをテープに自動で複製します。ディスクベースのデータ保護用に選択できるディスクの数が増加します。</p> <p>クラスタ化された NAS デバイスは、クラスタ内の「アクティブ」ノードの NDMP ライセンスのみを必要とします。両方のNASデバイスに保護対象の同じデータが含まれるためです。</p>
重複排除オプション	Backup Execサーバ	<p>ストレージとネットワーク帯域幅を最適化して、データ削減戦略をサポートします。3種類の重複排除方法をサポートします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クライアント側での重複排除</li> <li>・Backup Execサーバ側での重複排除</li> <li>・OST対応ストレージでの重複排除</li> </ul> <p>Backup Execサーバでの重複排除とWindows エージェントまたはLinuxエージェントがインストールされているリモートコンピュータでの重複排除を組み合わせることで利用可能です（Unixクライアントの重複排除は現時点では未対応です）。また、仮想マシンのバックアップ時に、仮想ディスク内のファイルを認識することで、重複排除効率を向上させています。</p> <p>※Backup Execの重複排除機能を使わず、OSTデバイス上のボリュームを通常のディスクストレージ（B2DディスクとしてCIFS共有）として使用する分には、たとえOSTデバイス側でメーカー固有の重複排除処理が行われている場合でも、重複排除オプションは必要ありません。</p>



---

## 単体ライセンスに関するFAQ

**Q. シンプルな容量ライセンスへの移行に関心があります。**

**容量ライセンスへアップグレードするためのクロスグレード SKU はありますか？**

A. はい。有効なメンテナンス契約をお持ちのお客様に、容量ライセンスへのアップグレードをご提案しています。またメンテナンス契約が失効しているお客様には、Expired Maintenance Upgrade SKUをご用意しています。詳しいことは「容量ライセンスへの移行」セクションを参照してください。

**Q. バックアップ対象サーバのハードウェアをリplacesします。旧サーバ上のソフトウェアをアンインストールし、新サーバ上にインストールして利用することは可能ですか？**

A. はい、可能です。ライセンス所有者である同一のお客様内のシステムであれば、ライセンス対象のハードウェアを変更することは可能です。



## 仮想環境用CPUライセンス V-Ray Edition

V-Ray Edition は仮想環境向けのCPU課金のライセンスです。  
単体ライセンスと組み合わせて利用することも可能です。

ライセンス単位	詳細
<p>対象仮想ホスト上の搭載CPU数</p> <p>注) 空ソケットは対象外。 CPU上のコア数は関係しません。</p> <p>注) V-Ray Editionが適用できる仮想ホスト（ハイパーバイザー）は、VMware(vSphere)とHyper-Vのみとなります。こちら以外の仮想ホスト（例: Linux KVM, AHV, XenServerなど）には適用できません。</p>	<p>V-Ray Edition の<b>対象仮想ホスト1台あたり</b>、以下のライセンスが利用可能。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Backup Execサーバ 1台</li> <li>VMware &amp; Hyper-V エージェント 1台(※1)、(※2)</li> <li>アプリケーション &amp; データベース エージェント 台数無制限(※1)</li> <li>重複排除オプション</li> </ul> <p>(※1) 各エージェントは、ライセンス対象の仮想ホスト上で稼動する仮想ゲストにのみ利用可能。他の仮想ホスト、仮想マシン、物理マシン用には利用不可。</p> <p>(※2) 対象仮想ホスト上で稼動する仮想マシンに対して、台数制限なくWindows/Linux エージェントを利用可能。</p> <p>クラスタ化された仮想ホストの場合、その全ノードの合計CPUソケット数分のライセンス購入が必要。</p> <p>Backup Execサーバのライセンスは物理または仮想マシンのいずれかに導入することができます</p> <p>物理マシンの保護用などに、必要な単体ライセンス（エージェント/オプション）の追加購入が可能。</p> <p>注) Hyper-V ホストの Windowsサーバの保護用の、Windows エージェントの権利を含みます。</p>

### 必要なV-Ray Editionのライセンス数

仮想ホストの搭載CPU数	必要なV-Ray Editionのライセンス数
1	1
2	2
4	4
8	8

## V-Ray EditionのFAQ

### Q. V-Ray Edition は物理環境を保護できますか？

A. V-Ray Edition に含まれるBackup Execサーバと重複排除オプションのみ、物理環境の保護に利用可能です。必要な物理環境用のエージェントやオプションを追加購入してください。

(注)個別追加する単体ライセンスのライセンスメーターは、単体ライセンスの説明を参照ください。

### Q. V-Ray Edition は、物理環境にBackup Execサーバを構築できますか？また、そのBackup Execサーバ自身を保護できますか？

A. はい、どちらも可能です。 V-Ray Editionに含まれるBackup Exec基本ライセンスをインストールするサーバは、物理サーバ/仮想マシンのどちらかを選択できます。

### Q. お客様は、V-Ray Edition からの容量ライセンスに移行できますか？

A. はい、できます。詳細は「容量ライセンスへの移行」セクションをご参照ください。

### Q. 仮想ホスト上のCPUのコア数は、ライセンス計算に関係しますか？

A. 関係しません。以前の Backup ExecのバージョンのV-Ray Editionでは、CPUのコア数に基づくTierが設定されていましたが、Backup Exec 16からTierが撤廃され、よりご購入いただきやすくなりました。

### Q. 仮想マシンのCPU数/コア数は、ライセンス計算に関係しますか？

A. 関係しません。V-Ray Editionのライセンスメーターは、対象仮想ホストのCPU数のみです。

### Q. よりシンプルな容量ライセンスに移行しようと思っています。Bronze/Silver/Gold EditionへのアップグレードSKUを購入することは可能でしょうか？

A. 可能です。メンテナンス契約が有効なお客様はクロスグレードSKUを、メンテナンス契約が既に失効されているお客様は、Expired Maintenance Upgrade SKUをご購入することで、Bronze/Silver/Gold Editionの容量ライセンスに移行できます。詳しいことは「容量ライセンスへの移行」セクションをご参照ください。

### Q. V-Ray Editionが適用可能な仮想ホスト（ハイパーバイザー）は、VMware/Hyper-Vのみでしょうか。他の仮想ホスト（例：Linux KVM、Nutanix (AHV), XenServerなど）には適用できないでしょうか。。

A. はい、V-Ray Editionが適用可能な仮想ホストはVMware (vSphere)とHyper-Vのみとなります。こちら以外の仮想ホストには適用できません。

**V-Ray Edition シナリオの例****例A：仮想環境のみの保護**

お客様の環境とニーズ	お客様が購入する必要がある製品
<ul style="list-style-type: none"> <li>仮想環境のみ保護</li> <li>2 CPU のESXi ホスト × 3</li> <li>仮想マシン × 15</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>V-Ray Edition × 6 ( 2 CPU × 3 台 = 6 ライセンス)</li> </ul>

**例B：仮想/物理混在の保護 パターン1**

お客様の環境とニーズ	お客様が購入する必要がある製品
<ul style="list-style-type: none"> <li>仮想環境と物理環境の保護</li> <li>2 CPU のESXi ホスト × 3</li> <li>仮想マシン × 25</li> <li>Windows ファイルサーバ (物理) × 3</li> <li>Linux/Unixサーバ (物理) × 1</li> <li>SQL Server (物理) × 1</li> <li>テープライブラリ × 1 (テープドライブ 10 台内蔵)</li> <li>重複排除を利用</li> <li>集中管理を利用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>V-Ray Edition × 6 ( 2 CPU × 3 台 = 6 ライセンス) Backup Execサーバを3台まで構築可能</li> <li>Windows エージェント × 3</li> <li>Linux/Unix エージェント × 1</li> <li>アプリケーション &amp; データベースエージェント × 1</li> <li>Library Expansionオプション × 9</li> <li>Enterprise Server オプション × 1</li> </ul>

**例C：仮想/物理混在の保護 パターン2**

お客様の環境とニーズ	お客様が購入する必要がある製品
<ul style="list-style-type: none"> <li>仮想環境と物理環境の保護</li> <li>2 CPU のESXi ホスト × 2</li> <li>仮想マシン × 20</li> <li>Windows ファイルサーバ (物理) × 1</li> <li>Linux/Unixサーバ (物理) × 1</li> <li>Oracleサーバ(物理) × 1</li> <li>テープライブラリ × 2 (テープドライブ 2 台内蔵)</li> <li>仮想テープライブラリ × 1 (テープドライブ 10 台内蔵)</li> <li>重複排除を利用</li> <li>集中管理を利用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>V-Ray Edition × 4 ( 2 CPU × 2 台 = 4 ライセンス) Backup Execサーバを2台まで構築可能</li> <li>Windows エージェント × 1</li> <li>Linux/Unix エージェント × 1</li> <li>アプリケーション &amp; データベースエージェント × 1</li> <li>Library Expansionオプション × 2</li> <li>VTL Unlimited Driveオプション × 1</li> <li>Enterprise Server オプション × 1</li> </ul>

**例D：クラスタ化された仮想環境の保護**

お客様の環境とニーズ	お客様が購入する必要がある製品
<ul style="list-style-type: none"> <li>仮想環境の保護</li> <li>2 CPU のESXi ホスト × 2</li> <li>2 ノードのクラスタ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>V-Ray Edition × 4 ( 2 CPU × 2 台 = 4 ライセンス)</li> </ul>

### 3. 容量ライセンスへの移行

V-Ray EditionおよびCustom Edition（単体ライセンス）から、Bronze/Silver/Gold Editionの容量ライセンス（永続版）への移行を、メンテナンス契約が有効なお客様に加えて、失効したお客様も対象として提供いたします。尚、Bronze、Silver、Gold Editionのインスタンスライセンスへの移行は現在対応しておりません。

#### 対象：

- メンテナンス契約が有効または失効したライセンスを保有
- 2018年4月2日より前に購入のライセンスのみ対象
- 移行の対象となるBackup Exec 製品とライセンスの交換比率は以下の通りとなります。

Backup Execサーバ, 1:1	BE Appliance Essential Protection Suite (ライフサイクル終了)*, 1:5
Windowsエージェント, 1:1	BE Appliance Total Protection Suite (ライフサイクル終了)*, 1:5
アプリケーション & データベースエージェント, 1:1	Macエージェント(ライフサイクル終了)*, 1:1
VMware & Hyper-V エージェント, 1:1	
Linuxリモートメディアエージェント, 1:1	
Linux/Unixエージェント, 1:1	
V-Ray Edition, 1:5	
Library Expansion オプション, 1:1	
Enterprise Server オプション, 1:1	
重複排除オプション, 1:1	
NDMPオプション, 1:1	
VTL Unlimited Drive オプション, 1:1	

\*これらの製品は販売及びサポートが終了していますが、上記の比率で容量ライセンス(1TB)と交換可能です。

#### 交換比率の例：

- Windowsエージェント 1ライセンスにつき、1TBの容量ライセンスと交換できます。
- V-Ray Edition 1ライセンスにつき、5TBの容量ライセンスと交換できます。

#### 条件（メンテナンス契約が有効なお客様）

- Bronze/Silver/Gold EditionのFETBクロスグレードSKUを購入します。お客様は、容量ライセンスのメンテナンス費用のみを支払い、ライセンスのアップグレード費用は免除されます。
- お客様は、Bronze/Silver/Gold Editionのどちらかを選んでアップグレードできます。
- お客様がメンテナンス契約の期間中に移行を希望される場合は、残りのメンテナンス期間を放棄する必要があります。未使用のメンテナンスに対するクレジット、返金はありません。
- お客様は、所有する移行対象のBackup Execライセンス数以下のTB数を購入することは可能です。必ず同数のFETBを購入する必要はありません。
- お客様が所有する移行対象のBackup Execライセンス数よりも多いTB数が必要な場合は、移行対象以外のライセンスを標準価格で追加購入できます。
- 移行対象として利用したBackup Execライセンスは破棄され、ご利用できなくなります。
- お客様は、既存のライセンスの購入証明書を添付する必要があります。受付可能な購入証明書はインストールベースID、更新サービス契約IDとなります。

**条件（メンテナンス契約が失効しているお客様）**

- Bronze/Silver/GoldのFETB Expired Maintenance Upgrade SKUを購入することで、メンテナンス契約が失効となったライセンスに対してお客様は、ライセンスを希望小売価格の35%OFF、メンテナンス費用は標準価格でご購入いただけます。
- お客様は、Bronze/Silver/Gold Editionのいずれかの容量ライセンス（永続版）へのアップグレードを選択できます。
- お客様は、所有する移行対象のBackup Execライセンス数以下のTB数を購入可能です。必ず同数のFETBを購入する必要はありません。
- お客様が、所有されている移行対象のBackup Execライセンス数よりも多い容量を必要とする場合は、移行対象以外のライセンスを標準価格で追加購入できます。
- 移行対象として利用したBackup Execライセンスは破棄され、ご利用できなくなります。
- Bronze/Silver/Gold EditionのExpired Maintenance Upgrade SKUは、必ずメンテナンス契約が失効となったライセンスを容量ライセンス（永続版）に移行する目的で使用しなければなりません。それ以外の目的で使用することは認めておりません。
- お客様は、既存のライセンスの購入証明書を添付する必要があります。受付可能な購入証明書はインストールベースID、更新サービス契約IDとなります。

**移行シナリオの例**

今日の日付を2019年12月5日と仮定しています。

**例A：**

お客様のライセンスとサポート期間

数量	ライセンス	オリジナルライセンスの購入日	サポート契約開始日	サポート契約終了日	サポート契約のステータス	特別クロスグレードの可否
1	Backup Exec サーバ	2016/07/01	2019/07/01	2020/07/01	有効	可
1	Windows エージェント	2016/07/01	2019/07/01	2020/07/01	有効	可
1	アプリケーション& データベース エージェント	2015/09/01	2019/09/01	2020/09/01	有効	可
1	VMware& Hyper-V エージェント	2016/09/13	2017/09/13	2018/09/13	無効	無
保守契約済み対象製品の合計数量						3
保守切れ対象製品の合計数量						1

このシナリオでは、お客様は最大で3TBのSilverまたはGold Editionの容量ライセンス（永続版）をクロスグレード価格で取得できます。ここでSilverまたはGold Editionを選択している理由は、「アプリケーション&データベースエージェント」がSilverまたはGold Editionにしか含まれていないためです。さらに1TBのSilverまたはGold Editionの容量ライセンス（永続版）をExpired Maintenance Upgrade価格で取得できます。

お客様の環境とニーズ	お客様が購入する必要がある製品
<ul style="list-style-type: none"> <li>2TBのデータ (データの増加見込み分が含まれます)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Backup Exec SilverまたはGold Edition Cross Grade x 2</li> <li>4TBを一括で購入する必要はありません</li> </ul>

**例B：**

お客様のライセンスとサポート期間

数量	ライセンス	オリジナルライセンスの購入日	サポート契約開始日	サポート契約終了日	サポート契約のステータス	特別クロスグレードの可否
2	Backup Exec サーバ	2016/10/01	2019/10/01	2020/10/01	有効	可
2	Windows エージェント	2016/05/01	2019/05/01	2020/05/01	有効	可
2	アプリケーション & データベース エージェント	2016/10/01	2019/10/01	2020/10/01	有効	可
1	VMware & Hyper-V エージェント	2017/03/01	2019/03/01	2020/03/01	有効	可
1	Enterprise Server オプション	2017/10/01	2019/10/01	2020/10/01	有効	可
1	重複排除 オプション	2016/08/01	2017/08/01	2018/08/01	無効	無
保守契約済み対象製品の合計数量						8
保守切れ対象製品の合計数量						1

このシナリオでは、お客様は、最大8TBのSilverまたはGold Editionの容量ライセンス（永続版）をクロスグレード価格で購入、1TBのSilverまたはGold Editionの容量ライセンス（永続版）をExpired Maintenance Upgrade価格で購入できます。

お客様の環境とニーズ	お客様が購入する必要がある製品
<ul style="list-style-type: none"> <li>10TBのデータ (データの増加見込み分が含まれます)</li> <li>集中管理が必要</li> </ul>	以下のように 10TB 分を購入します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>クロスグレードSKU 8TB分</li> <li>Expired Maintenance Upgrade SKU 1TB分</li> <li>通常のSKU (SilverまたはGold永続版) 1TB分</li> </ul>



## 容量ライセンス移行に関するFAQ

**Q. メンテナンス契約が有効な対象Backup Execライセンスが5つあります。容量ライセンスを5TB購入する必要がありますか？**

A. いいえ。容量ライセンスを5TBまで購入できます。必ず5TB購入しなければならないわけではありません。3TBのみ必要な場合は、必要な3TB分だけ購入できます。

**Q. 残りの対象Backup Execライセンスを、後日、特別なクロスグレード価格で容量ライセンスに交換できますか？**

A. はい。ただし、残りの単体ライセンスでメンテナンス契約が有効な場合のみです。期間満了後は、ライセンスは特別な移行の対象ではなくなります。

**Q. メンテナンス契約が有効な対象Backup Execライセンスが4つあり、容量ライセンスを5TB購入する必要がある場合はどうなりますか？**

A. 1TB は標準価格で購入する必要があります。

**Q. メンテナンス契約が期間満了したお客様が容量ライセンスに移行するための特別なクロスグレードSKUはありますか？**

A. クロスグレード用SKUはございません。メンテナンス契約が失効したお客様用のアップグレードSKUをご用意しています (Expired Maintenance Upgrade SKU)。こちらを購入することで、メンテナンス契約が失効となったライセンスに対してお客様は、ライセンス部分を希望小売価格の35%OFF、メンテナンス部分は標準価格でご購入いただけます。

**Q. 新規に単体ライセンスを購入し、その後、容量ライセンスへの移行を決めた場合はどうなりますか？特別なクロスグレードSKUを使用できますか？**

A. いいえ。特別なクロスグレードSKUは、**2018年4月2日以前**にBEライセンスを購入したお客様のみを対象としています。

**Q. 2018年4月2日より後に単体ライセンスを購入し、その後、容量ライセンスへの移行を決めた新規顧客のためのクロスグレードSKUはありますか？**

A. いいえ。新規のお客様には最初に容量ライセンスを購入していただく必要があります。

**Q. 移行後のメンテナンス契約の更新費用はどうなりますか？**

A. 移行前の単体ライセンスの更新費用ではなく、移行後のBronze/Silver/Gold Editionの更新費用が必要になります。

**Q. クロスグレードを購入する際に、所有ライセンスの証明書類の提出が必要ですか？**

A. はい、必要です。ライセンス証書のPDFファイル、ライセンス証書のコピー、インスタンス番号やサービス契約番号が記載された証書等をご用意ください。

## 4. アップグレードとその条件

既存のBackup Execのお客様の場合は、すでにインストールされているBackup ExecのバージョンをBackup Exec 23にアップグレードできます。ベリタスとのメンテナンス契約の状態によっては、Backup Exec 23に無償でアップグレードできる場合があります。無償アップグレード可能かの確認は、次の表を参照してください。

### アップグレードの条件:

メンテナンス契約の状態	説明
Backup Execのメンテナンス契約が有効なお客様	Backup Execのいずれかのバージョンを所有し、かつ最新のメンテナンス/サポート契約をお持ちのお客様は、メンテナンス契約の対象に含まれる既存のバックアップライセンスのすべてをBackup Exec 23へ無償でアップグレードできます。
Backup Execのメンテナンス契約が失効しているお客様	<p>Backup Execのいずれかのバージョンを所有し、メンテナンス契約が失効しているお客様がBackup Exec 23にアップグレードするには、すべての既存のバックアップライセンスのバージョンアップグレードSKU（ライセンス部分はMSRPの35%割引）を購入する必要があります。</p> <p>現在、サポート/メンテナンス契約は遡及更新も可能です。アップグレードを購入するより低いコストでアップグレード可能な場合があります。購入元/仕入れ元の販売店様経由でお見積もりを取得頂きます。</p>

注1) インプレースのアップグレードを実行する場合、既存環境がBackup Exec 23でサポートされているか、予めご確認ください。

注2) 有償、もしくは無償のアップグレードを実施される場合、アップグレード先の新バージョンを利用する権利だけになり、旧バージョンを使用する権利は消失します。旧バージョンを恒久的に継続利用することは出来ません。新旧両方のバージョンを継続利用/保持する必要がある場合は、新バージョンは新規購入してください。

## アップグレードの仕組み:

お持ちのBackup Exec製品	Backup Exec 23へのアップグレード
メンテナンス契約をお持ちのお客様 (Backup Execの全バージョン)	
メンテナンス契約のあるBackup Execの全バージョン	<ul style="list-style-type: none"> <li>• VEMS経由で Backup Exec 23に無償でアップグレードできます。</li> <li>• Backup Exec 22とそれ以前のライセンスキーはBackup Exec 23では使用できません。</li> <li>• Backup Exec 21以上を使用中のお客様はBackup Exec 23に 直接アップグレードできます。</li> <li>• 過去のバージョン (例: BE16)からBackup Exec 21/22にアップグレードし、さらにそこからBackup Exec 23へのアップグレードを行う「段階アップグレード」はサポートしておりません。過去のバージョンをご利用いただいているお客様が、Backup Exec 23の導入がご希望であれば、VEMSからBackup Exec 23用のインストールメディアとライセンスキーファイルを手し、新たに用意したサーバにBackup Exec 23を新規に導入してください。</li> </ul>
メンテナンス契約のないお客様 (Backup Exec の全バージョン) または競合製品からBackup Exec 23に切り替える新規のお客様	
メンテナンス契約のないBackup Execの全バージョン、または競合製品からBackup Exec 23への切り替え	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ライセンス部分はMSRPの35%割引でBackup Exec 23 にアップグレードできます。</li> <li>• Backup Exec 22またはそれ以前のバージョンを使用中でメンテナンス契約をお持ちでないお客様が、Backup Exec 23を利用するには、既存のコア製品、エージェント、オプションのすべてについて、バージョンアップグレードSKU (ライセンス部分はMSRPの35%割引) を購入する必要があります。</li> <li>• 競合製品からBackup Exec 23に切り替える場合は、乗り換えSKUによってライセンス部分はMSRPの最大35%割引で購入できます。</li> </ul>

注) 現在、サポート/メンテナンス契約は遡及更新も可能です。アップグレードを購入するより低いコストでアップグレード可能な場合があります。購入元/仕入れ元の販売店様経由でお見積もりを取得頂けます。

## 製品ご購入時の旧バージョンへのダウングレードについて

旧バージョンの入手、新バージョンへのアップグレードには、有効なサポート契約を保有されていることが条件となります。なお、お客様のご判断で保守更新を行わず、保守の無い状態で旧バージョンを継続して利用することは可能です。但しこの場合、製品に対する弊社からのテクニカルサポートの受付および不具合や脆弱性に対応した修正パッチの入手はできなくなりますのでこの点をご理解ください。

このことから弊社としては、保守が有効な状態でご利用いただくことを強く推奨しております。

## 5. サポート／メンテナンスサービスの提供

重要なシステム、データの保護を安定して運用するためには、製品の新規購入時にサポート契約を同時にご購入いただき、サポート契約期間終了までに更新してください。

### サービス

Backup Execのサポートは標準的な方法で行われます。例外や変更点はありません。Backup Exec製品ラインについては、テクニカルサポートが付属する場合と付属しない場合があります。有効なサポート／メンテナンス契約をお持ちのお客様は、契約対象の製品に対して電話またはオンライン

[https://www.veritas.com/support/ja\\_JP](https://www.veritas.com/support/ja_JP)

からテクニカルサポートグループにお問い合わせいただけます。テクニカルサポートグループにお問い合わせの際には、次の情報をご用意ください。

- 所有されている有効なサポート契約のサポートID
- 継続対応中のサポートケースの場合は、そのケースID
- 製品のリリースレベル
- ハードウェア情報
- 利用可能なメモリ、ディスク領域、NIC情報
- オペレーティングシステム
- バージョンとパッチレベルの無償アップグレード
- ネットワークトポロジー
- ルーター、ゲートウェイおよびIPアドレス情報
- 問題の内容
- エラーメッセージ／ログファイル
- ベリタスに連絡する前に行ったトラブルシューティング
- 最近行ったソフトウェアの構成変更およびネットワークの変更

## お問い合わせ先：

### 電話での問い合わせ(共通)

フリーダイヤル(日本語窓口)：**0120-07-8978** (2024年4月1日より)

※) 0120-99-3232のフリーダイヤルは、2024年3月31日をもって終了いたします。ご注意ください。

IP電話などフリーダイヤルが利用不可の場合：03-4477-4957 (こちらの番号は変わりません)

※) テクニカルサポートとカスタマケアは電話番号を共有しております。  
自動応答の音声メッセージに従い操作すると、それぞれの窓口につながります。

### WEBサイト「Veritasサポート」からのお問い合わせ(ケース発行)

URL: [https://www.veritas.com/content/support/ja\\_JP/](https://www.veritas.com/content/support/ja_JP/)

注) メールでの新規受付は行っておりません。但し、受付後のサポート対応時にはメールもご利用可能です。

## サポート契約：

3種類のレベルがあります。

- **ベーシックメンテナンス(BM)**  
平日日中のサポート対応
- **エッセンシャルサポート(ES)**  
24時間365日のサポート対応
- **ビジネスクリティカルサービス(BCS)**  
オンサイトサポートを含むことも可能な、ミッションクリティカルなシステム向けの、より高度なサポートサービス。エッセンシャルサポート加入後に追加購入が必要

## サポートポリシー：

サポートポリシー、サポートサービスの詳細な内容については、以下をご参照ください。

- テクニカルサポートポリシー／サービス規約  
[https://www.veritas.com/content/support/ja\\_JP/terms/support-fundamentals.html](https://www.veritas.com/content/support/ja_JP/terms/support-fundamentals.html)
- 各国語のサポート表  
<https://www.veritas.com/content/dam/support/terms/Veritas-Local-Language-Support-Table.pdf>

## サポート契約レベル

<p>ベーシック メンテナンス</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• サポート契約期間中、最新バージョンへのアップグレードの無償提供</li> <li>• 重大度レベル 1 の障害に対して、レスポンスタイムの目標値は 1 営業時間以内</li> <li>• 営業時間内（弊社営業日 9:00-18:00）のコールセンターへの問い合わせ</li> <li>• 24 時間 365日の更新とパッチの提供</li> <li>• 製品タイトルごとに、お問い合わせ担当者を無制限登録可能</li> </ul>
<p>エッセンシャル サポート</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• サポート契約期間中、最新バージョンへのアップグレードの無償提供</li> <li>• 重大度レベル 1 の障害に対して、レスポンスタイムの目標値は30分以内</li> <li>• 24 時間 365日の電話対応 （注） 重大度1の障害に対してのみ24時間の問題解決に対応。 時間外の対応言語は英語のみ。</li> <li>• 24 時間 365日の更新とパッチの提供</li> <li>• 製品タイトルごとに、お問い合わせ担当者を無制限登録可能</li> </ul>
<p>ベリタス ビジネスクリティカル サービス （ベリタスのプレミアム サポート）</p>	<p>サービス中断の許容要件が非常に厳しい企業を対象に設計されており、業界で比類のない個別化されたサービスを提供します。このサービスレベルでは、ベリタスは単なるサポートチームではなく、お客様のビジネスの一員です。この総合的アプローチでは、以下が提供されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• お客様の複雑なIT環境、プロセス、文化に精通した、ベリタスのサポート技術者のエリートチームから単一の窓口を提供。環境についての深い理解が、問題解決の時間短縮とリスクの緩和につながります。</li> <li>• ベリタスにおける最短のサービスレベル目標</li> <li>• 上級サポート技術者への迅速な問い合わせ - 解決時間を可能な限り短縮</li> <li>• リモートまたはオンサイトのサポートサービスオプション</li> <li>• サポート期間中、バージョンとパッチレベルを無償でアップグレード</li> </ul>



## エンタープライズサポート早見表

エンタープライズサポート とメンテナンスサービス	ベーシック メンテナンス	エッセンシャル サポート
重大度1 のCase の レスポンス時間目標	1営業時間以内	30分
サポートエンジニアへの 電話でのアクセス	弊社営業日 午前9時 から午後6時まで	24時間365日(※1)
ソフトウェアの アップグレード	●	●
アップデート、パッチの ダウンロード	●	●
登録可能なお問い合わせ 担当者(Named Caller)	無制限	無制限

(※1) 弊社営業日の日中以外は、重大度1のお問い合わせのみ対応。その際の対応言語は英語のみ。

### サポート契約と更新：

サポート契約はバックアップシステム内の全てのBackup Exec製品に対してご購入ください。尚、同一環境のバックアップシステム内で追加するBackup Execのコンポーネントのサポート契約も、統一する必要があります。

※同一環境とは、Backup Execサーバ、またはBackup Exec集中管理サーバ、およびそれらの配下で管理されているバックアップ対象サーバが完全に分離し、独立した環境を意味します。

またサポート契約は、契約期間の終了日までに更新手続きを完了してください。  
契約終了日以降の更新には、遡及更新のための追加費用が加算されます。  
遡及費用のお見積もりは、ご購入元/仕入れ元の販売店様へ依頼してください。

システム変更により利用を中止したライセンスは、同一のお客様内の別システムで利用可能ですが、完全に利用を終了する場合は、次回サポート契約更新時にそのライセンス数を減数して更新することも可能です。

### サポートの複数年契約の注意事項：

サポート契約は複数年分を一括契約可能です。その際、以下の組み合わせでご発注頂く必要があります。ご不明点は販売店、仕入れ元、ベリタスセールスインフォメーションセンターまでお問い合わせください。

契約年数	ご発注頂く製品/サポートの組み合わせ（サブスクリプションライセンスの場合）
1年	12ヶ月（1年分）のサポート付ライセンス
2年	24ヶ月（2年分）のサポート付ライセンス
3年	36ヶ月（3年分）のサポート付ライセンス
4年	48ヶ月（4年分）のサポート付ライセンス
5年	60ヶ月（5年分）のサポート付ライセンス

注) ご利用頂く製品(バージョン)のサポート提供期間は、ご契約いただいたサポート契約の年数とは連動していません。必要に応じ、サポート契約により無償で提供される最新バージョンへのアップグレードをご利用ください。



契約年数	ご購入頂く製品/サポートの組み合わせ（永続ライセンスの場合）
1年	12ヶ月（1年分）のサポート付ライセンス
2年	24ヶ月（2年分）のサポート付ライセンス
3年	36ヶ月（3年分）のサポート付ライセンス
4年	36ヶ月（3年分）のサポート付ライセンス + 12ヶ月（1年分）の更新用サポート契約
5年	36ヶ月（3年分）のサポート付ライセンス + 24ヶ月（2年分）の更新用サポート契約

注) ご利用頂く製品(バージョン)のサポート提供期間は、ご契約いただいたサポート契約の年数とは連動していません。必要に応じ、サポート契約により無償で提供される最新バージョンへのアップグレードをご利用ください。

### ビジネスクリティカルサービス（BCS）について：

ダウンタイムを最小限に抑えることを重視する大企業のお客様向けに開発された新しいサポートです。最高レベルのサポート専門知識と迅速な対応を提供するBCSアドバンストアクセスには、以下の特長があります。

- 重大度1の事象に対する上級サポート技術者による24時間365日対応
- コールの優先キュー
- BCS初期応答、サービス復旧、ソリューション提供目標
- BCS/プラチナ会員向けのセキュリティ保護されたセキュリティ製品用プレミアムWebサイトへのアクセス
- 無制限の問い合わせ登録者

ビジネスクリティカルサービスとリモートプロダクトスペシャリストは、提供できない地域があります。地域ごとの提供については、販売店、仕入先、ローカルのベリタスのアカウント担当者までご確認ください。なお、前提条件としてエッセンシャルサポートの購入が必要です。

**製品のサポート提供期間：**

製品のサポート提供期間は、新しいベリタスのポリシー(End Of Life Policy)により定められています。詳細な情報は、以下のURLをご参照ください。

ベリタスは、常に最新バージョンへアップグレードして製品を利用することを強く推奨しています。

Veritas Product Life Cycle Policy

<https://www.veritas.com/content/dam/support/terms/Veritas%20EOL%20Policy.pdf>

注) Backup Exec には Commercial Products 用のポリシーが適用されます。

**サポート提供期間一覧：**

以下の表に記載の無い旧バージョンのサポート提供はすべて終了しています。

製品	出荷開始日	標準サポート終了日	サポートライフ終了日
Backup Exec 21	2020/4/6	2023/6/6	2025/6/6
Backup Exec 22	2022/6/6	2025/3/4	2027/3/4
Backup Exec 23	2024/3/4	未定	未定

**<参考情報>**

End of Support for Prior Backup Exec Versions

<https://sort.veritas.com/eosl>

上記SORT(Services and Operations Readiness Tool)のリンクから、Productに「Backup Exec」を指定すると、過去の製品も含めたサポート日付を確認することができます。

- 標準サポート(スタンダードサポート)  
製品に対する通常のサポート対応
- 延長テクニカルサポート/サステイニングサポート  
標準サポート終了後、サポートライフ終了日まで提供される限定的なサポート  
既知情報(ナレッジ)をベースにしたサポート対応を提供  
※延長テクニカルサポートは廃止となりました。サステイニングサポートが後継となります。
- サステイニング契約  
サステイニングサポートを受けるために追加購入が必要なサポート契約。  
※有効な保守契約が前提となります

## 6. 追加情報

- ハードウェアおよびソフトウェア互換性ガイド、テクニカルサポート、管理者ガイドなど、Backup Execに関する詳細については、以下のサポートWEBを参照してください。

[https://www.veritas.com/support/ja\\_JP](https://www.veritas.com/support/ja_JP)

Backup Exec 23.x Software Compatibility List (SCL)

[https://www.veritas.com/content/support/en\\_US/doc/BE\\_23\\_SCL](https://www.veritas.com/content/support/en_US/doc/BE_23_SCL)

Backup Exec 23.x Hardware and Cloud Storage Compatibility List (HCL)

[https://www.veritas.com/content/support/en\\_US/doc/BE\\_23\\_HCL](https://www.veritas.com/content/support/en_US/doc/BE_23_HCL)

- ご購入後のライセンスに関するサポート（Veritasサポートの利用方法など）については、カスタマケアへお問い合わせください。

担当部署：カスタマケア

WEB: [https://www.veritas.com/support/ja\\_JP.html](https://www.veritas.com/support/ja_JP.html)

フリーダイヤル(日本語窓口)： **0120-07-8978**（2024年4月1日より）

※) 0120-99-3232のフリーダイヤルは、2024年3月31日をもって終了いたします。ご注意ください。

フリーダイヤルが利用不可の場合：03-4477-4957（こちらの番号の変更はありません）

- ライセンスプログラムについて

ガバメント（政府機関/非営利団体向け）、アカデミック（教育機関向け）のライセンスプログラムは、2024年4月30日を持ちまして販売を終了しました。2024年5月からコーポレート（一般企業向け）のライセンスプログラムに統合されました。ご不明点等があればベリタスセールスインフォメーションセンターまでお問い合わせください。

- 評価とNFR

Backup Exec 23の60日間評価版は、Veritas Web サイトからダウンロードできます。

<https://www.veritas.com/form/trialware/backup-exec>

60日間の評価版では、すべてのエージェントとオプションの機能を無料で試用できます。

※) 評価版としてインストールしたBackup Execに正規のライセンスキーファイルを登録すると、正規製品版として使用につけることが可能です。

ベリタスのパートナープログラムに登録されているすべてのレジスターパートナー様は、

専用サイト <https://partnernet.veritas.com/>

で NFR (Not For Resell 再販禁止) コピーと評価コピーを注文できます。

**• 動作環境概要**

詳細は管理者ガイド、Software Compatibility List、Hardware and Cloud Storage Compatibility Listなどの各種資料を参照ください。

**■ Backup Exec サーバ本体**

- CPU Pentium/Xeon 以上を推奨
- RAM 2GB以上
- HDD 空き容量 2GB以上
- OS Windows 2012/2012R2/2016/2019/2022

(注) x64 OSのみ対応

**■ バックアップ対象サーバ****Windows**

- CPU Pentium/Xeon 以上を推奨
- RAM 1GB以上
- OS Windows 10/11/2012/2012R2/2016/2019/2022

(注) x32/x64 対応

**Linux**

- CPU Pentium/Xeon 以上を推奨
- RAM 1GB以上
- OS RHEL 7.0、7.4、7.9、8.0-8.8、9.0-9.3、SUSE 12.0-12.5、15.0-15.4、CentOS 7.0、7.1、7.3、7.5-7.9、9

**Unix**

- AIX 7.1、7.2、7.3 POWER
- Solaris 10、11.1、11.3、11.4 SPARC

**■ オンラインバックアップ対象アプリケーション/データベース**

- SQL Server 2008/2008R2/2012/2014/2016/2017/2019/2022
- Exchange 2013/2016/2019
- SharePoint 2010/2013/2016/2019
- Oracle 10g/11g/12c/18c/19c/21c
- Enterprise Vault 11.0/11.0 SP1/12.0-12.5/14.0-14.4

注) CPU/RAM/HDDなどのハードウェア要件は、ご利用状況により変化します。  
バックアップ対象のサーバ台数、データ量、ご利用予定のオプション構成などを考慮の上、  
適宜上記値より増設してください。

## 7. ライセンスの並行使用について

Veritas Backup Execでは、旧環境から新環境への「移行」をやすくするため、60日以内であれば、新旧環境で同一ライセンスキーファイルを使用することを認めています。60日以内で移行目的に限り、旧環境の保守契約を利用して新環境への移行に必要なサポート対応も受け付けます（新環境用の保守契約はこの期間中は不要です）。

但し、60日間を超える場合、また新旧環境の移行が完了した後も、引き続き新旧の両環境を継続して利用する場合は、新環境向けに必要なライセンスと保守をご購入ください。

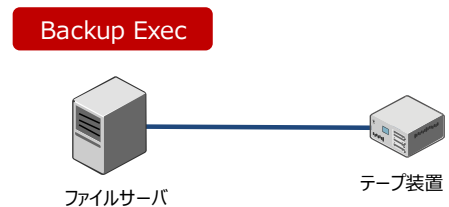
## 付録1：単体ライセンスでのライセンス構成例

### 構成図内の略語一覧

<b>Backup Exec</b>	Backup Execサーバ
App & DB	アプリケーション & データベースエージェント
LEO	Library Expansion オプション
VUDO	VTL Unlimited Drive オプション
VMware & Hyper-V	VMware & Hyper-V エージェント
ESO	Enterprise Server オプション
CAS	ESO に含まれる Central Admin Server オプション機能の集中管理サーバ
MBES (旧MMS)	ESO に含まれる Central Admin Server オプション機能の、管理対象となる Backup Execサーバ(Managed Backup Exec Server)

### <Backup Exec 基本構成例>

#### 1台のファイルサーバのローカルバックアップ

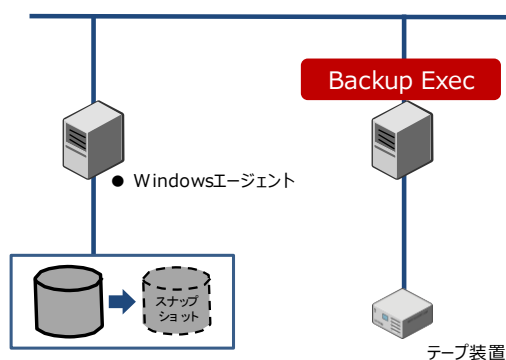


製品	ライセンス数
Backup Exec 基本ライセンス	1

**Note :**

- Backup Exec の基本ライセンスには以下が含まれます。
  - Backup Execサーバ自身のローカルバックアップ
  - オープンファイルのバックアップ
  - システムリカバリ機能(SDR: Simplified Disaster Recovery)
  - スタンドアロンテープドライブのサポート
  - ディスク/シングルテープドライブ/クラウドへのバックアップ

#### スナップショットを使用したファイルサーバのリモートバックアップ

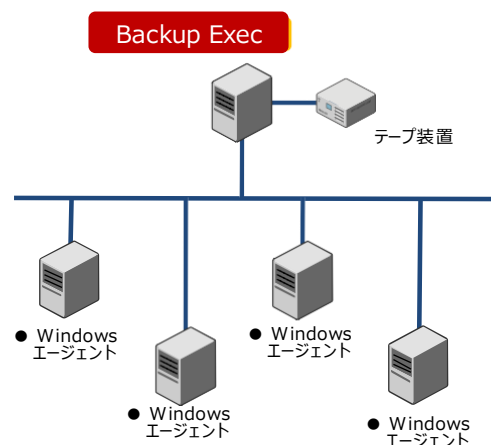


製品	ライセンス数
Backup Exec 基本ライセンス	1
Windows エージェント	1

**Note :**

- VSS のスナップショットを利用したオープンファイルのバックアップ、Advanced Open File 機能は、Backup Exec の基本ライセンスに含まれます。

#### 4台のリモートサーバでのシステム障害対策



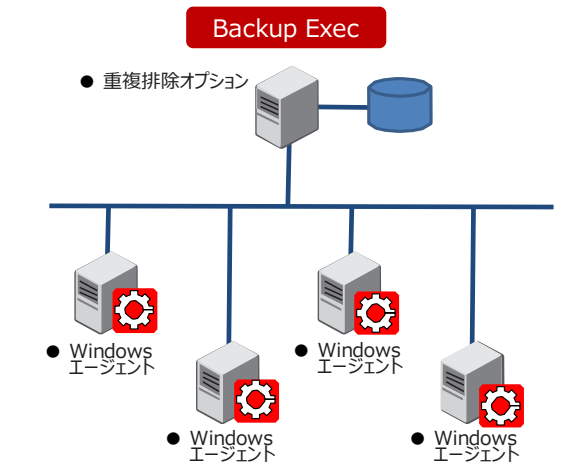
製品	ライセンス数
Backup Exec 基本ライセンス	1
Windows エージェント	4

**Note :**

- システム障害回復に必要な Simplified Disaster Recovery (SDR) 機能は、Backup Exec の基本ライセンスに含まれています。
- SDRはメディアサーバ、リモートのWindowsサーバの両方で利用可能です。

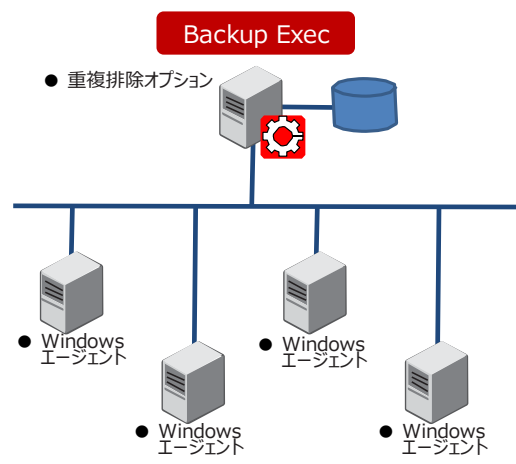
<Backup Exec 重複排除オプション構成例>

クライアント側での重複排除



製品	ライセンス数
Backup Exec 基本ライセンス	1
Windows エージェント	4
重複排除オプション	1

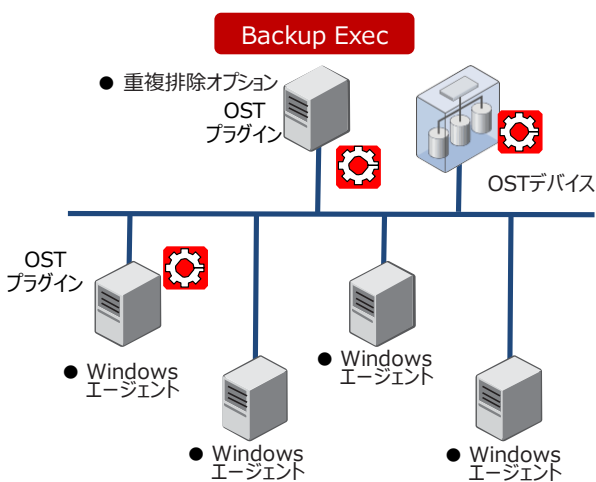
Backup Execサーバ側での重複排除



製品	ライセンス数
Backup Exec 基本ライセンス	1
Windows エージェント	4
重複排除オプション	1

アプライアンス側での重複排除

重複排除が行われる可能性がある箇所です。



製品	ライセンス数
Backup Exec 基本ライセンス	1
Windows エージェント	4
重複排除オプション	1

Note:

- 重複排除オプションはBackup Execサーバ毎に1ライセンス必要となります。
- Backup Execの重複排除機能を使わず、OSTデバイス上のボリュームを通常のディスクストレージ（B2DディスクとしてCIFS共有）として使用する分には、たとえOSTデバイス側でメーカー独自の方式で重複排除処理を行っている場合でも、重複排除オプションは必要ありません。
- OST対応ストレージと連携して、各社が提供するOSTプラグインを使用して、Backup Execサーバもしくはクライアント（バックアップ対象サーバ）側で重複排除を行う場合は、重複排除オプションが必要となります。

OST デバイス

OST (OpenStorage Technology)はベリタステクノロジズの提唱するAPIです。OSTはさまざまなストレージベンダーが提供する機能と、バックアップアプリケーションをシームレスに連携させます。OSTに対応したストレージデバイスは、Backup Execなどのアプリケーションと連携が可能です。

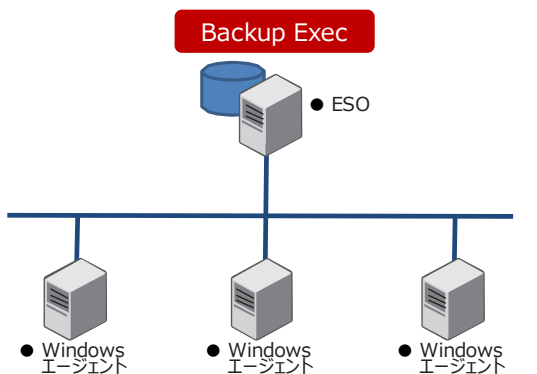
OSTプラグイン

Backup ExecをOSTストレージベンダーのストレージと連携させるためのプラグインソフト。BEサーバ、クライアントに導入します。OSTプラグインはOSTストレージベンダーから提供されます（通常は有償のオプション）



### <Backup Exec ADBO 構成例>

リモートファイルサーバから増分バックアップをディスクに取得した後、合成フルバックアップ

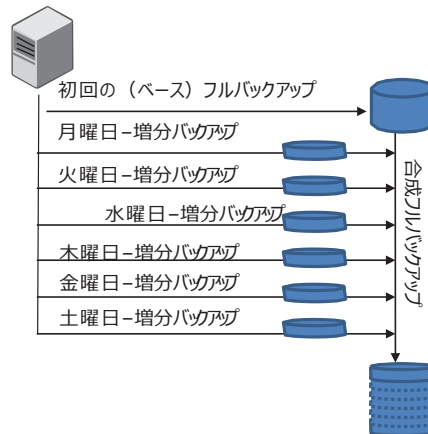


製品	ライセンス数
Backup Exec 基本ライセンス	1
Windows エージェント	3
Enterprise Server オプション	1

**Note :**

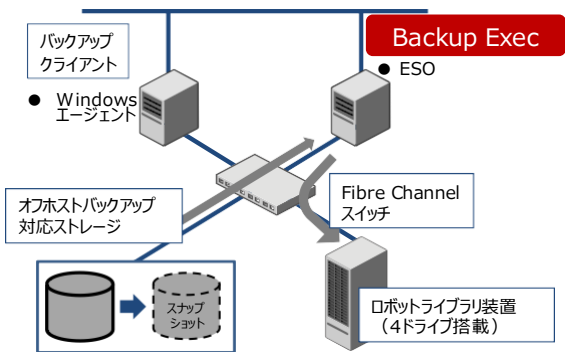
- Enterprise Server オプションには、合成バックアップに必要な Advanced Disk-Based Backup オプションの機能が含まれません。メディアサーバに Enterprise Server オプションが必要です。

### ●合成バックアップのイメージ



対象となるバックアップデータを全て読み込み、それらを合成して書き出し、新たなフルバックアップを生成します。

### オフストバックアップ 4ドライブライブラリ1台



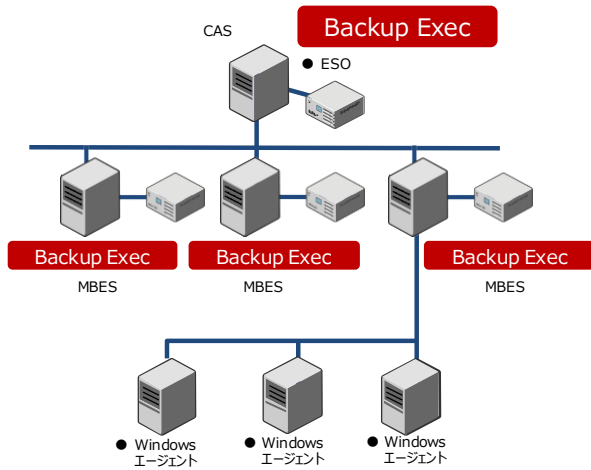
製品	ライセンス数
Backup Exec 基本ライセンス	1
Enterprise Server オプション	1
Windows エージェント	1
Library Expansion オプション	3

**Note :**

- Enterprise Server オプションには、オフストバックアップに必要な Advanced Disk-Based Backup オプションの機能が含まれます。メディアサーバに Enterprise Server オプションが必要です。
- オフストバックアップに対応しているストレージは、Backup Exec の Hardware and Cloud Storage Compatibility List をご参照ください。

<Backup Exec CASO 構成例>

複数台の Backup Execサーバを集中管理 (1)

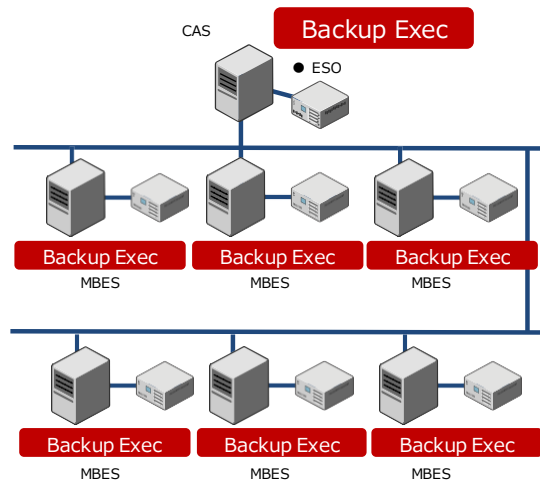


製品	ライセンス数
Backup Exec 基本ライセンス	4
Windows エージェント	3
Enterprise Server オプション	1

**Note :**

- Enterprise Server オプションには、Central Admin Server オプション (CASO) の機能が含まれます。
- CASOを使用する場合、集中管理対象の環境に対して1つのライセンスが必要です。CAS にインストールします。

複数台の Backup Execサーバを集中管理 (2)



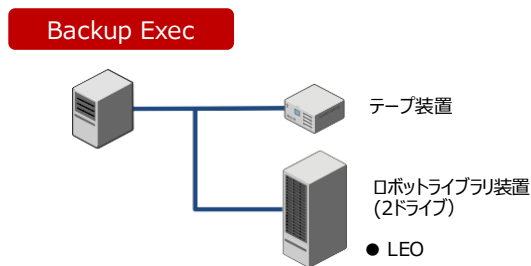
製品	ライセンス数
Backup Exec 基本ライセンス	7
Enterprise Server オプション	1

**Note :**

- Enterprise Server オプションには、Central Admin Server オプション (CASO) の機能が含まれます。
- CASOを使用する場合、集中管理対象の環境に対して1つのライセンスが必要です。CAS にインストールします。

<Backup Exec LEO 構成例>

1台のファイルサーバに1台のテープ装置と  
2ドライブを装備しているロボットライブラリ装置 1台

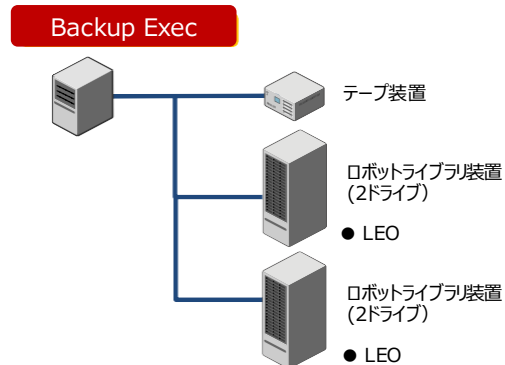


製品	ライセンス数
Backup Exec 基本ライセンス	1
Library Expansion オプション	1

**Note :**

- ロボットライブラリ装置内のテープドライブの合計が2台以上の場合には、LEO が必要です。
- ライブラリ装置内の2ドライブ目から課金対象となります。  
n台のテープ装置を内蔵しているライブラリ装置の場合、  
n - 1 = 必要な LEO のライセンス数となります。

1台のファイルサーバに1台のテープ装置と  
2ドライブを装備しているロボットライブラリ装置 2台



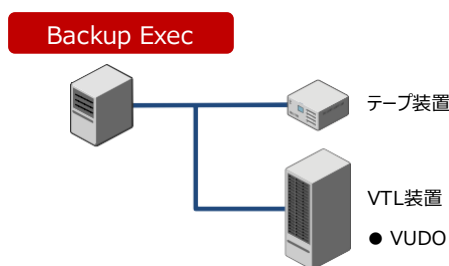
製品	ライセンス数
Backup Exec 基本ライセンス	1
Library Expansion オプション	2

**Note :**

- 図示した構成の場合、(2-1) + (2-1) = 2のLEOが必要です。

<Backup Exec VUDO 構成例>

1台のファイルサーバに1台のテープ装置と仮  
想テープライブラリ(VTL) 1台

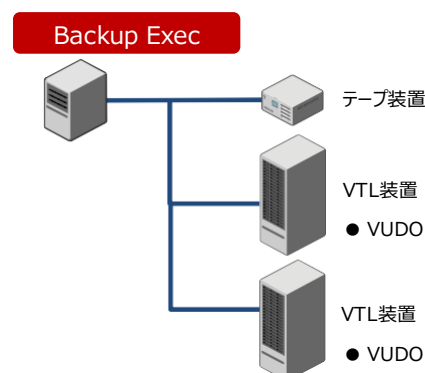


製品	ライセンス数
Backup Exec 基本ライセンス	1
VTL Unlimited Drive オプション	1

**Note :**

- VUDOライセンスは、VTL装置筐体内の仮想ライブラリ単位に必要です。
- VTL内の仮想ライブラリに設定されているドライブ数は、VUDOライセンス数に影響しません。VTL内の仮想ライブラリが、1台のテープドライブのみで構成されている場合は、VUDOは不要です。

1台のファイルサーバに1台のテープ装置と仮  
想テープライブラリ(VTL) 2台



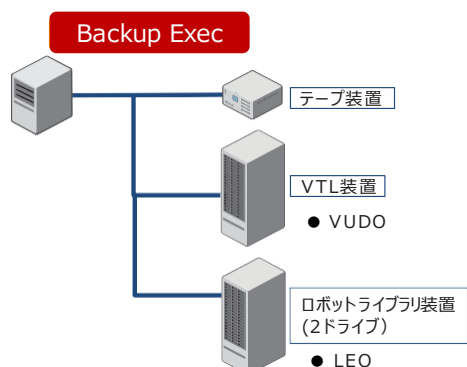
製品	ライセンス数
Backup Exec 基本ライセンス	1
VTL Unlimited Drive オプション	2

**Note :**

- VUDOライセンスは、VTL装置筐体内の仮想ライブラリ単位に必要です。
- VTL内の仮想ライブラリに設定されているドライブ数は、VUDOライセンス数に影響しません。VTL内の仮想ライブラリが、1台のテープドライブのみで構成されている場合は、VUDOは不要です。

### <Backup Exec VUDO 構成例>

1台のファイルサーバにロボットライブラリ1台と 仮想テープライブラリ(VTL) 1台



製品	ライセンス数
Backup Exec 基本ライセンス	1
VTL Unlimited Drive オプション	1
Library Expansion オプション	1

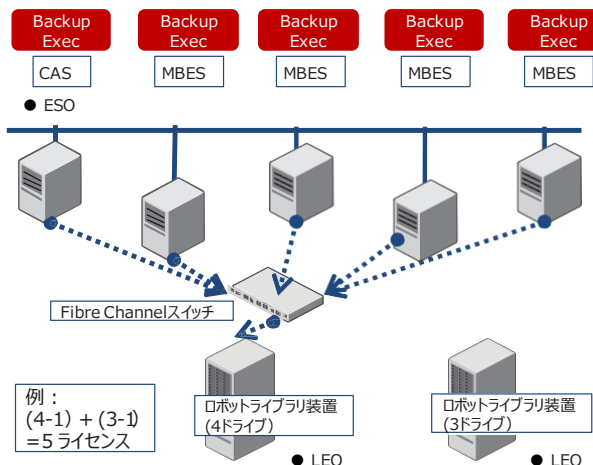
**Note :**

- VUDO ライセンスは、VTL装置筐体内の仮想ライブラリ単位に必要です。VTL内の仮想ライブラリに設定されているドライブ数は、VUDOライセンス数に影響しません。VTL内の仮想ライブラリが、1台のテープドライブのみで構成されている場合は、VUDOは 不要です。

### <Backup Exec SSO 構成例>

#### SAN環境でのバックアップ/リストア

例：テープライブラリ (2台 / 4ドライブと3ドライブ) をサーバ5台で共有



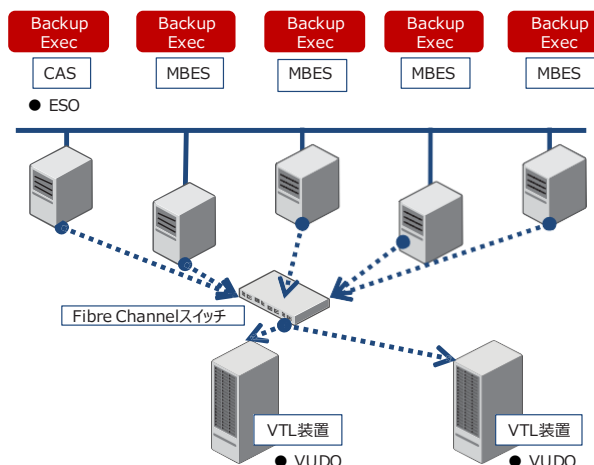
例：  
(4-1) + (3-1)  
= 5 ライセンス

製品	ライセンス数
Backup Exec 基本ライセンス	5
Library Expansion オプション	5
Enterprise Server オプション	1

**Note :**

- SAN環境でのデバイス共有には、Enterprise Serverオプションに含まれるCASOの環境を構築する必要があります。
- 各Backup ExecサーバでLTOライセンスは共有されます。したがって必要なLTOライセンスは 5 です。

例：VTL (2台 / 各々4論理ドライブ) をサーバ5台で共有



製品	ライセンス数
Backup Exec 基本ライセンス	5
VTL Unlimited Drive オプション	2
Enterprise Server オプション	1

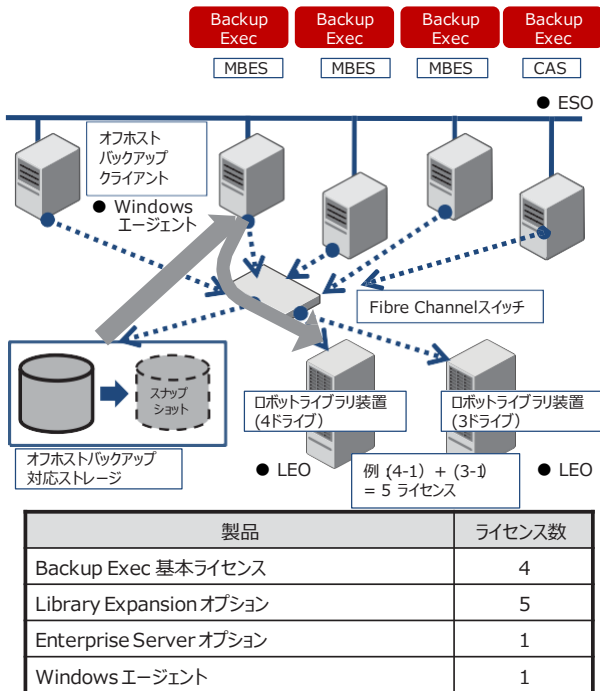
**Note :**

- SAN環境でのデバイス共有には、Enterprise Serverオプションに含まれるCASOの環境を構築する必要があります。
- 各Backup ExecサーバでVUDOライセンスは共有されます。したがって必要なVUDOライセンスは2です。
- VUDO ライセンスは、VTL装置筐体内の仮想ライブラリ単位に必要です。VTL内の仮想ライブラリに設定されているドライブ数は、VUDOライセンス数に影響しません。
- VTL内の仮想ライブラリが、1台のテープドライブのみで構成されている場合は、VUDOは 不要です。

### <Backup Exec CASO・ADBO・SSO 構成例>

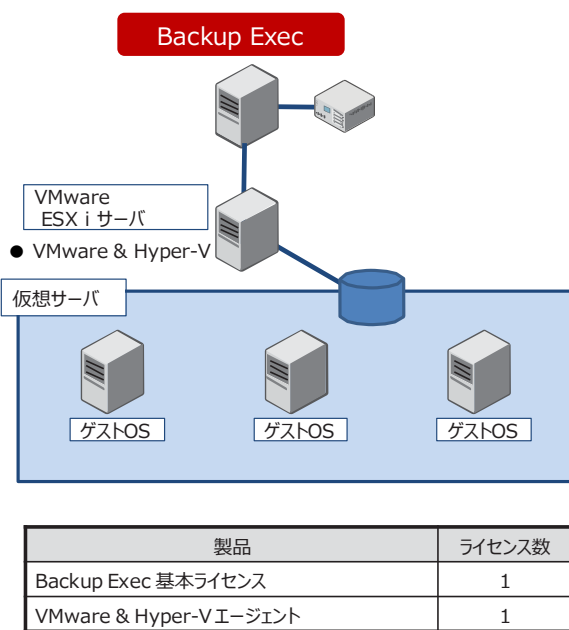
#### SAN環境でのバックアップ/リストア

例：テープライブラリ（2台/4ドライブと3ドライブ）を4台のサーバで共有。4台のうち1台では、1台のバックアップクライアントのオフホストバックアップを実行、このBackup Exec環境を1台のBackup Execサーバで集中管理

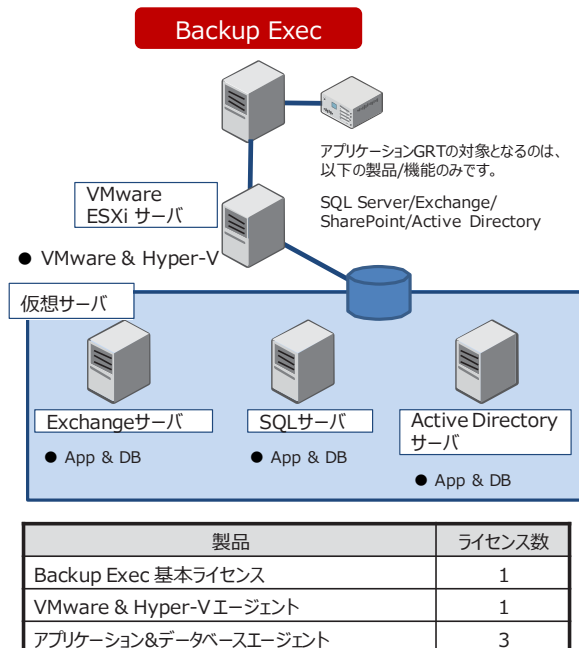


### <Backup Exec VMware エージェント構成例>

#### VMware ESXi 環境のバックアップ



#### アプリケーション GRT を利用したバックアップ

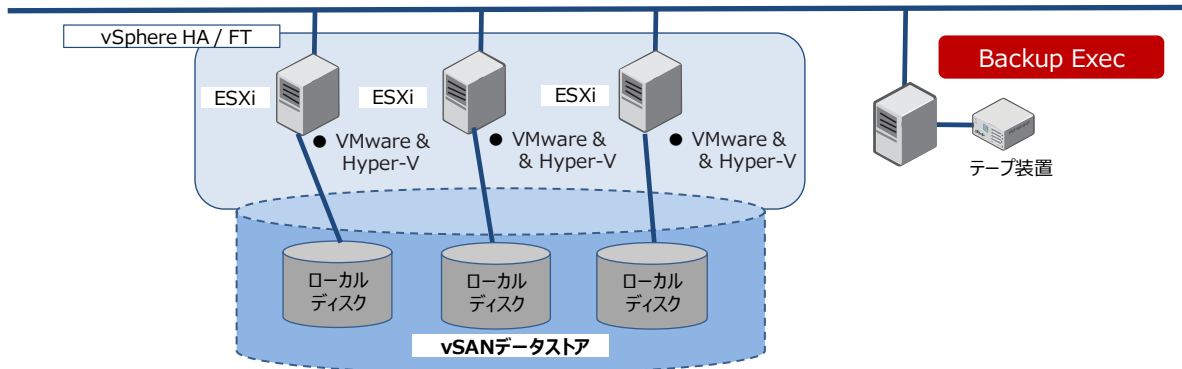


**Note :**

- Backup Exec は、VMwareのVADP方式で仮想マシンをバックアップ可能です。また、VMware & Hyper-V エージェントを利用する際、対象ESXiホスト上のゲスト OS に対してWindows エージェントとLinux/Unix エージェントを台数制限なく導入/使用可能です。

<Backup Exec VMware エージェント構成例>

VMware ESXi HA / FT + vSAN構成

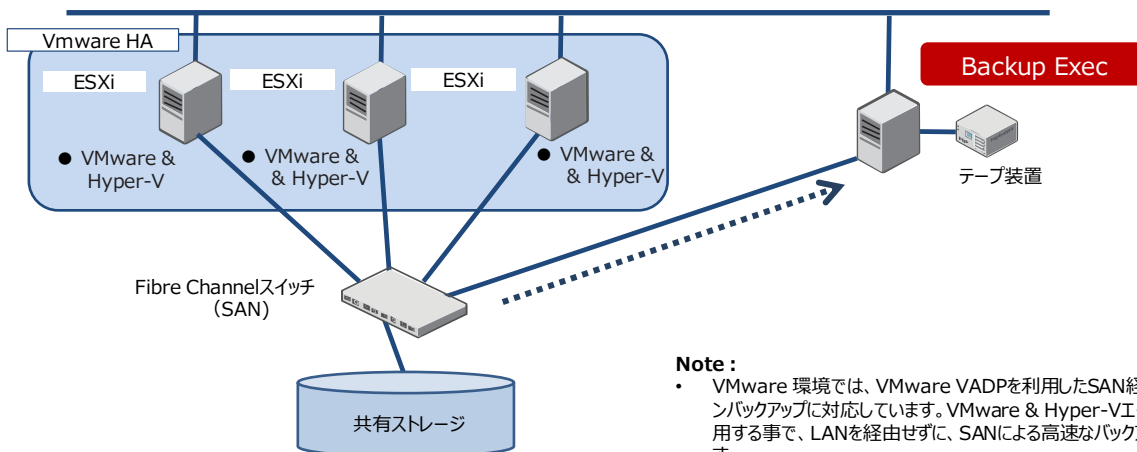


製品	ライセンス数
Backup Exec 基本ライセンス	1
VMware & Hyper-V エージェント	3

**Note :**

- Backup Execは、VMwareのVADP方式で仮想マシンをバックアップ可能です。また、VMware & Hyper-V エージェントを利用する際、対象ESXiホスト上のゲストOS に対してWindowsエージェントとLinux/Unixエージェントを台数制限なく導入/使用可能です。
- vSphere HA / FT構成では、HA/FT構成に組み込まれているESXiホスト毎にVMware & Hyper-V エージェントが必要となります

VMware ESXi SANバックアップ構成



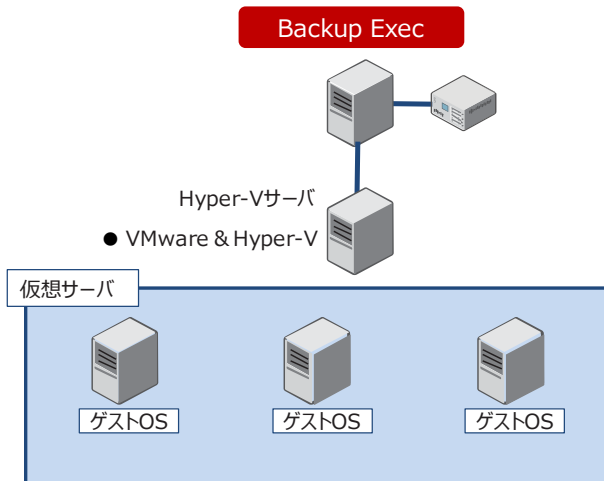
製品	ライセンス数
Backup Exec 基本ライセンス	1
VMware & Hyper-V エージェント	3

**Note :**

- VMware 環境では、VMware VADPを利用したSAN経由の仮想マシンバックアップに対応しています。VMware & Hyper-V エージェントを利用する事で、LANを経由せずに、SANによる高速なバックアップが可能です。
- 但し、仮想マシンのファイル・フォルダ単位の個別バックアップ、アプリケーション GRTを利用したバックアップが必要な場合には、仮想マシンにWindowsエージェントを個別にインストールする必要があります。このバックアップには、LANが利用されます。

<Backup Exec Hyper-V エージェント構成例>

Hyper-V 環境のバックアップ

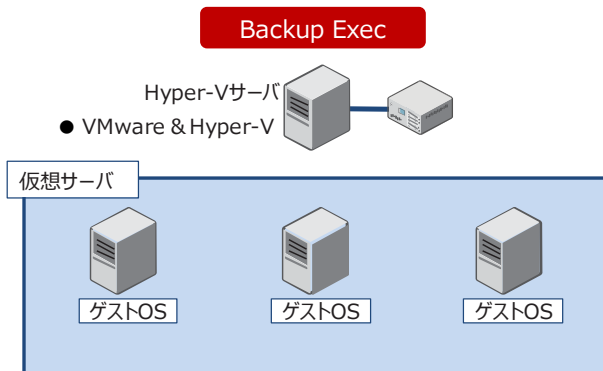


製品	ライセンス数
Backup Exec 基本ライセンス	1
VMware & Hyper-V エージェント	1

Note :

- VMware & Hyper-V エージェントを利用する際、Backup Execサーバと別にHyper-V のホストが構築されている場合は、Hyper-VのホストにWindows エージェントをインストールする必要があります。
- VMware & Hyper-V エージェントには、そのWindowsエージェントの権利が含まれ、Hyper-Vホストの保護も可能です。また、対象のHyper-V ホスト上のゲストOSに導入する Windows エージェントやLinux/Unix エージェントは、台数制限なく導入/使用可能です。

Hyper-V 環境のバックアップ メディアサーバ、Hyper-Vサーバ兼用

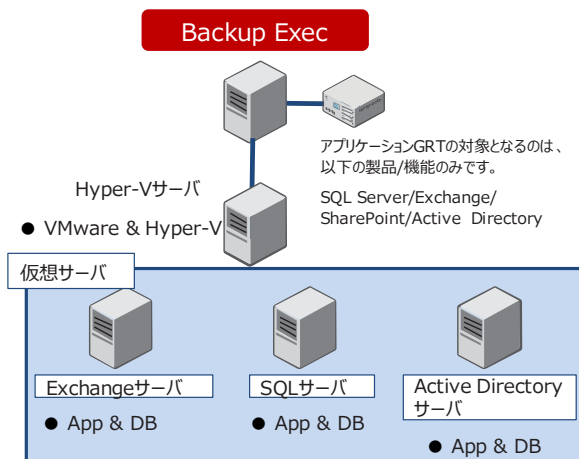


製品	ライセンス数
Backup Exec 基本ライセンス	1
VMware & Hyper-V エージェント	1

Note :

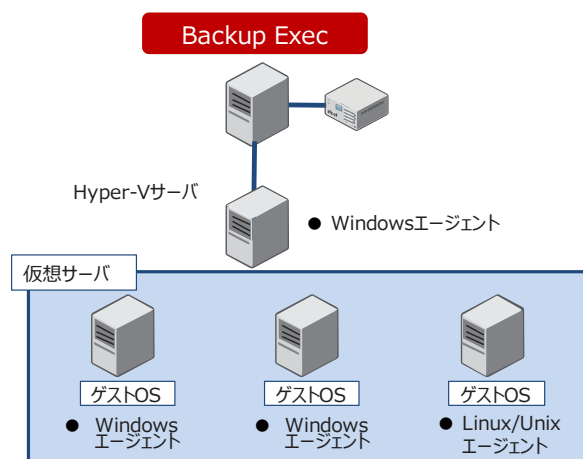
- VMware & Hyper-V エージェントを利用する際、対象Hyper-Vホスト上のゲストOS に対してWindows エージェントとLinux/Unix エージェントを台数制限なく導入/使用可能です。

アプリケーション GRT を利用したバックアップ



製品	ライセンス数
Backup Exec 基本ライセンス	1
VMware & Hyper-V エージェント	1
アプリケーション&データベースエージェント	3

【参考】Hyper-V エージェントを使用しない場合  
Hyper-V 環境のバックアップ

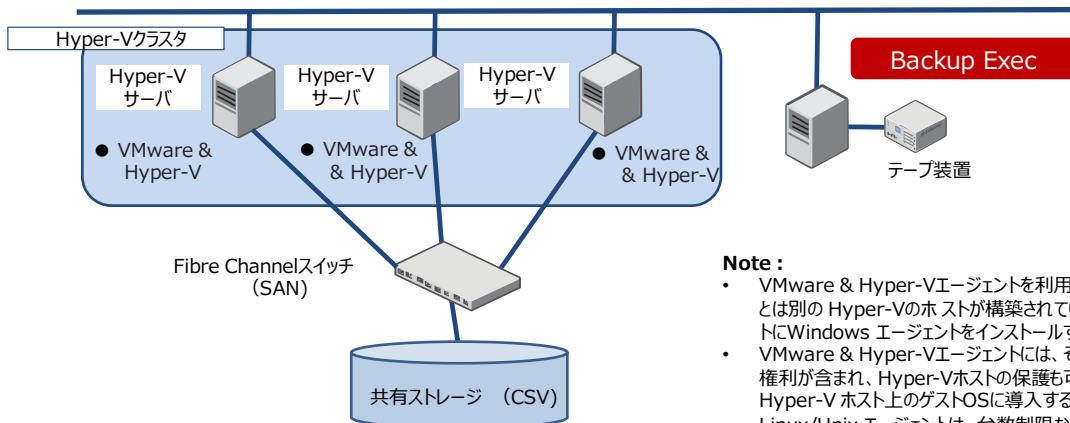


製品	ライセンス数
Backup Exec 基本ライセンス	1
Windows エージェント	3
Linux/Unix エージェント	1



<Backup Exec Hyper-V エージェント構成例>

Hyper-Vクラスタ構成

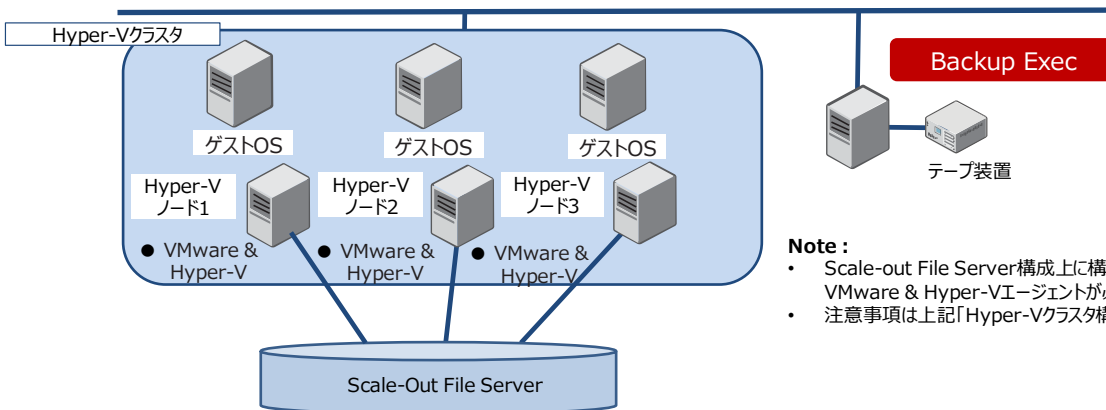


製品	ライセンス数
Backup Exec 基本ライセンス	1
VMware & Hyper-V エージェント	3

Note :

- VMware & Hyper-V エージェントを利用する際、Backup Exec サーバとは別の Hyper-V のホストが構築されている場合は、Hyper-V のホストに Windows エージェントをインストールする必要があります。
- VMware & Hyper-V エージェントには、その Windows エージェントの権利が含まれ、Hyper-V ホストの保護も可能です。また、対象の Hyper-V ホスト上のゲスト OS に導入する Windows エージェントや Linux/Unix エージェントは、台数制限なく導入/使用可能です。
- Hyper-V クラスタ構成では、クラスタ構成に組み込まれている Hyper-V サーバ (ノード) 毎に VMware & Hyper-V エージェントが必要となります。
- データのバックアップとリストアは、LAN 経由のみとなります。
- Hyper-V ホスト間での Live Migration もサポートしています。このため、バックアップとリストアのリクエストを受ける可能性があるすべての Hyper-V ホストに VMware & Hyper-V エージェントのライセンスが必要となります。

Scale-out File Server 構成

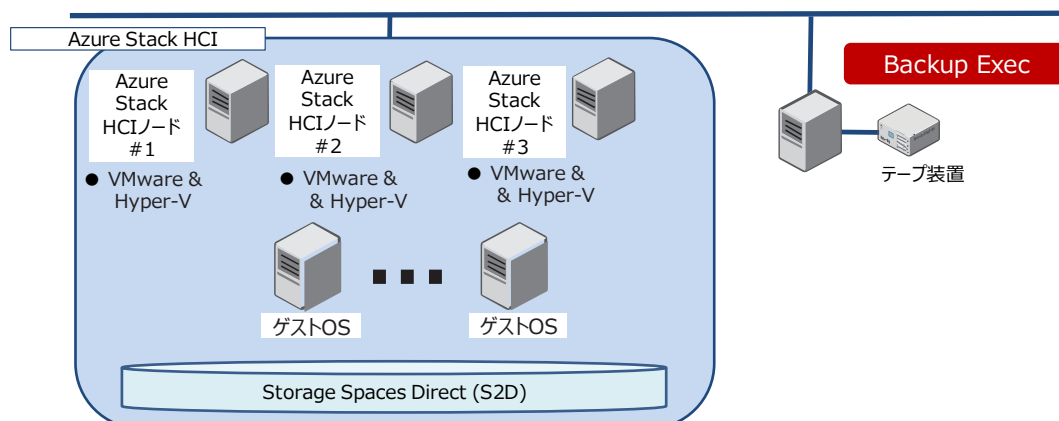


製品	ライセンス数
Backup Exec 基本ライセンス	1
VMware & Hyper-V エージェント	3

Note :

- Scale-out File Server 構成上に構築した Hyper-V ノード毎に VMware & Hyper-V エージェントが必要となります。
- 注意事項は上記「Hyper-V クラスタ構成」と一緒です。

## <Backup Exec Azure Stack HCI構成例>



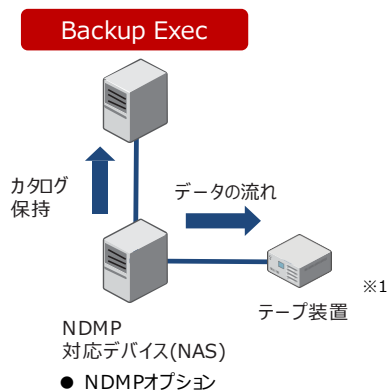
製品	ライセンス数
Backup Exec 基本ライセンス	1
VMware & Hyper-V エージェント	3

### Note :

- Azure Stack HCI構成は、上記Hyper-Vクラスタ構成と同等のコンセプトであるため、ライセンスの考え方やカウント方法も一緒です。
- Azure Stack HCIを構成するそれぞれのノード毎にVMware&Hyper-Vエージェントのライセンスが必要となります。
- それぞれのノードを保護するには、Windowsエージェントの導入が必要となりますが、VMware&Hyper-VエージェントにはWindowsエージェントの権利が含まれています。
- Azure Stack HCI上で稼働する仮想マシンもWindowsエージェントやLinux/Unixエージェントを台数無制限に導入/使用することが可能です。

<Backup Exec NDMP オプション構成例>

NDMP を利用した NDMP対応デバイス(NAS)から  
テープ装置へのバックアップ (Direct 方式)

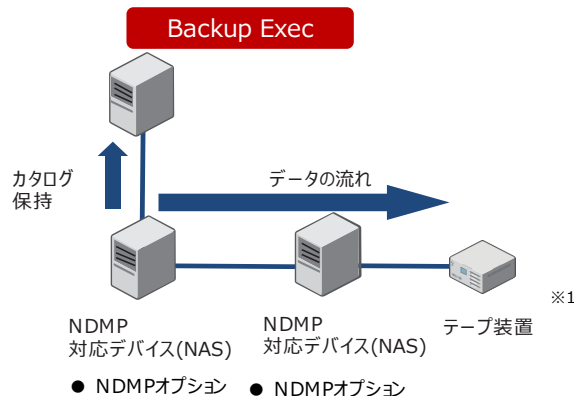


製品	ライセンス数
Backup Exec 基本ライセンス	1
NDMP オプション※2	1

Note:

- NDMP 方式でのバックアップに対応したNASは、Backup Execの Hardware and Cloud Storage Compatibility Listをご確認ください。

NDMP対応デバイス(NAS)からNDMP対応デバイス(NAS)  
からテープ装置へのバックアップ (3Way 方式)

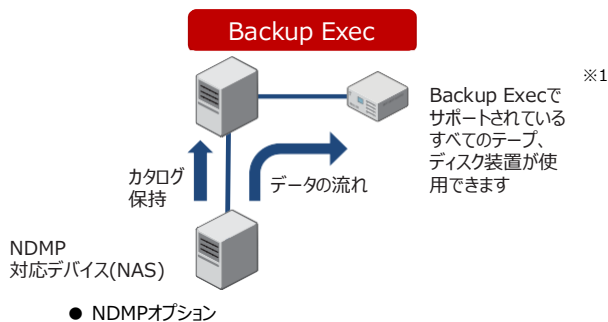


製品	ライセンス数
Backup Exec 基本ライセンス	1
NDMP オプション※2	2

Note:

- NDMP 方式でのバックアップに対応したNASは、Backup Execの Hardware and Cloud Storage Compatibility Listをご確認ください。

NDMP を利用したNDMP対応デバイス(NAS)から  
Backup Execサーバに直結したストレージへのバックアップ  
(Remote 方式)



製品	ライセンス数
Backup Exec 基本ライセンス	1
NDMPオプション※2	1

Note:

- NDMP 方式でのバックアップに対応したNASは、Backup Execの Hardware and Cloud Storage Compatibility Listをご確認ください。

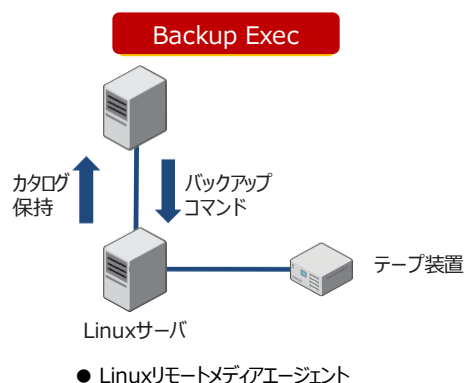
※1 スタンドアロンテープ装置1台分のライセンスは Backup Execの基本ライセンスに含まれているため、手配は不要ですが、ロボットテープライブラリ装置、仮想テープライブラリ装置 (VTL)をNDMP対応デバイス(NAS)に接続して利用する場合は、別途LEO/VUDOのテープライブラリ用のライセンスが必要となります。詳しくは、前項の「LEO構成例」、「VUDO構成例」をご参照ください。

※2 NDMPオプションのライセンスカウントは、通常クラスタ化された構成の中のアクティブノード (コントローラ) に対してのみ、ライセンスを必要とします。パッシブノードにはライセンスは必要としません。クラスタ化されたIPアドレスまたは仮想IPアドレスを通じて共通のボリュームにアクセスしますので、通常は1筐体につき、1ライセンスで済みます。

但し、NDMPデバイス (NAS)によっては、仮想IPアドレスによるアクセスをサポートしていないメーカー (例: NetApp社のnode-scoped(ノード単位)でのアクセス)、筐体内のそれぞれのコントローラをクラスタ化せずそれぞれを単独で使用するような場合は、それぞれのコントローラ毎にライセンスが必要となります (2ライセンス)。どのアクセス方式に対応しているのかはNDMP対応デバイス (NAS)のベンダーへご確認くださいとともに、弊社 Hardware and Cloud Storage Compatibility Listに記載しているNDMP対応デバイス (NAS)の注釈部分の説明もご確認ください。

### <Backup Exec RMAL 構成例>

Linux リモートメディアエージェントを利用したバックアップ



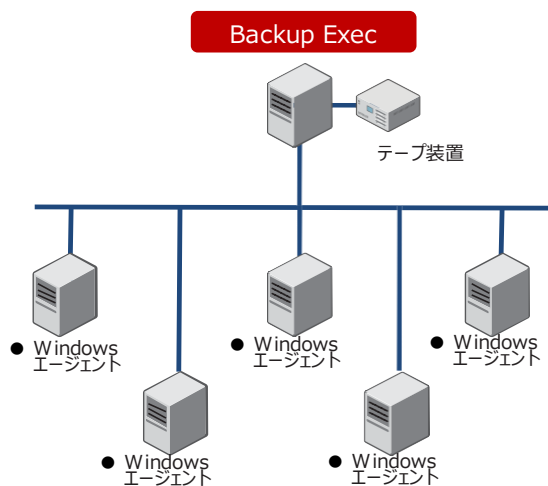
製品	ライセンス数
Backup Exec 基本ライセンス	1
Linuxリモートメディアエージェント	1

**Note:**

- Linuxサーバに接続されたバックアップストレージに、直接バックアップデータを書き出すことが可能になります。必ずWindows上のBackup Execサーバが必要です。

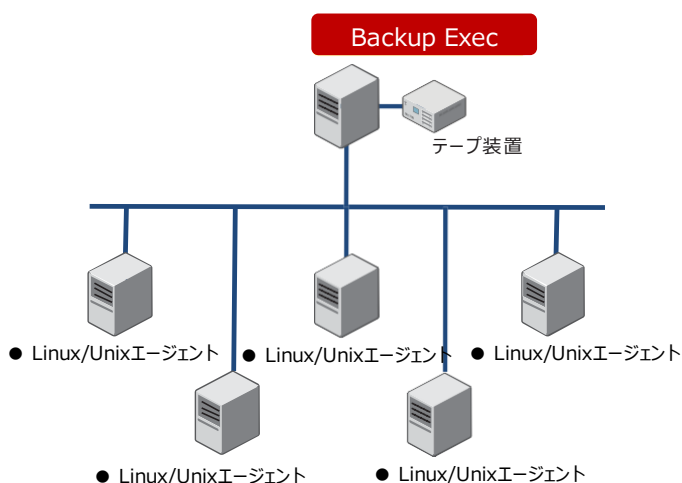
### <Backup Exec リモートエージェント構成例>

リモート Windowsサーバが計 5 台



製品	ライセンス数
Backup Exec 基本ライセンス	1
Windows エージェント	5

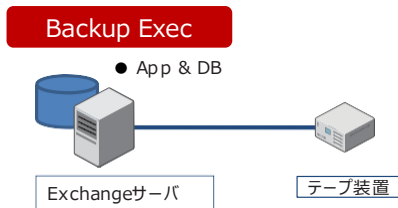
リモートに Linux/Unixサーバが計 5 台  
( Windows 以外のサーバの場合 )



製品	ライセンス数
Backup Exec 基本ライセンス	1
Linux/Unix エージェント	5

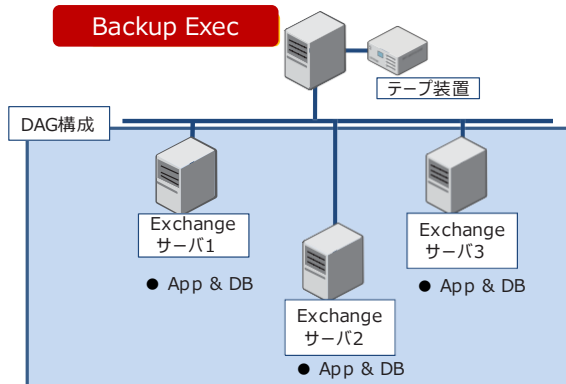
<Backup Exec アプリケーション & データベースエージェント構成例>

1台の Exchangeサーバをバックアップ



製品	ライセンス数
Backup Exec 基本ライセンス	1
アプリケーション&データベースエージェント	1

Database Availability Group 構成の Exchangeサーバのバックアップ

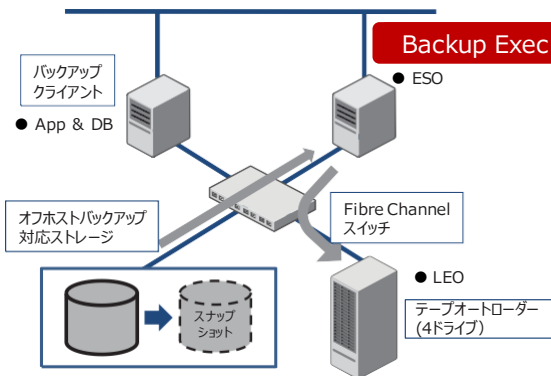


製品	ライセンス数
Backup Exec 基本ライセンス	1
アプリケーション&データベースエージェント	3

Note :

- DAG構成の場合、Exchangeサーバのノードの数だけアプリケーション&データベースエージェントが必要です。

Exchange のオフホストバックアップ



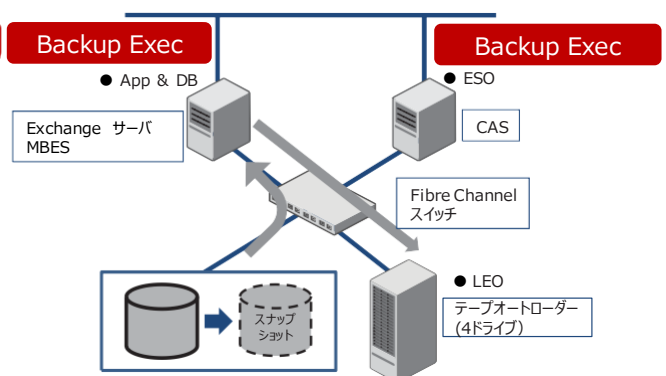
製品	ライセンス数
Backup Exec 基本ライセンス	1
Enterprise Server オプション	1
アプリケーション&データベースエージェント	1
Library Expansion オプション	3

Note :

- Exchangeサーバのオフホストバックアップでは、Exchange Server 2003 SP1 以上が必要です。  
【オフホストバックアップでもGRTが使用できます】

※Enterprise Serverオプションには、オフホストバックアップに必要なAdvanced Disk-Based Backupオプションの機能が含まれます。メディアサーバにEnterprise Server オプションが必要です。

【参考】Exchange のオンホストバックアップ



製品	ライセンス数
Backup Exec 基本ライセンス	2
アプリケーション&データベースエージェント	1
Enterprise Server オプション	1
Library Expansion オプション	3

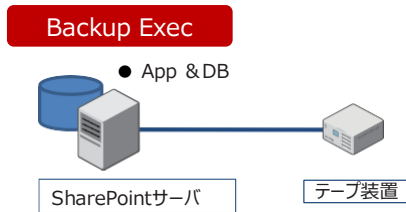
Note :

- 右側のバックアップサーバは、Exchangeサーバのバックアップには使用されません。左側のバックアップサーバとの対比の目的で書かれています。

※オンホストバックアップでは、アプリケーションサーバ（ここではExchangeサーバ）がバックアップに関わる負荷を被るので、オフホストバックアップに比べアプリケーションサーバの負荷が高くなります。

<Backup Exec アプリケーション & データベースエージェント構成例>

1) SharePointサーバ  
小規模構成 (SharePointサーバ 1台)

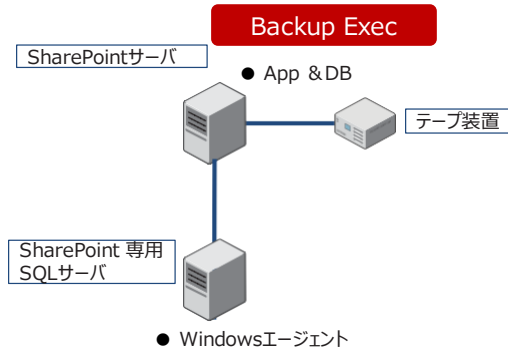


製品	ライセンス数
Backup Exec 基本ライセンス	1
アプリケーション&データベースエージェント	1

Note :

- アプリケーション&データベースエージェントは、SharePointサーバのサーバファーム単位に1つ必要です。サーバファームが2台以上のサーバで構築される場合、2台目以降の追加サーバごとにWindowsエージェントが必要です。
- サーバファーム内のSharePoint専用SQLサーバの全体の保護には、SQLサーバ用の追加アプリケーション&データベースエージェントは不要です。

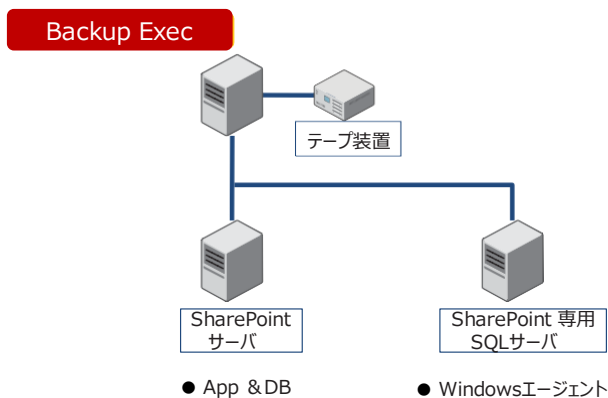
2) SharePointサーバ  
小規模構成 (リモートSQLサーバ 1台)



製品	ライセンス数
Backup Exec 基本ライセンス	1
アプリケーション&データベースエージェント	1
Windowsエージェント	1

Note : 注意事項は 1) と同じです。

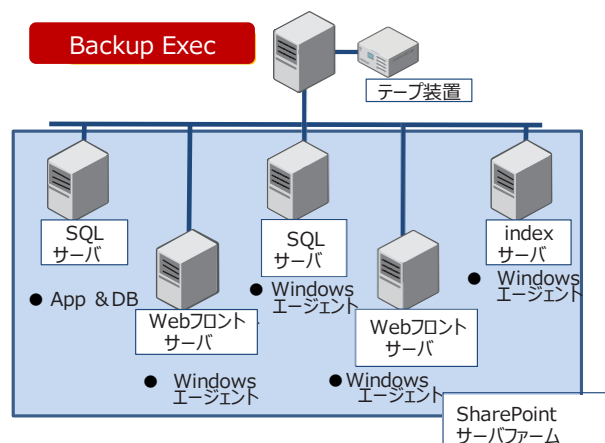
3) SharePointサーバ  
小規模構成 (リモートSPS/SQLサーバ 各1台)



製品	ライセンス数
Backup Exec 基本ライセンス	1
アプリケーション&データベースエージェント	1
Windows エージェント	1

Note : 注意事項は 1) と同じです。

4) SharePointサーバ  
サーバファーム構成

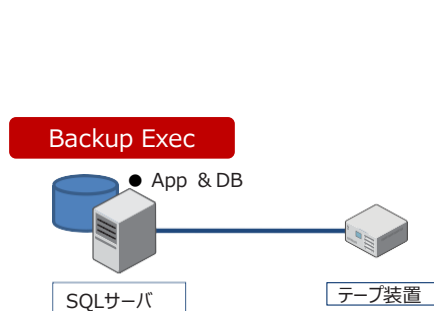


製品	ライセンス数
Backup Exec 基本ライセンス	1
Windows エージェント	4
アプリケーション&データベースエージェント	1

Note : 注意事項は 1) と同じです。

<Backup Exec アプリケーション & データベースエージェント構成例>

1台の SQLサーバをバックアップ

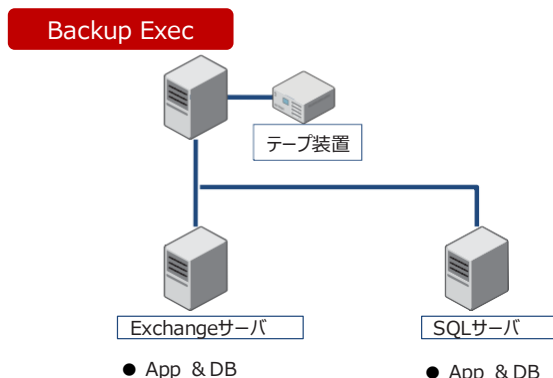


製品	ライセンス数
Backup Exec 基本ライセンス	1
アプリケーション&データベースエージェント	1

Note :

- アプリケーション&データベースエージェントの課金単位は、対象のアプリケーション/データベースにより異なります。
- ライセンスガイドのアプリケーション & データベース エージェントの項をご参照ください。ちなみに、SQL Server はインスタンス単位でライセンスが必要です。

SQLサーバ + Exchangeサーバ  
リモートサーバ 2台 (SQL 1台/Exchange 1台)

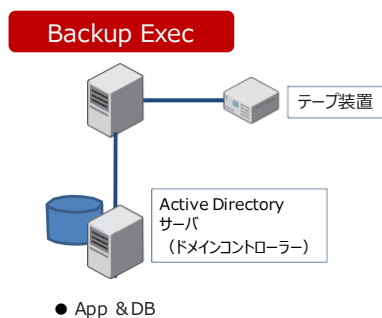


製品	ライセンス数
Backup Exec 基本ライセンス	1
アプリケーション&データベースエージェント	2

Note :

- アプリケーション&データベースエージェントは、バックアップ対象となるリモートサーバ用のWindows エージェントの権利を含んでいます。
- 上記の例では、SQL/ExchangeサーバにそれぞれWindows エージェントをインストール可能です。Windowsエージェントの権利のみを分離して利用することは出来ません。

1台の Active Directoryサーバでの使用

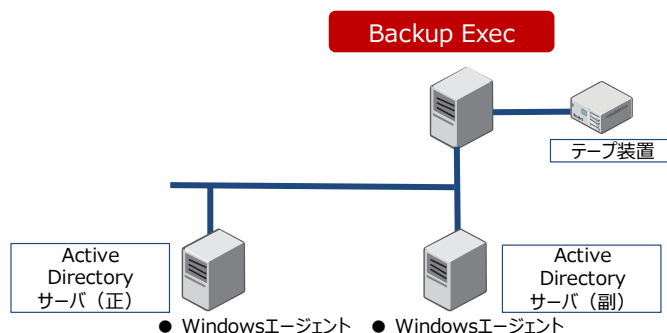


製品	ライセンス数
Backup Exec 基本ライセンス	1
アプリケーション&データベースエージェント (※)	1

**Note :** Active Directoryの権限のある復元モードおよび権限のない復元モードを使用せずに、エージェントを利用してユーザー単位など、きめ細かいリカバリを再起動することなく行うことが可能です。

※) アプリケーション&データベースエージェントに含まれるActive Directoryエージェントは、きめ細かいリカバリを提供します。ただし、ドメインコントローラ全体のバックアップ、リカバリのみが必要な環境では、アプリケーション&データベースエージェントを利用せず、Windowsエージェントにて対応が可能です。

Active Directoryサーバ2台構成での使用



製品	ライセンス数
Backup Exec 基本ライセンス	1
Windowsエージェント (※)	2

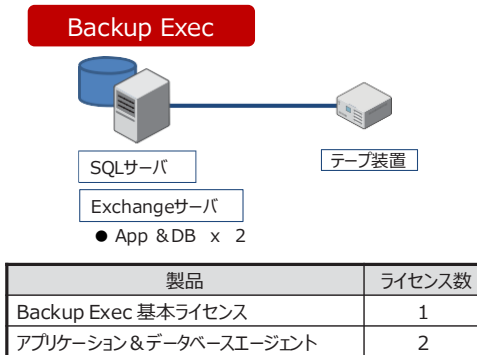
※) 上記は「権限のある復元モード」を使用したときの構成例です。この場合、アプリケーション & データベースエージェントを利用せず、Windowsエージェントにて対応が可能です。

Active Directoryオブジェクト単位のリストアが必要であっても、正副構成であれば、通常はドメインコントローラ同士で情報が複製されるため、アプリケーション & データベースエージェントライセンス1つとWindowsエージェントライセンス1つで対応できます。



<Backup Exec アプリケーション & データベースエージェント構成例>

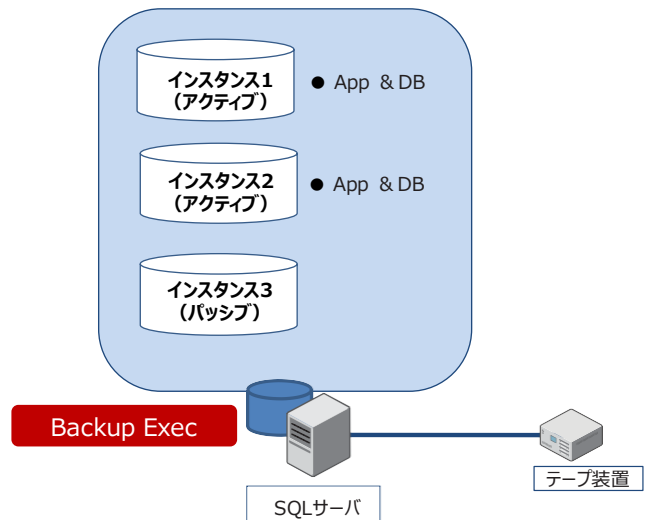
1台のSQLサーバ 兼 Exchangeサーバの バックアップ



**Note :**

- この構成のように1台のOS上に2つのバックアップ対象がある場合、アプリケーションエージェントは2つ必要です。(保護対象アプリケーションごとの必要数分が必要)

1台のSQLサーバをバックアップ  
(複数インスタンスを使用している場合)

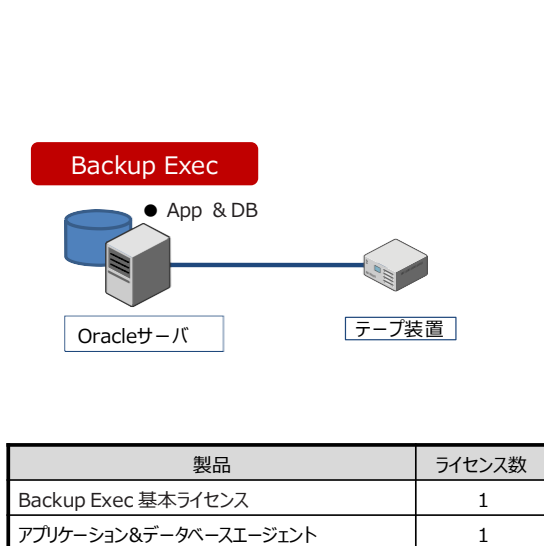


製品	ライセンス数
Backup Exec 基本ライセンス	1
アプリケーション&データベースエージェント	2

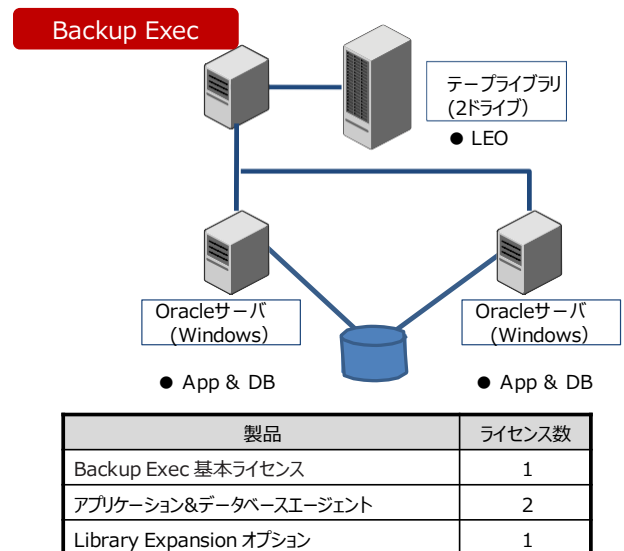
**Note :**

- SQL Server はインスタンス単位でライセンスが必要です。
- アクティブインスタンスのみに対して、アプリケーション&データベースエージェントのライセンスが必要となります。

1台の Oracleサーバをバックアップ



Oracle RAC  
2 ドライブ / Oracle RAC (2 ノードクラスタ)

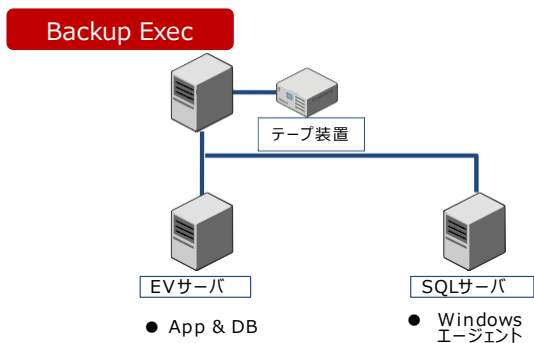


**Note :**

- アプリケーション&データベースエージェントは、Oracle をバックアップ対象とする場合、バックアップ対象となるリモートサーバ用のWindows エージェントまたはLinuxエージェントの権利を含んでいます。
- Windows エージェントまたはLinuxエージェントいずれかの排他利用となり、LinuxエージェントはLinux環境のみに使用可能です。上記の例では、OracleサーバにそれぞれWindowsエージェントをインストール可能です。

<Backup Exec アプリケーション & データベースエージェント構成例>

Enterprise Vaultサーバ 最小構成

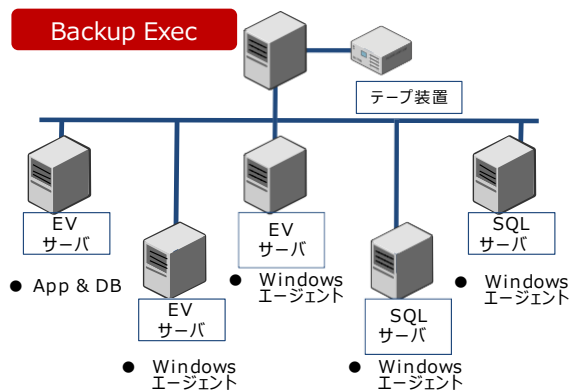


製品	ライセンス数
Backup Exec 基本ライセンス	1
アプリケーション&データベースエージェント	1
Windows エージェント	1

Note :

- Enterprise Vaultサーバ、SQLサーバともに Enterprise Vault の構成サーバであることから、2台目以降のすべてのサーバにWindowsエージェントが必要です。

Enterprise Vaultサーバ マルチサーバ構成



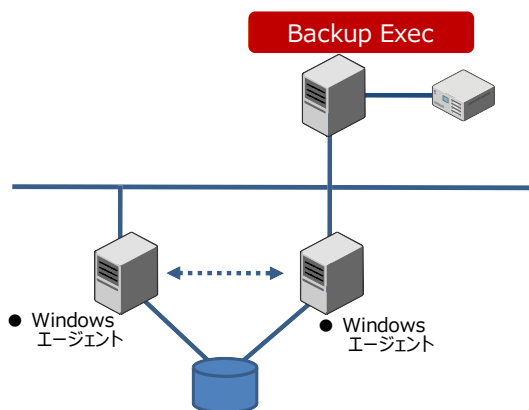
製品	ライセンス数
Backup Exec 基本ライセンス	1
アプリケーション&データベースエージェント	1
Windows エージェント	4

<WSFCクラスタサーバの保護>

【注意】:

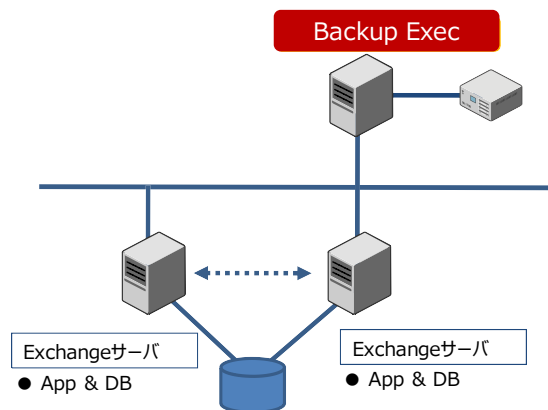
- Backup Execサーバ自身のクラスタ対応 (WSFC = Windows Server Failover Cluster)は終了しました。
- このため、ノード障害による自動フェールオーバーやフェールバックによる構成情報の引継ぎ等は行えません。Backup Execサーバ自体の保護は、システムバックアップを取得するか (SDRバックアップ)、Enterprise Server OptionによるBackup Execサーバの集中管理構成をご検討ください。
- こちらで紹介している構成例は、WSFCでクラスタ化されたリソースをBackup Execで保護することを想定しています。

1) 1台のBackup Execサーバでアクティブ/アクティブのWSFCクラスタ環境をリモートバックアップ



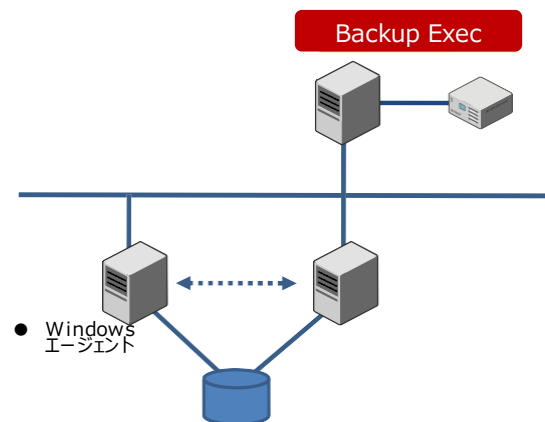
製品	ライセンス数
Backup Exec 基本ライセンス	1
Windows エージェント	2

2) 1台のBackup Execサーバでアクティブ/アクティブのExchange Availability Groupで構成された環境をリモートバックアップ



製品	ライセンス数
Backup Exec 基本ライセンス	1
アプリケーション&データベースエージェント	2

3) 1台のBackup Execサーバでアクティブ/パッシブのWSFCクラスタ環境のアクティブ側だけをリモートバックアップ

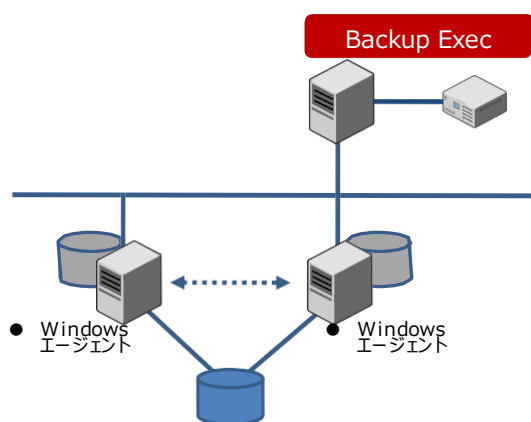


製品	ライセンス数
Backup Exec 基本ライセンス	1
Windows エージェント	1

Note :

- WSFCクラスタ環境ではアクティブノードにのみライセンスが必要です。フェールオーバーにより、パッシブノードがアクティブになった場合、アクティブノードで使われたライセンスと同じライセンスが使われます。
- アクティブノードのローカルリソースとしてアクセス可能な仮想マシンの共有ディスク、およびアクティブノードのローカルリソースがバックアップ可能です。パッシブノード側のバックアップには、別途Windows エージェントライセンスの追加購入が必要です。

4) 1台のBackup Execサーバでアクティブ/パッシブのWSFCクラスタ環境のリモートバックアップ + 各ノードのローカルリソースのバックアップ



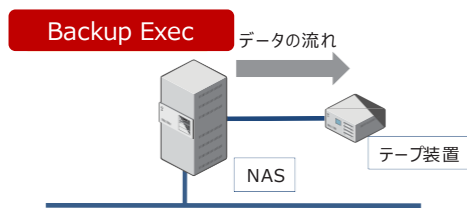
製品	ライセンス数
Backup Exec 基本ライセンス	1
Windows エージェント	2

Note : 注意事項は 3) と同じです。

## <NAS 環境での構成例 (Windows Storage Server の例)>

- 【注意】: ※Windows Storage Serverの最新の対応状況に関しては、弊社Software Compatibility List ([https://www.veritas.com/content/support/en\\_US/doc/BE\\_21\\_SCL](https://www.veritas.com/content/support/en_US/doc/BE_21_SCL))をご確認ください
- ※弊社は、本ガイド執筆時点ではWindows Server 2019/2022 IoTを正式にサポートしておりません。但し、Windows Server 2019/2022の通常版とバイナリが共通であるため、Windows Server 2019/2022の通常版と同等の使い方が確認できれば、サポート対応は受け付けます。但し、NASハードウェアに起因する問題は、弊社では対応できませんので、ベストエフォートの対応に限定されます（問題切り分けのため、通常版で事象を再現してもらう場合があります）
- ※ Windows Storage Server については、各 OEM 提供ベンダーにおいて、サードパーティ製 アプリケーションのインストール、使用許諾上認めていない場合があります。事前にベンダー側の使用許諾の内容をご確認いただくことをおすすめします。

### 1) NAS に接続したテープ装置へ NAS 上のデータを直接バックアップ

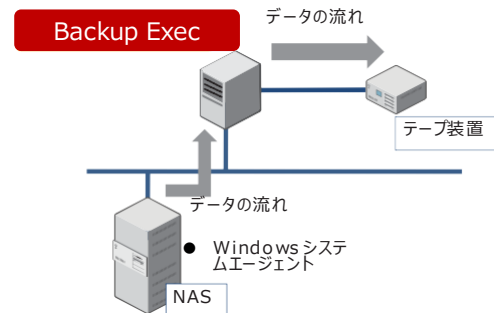


製品	ライセンス数
Backup Exec 基本ライセンス	1

**Note :**

- Windows Storage Serverを搭載したNAS装置に Backup Execをインストールする基本的なバックアップ方法です。(Windows Storage ServerをBackup Execサーバとして使用する構成)

### 2) NAS 上のデータをメディアサーバに接続したテープ装置へリモートバックアップ

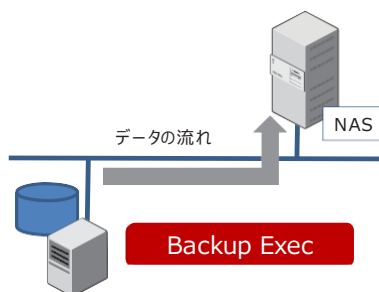


製品	ライセンス数
Backup Exec 基本ライセンス	1
Windowsエージェント	1

**Note :**

- Windows Storage Serverを搭載したNAS装置からリモートバックアップを行う基本的な構成です。(NASとは別にBackup Execサーバを使用する構成)
- ※ NAS 側に Windows エージェントを導入せずに、CIFS/SMB共有を直接リモートバックアップすることも可能です。その場合でも Windows エージェントのライセンスは必要です。ただし、エージェントが存在しないため、バックアップが成功しても例外処理が記録されます。

### 3) サーバのデータを NAS のディスクにバックアップ



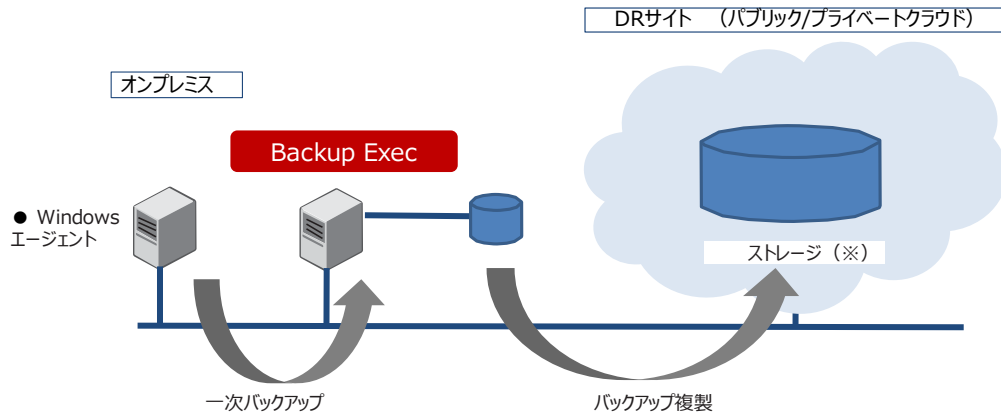
製品	ライセンス数
Backup Exec 基本ライセンス	1

**Note :**

- NAS装置へディスクバックアップを行う構成です。ディスクへのバックアップ機能は、Backup Execの標準機能です。
- ※) NAS上のCIFS/SMB共有を、「ディスクへのバックアップフォルダ」として設定します。
- ※)対象のNASはWindowsベースであるか、Windowsのファイルシステムと互換性のある装置である必要があります。Windows環境との違いに起因する障害はサポートされません。事前検証の実施をおすすめします。

<DRサイト向けバックアップ複製例>

1) DRサイトにバックアップ複製

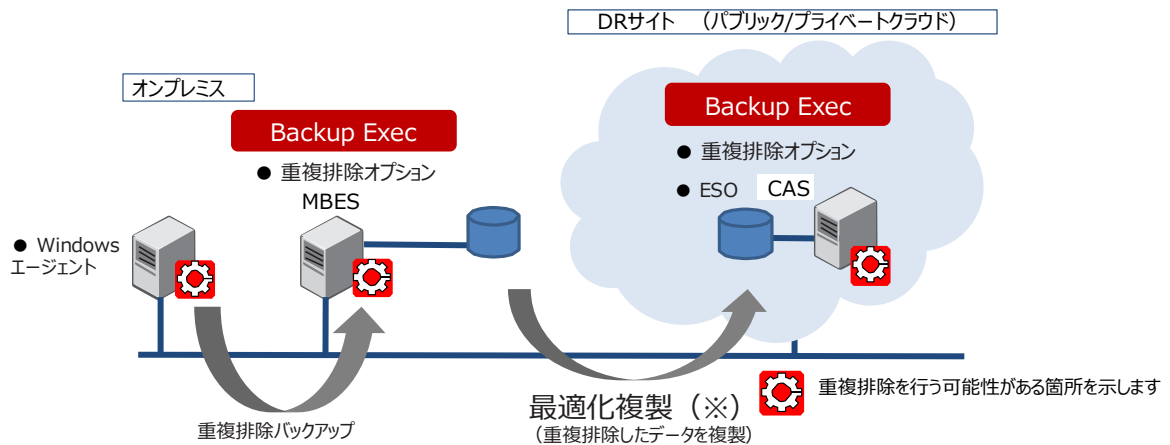


製品	ライセンス数
Backup Exec 基本ライセンス	1
Windowsエージェント	1

Note :

- DRサイトにあるストレージへの複製保存の場合、Backup Exec関連の追加ライセンスは不要です。
- ※) クラウドストレージに必要なライセンスはクラウドプロバイダーから調達する必要があります。

2) Backup Exec同士を利用したバックアップデータのDR対策



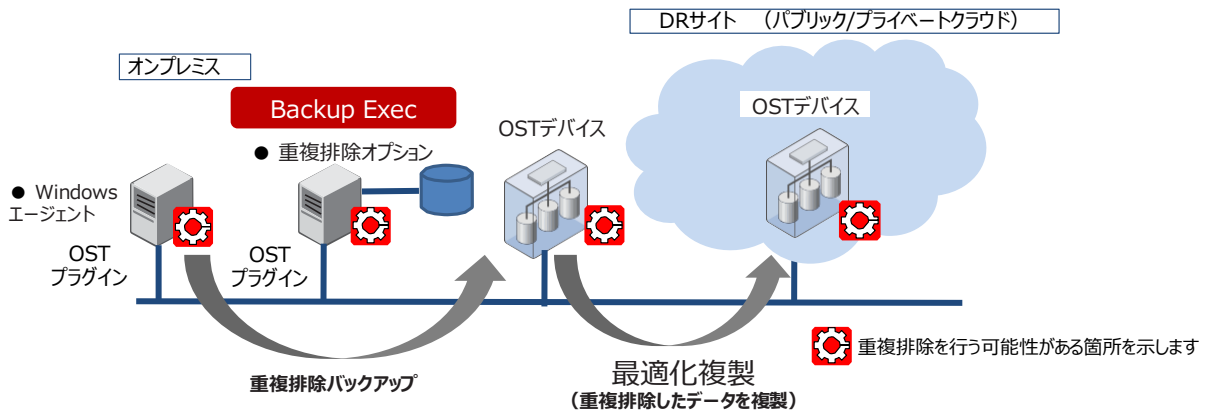
製品	ライセンス数
Backup Exec 基本ライセンス	2
Windowsエージェント	1
重複排除オプション	2
Enterprise Serverオプション (ESO)	1

Note :

- 重複排除オプションはBackup Execサーバ毎にライセンスが必要となります
- Backup Execサーバ同士で最適化複製を行う場合、両サーバ分の重複排除オプションライセンスが必要となります

<DRサイト向けバックアップ複製例>

3) OSTデバイスによるバックアップデータのDR対策

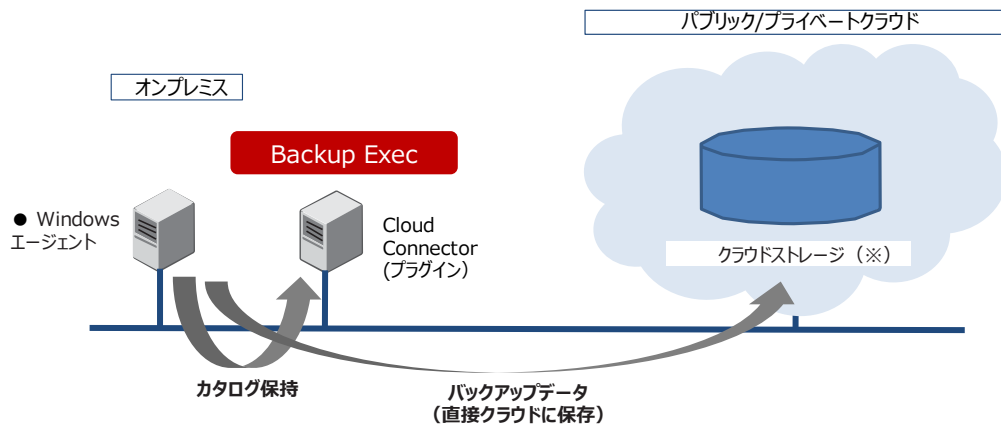


製品	ライセンス数
Backup Exec 基本ライセンス	1
Windowsエージェント	1
重複排除オプション	1

Note :

- 重複排除オプションはBackup Execサーバ毎にライセンスが必要となります
- OSTプラグインは提供ベンダーから入手してください
- Backup Execの重複排除機能を使わず、OSTデバイス上のボリュームを通常のディスクストレージ（B2DディスクとしてCIFS共有）として使用する分には、たとえOSTデバイス側でメーカー固有の重複排除処理が行われている場合でも、重複排除オプションは必要ありません。

<直接クラウドにバックアップデータを保存する構成例>



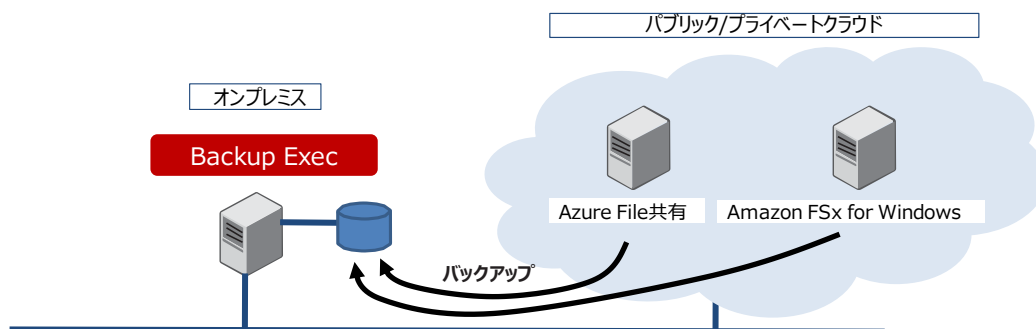
製品	ライセンス数
Backup Exec 基本ライセンス	1
Windowsエージェント	1

Note :

- クラウド接続に必要なCloud Connector(プラグイン) は、Backup Execの基本ライセンスに含まれています。
- Backup Execが対応しているクラウドストレージは、Hardware and Cloud Storage Compatibility List (HCL)でご確認ください。

※) クラウドストレージに必要なライセンスはクラウドプロバイダーから調達する必要があります。

## <Azure File共有、Amazon FSx for Windows File Serverのバックアップの構成例>



製品	ライセンス数
Backup Exec 基本ライセンス	1

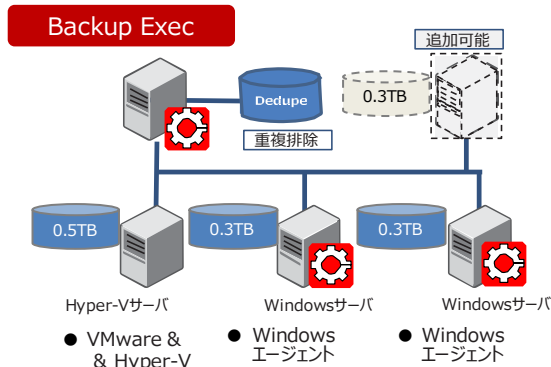
### Note :

- Azure File共有、Amazon FSx for Windows内のファイル・フォルダをバックアップするには、Windowsエージェントを導入する必要はありません。Backup Execサーバは、SMBプロトコルを使用して、ファイルサーバを直接マウントしてファイル・フォルダをバックアップします。
- 元の場所へファイルをリストアする場合は、Windowsエージェントの導入は必要ありませんが、別のコンピュータへリストア（リダイレクトリストア）する場合は、そのコンピュータにWindowsエージェントの導入が必要となります。
- Azure Files共有、Amazon FSx for Windowsに関する注意事項や手順に関しては、管理者ガイド 付録N、「Backup Execファイルサーバ」の章をご参照ください。



<Bronze/Silver/Gold Edition 構成例>

Bronze/Silver/Gold Edition容量ライセンスの計算



製品	ライセンス数
Bronze/Silver/Gold Capacity	2

※) Bronze/Silver/Gold Editionに含まれるエージェントやオプションはライセンスガイドの該当ページを参照

<データ量計算の内訳>

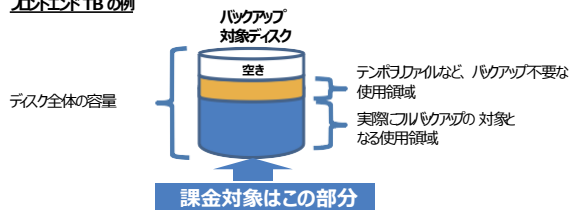
現時点でのバックアップ対象データ: 0.5+0.3+0.3	1.1 TB
年間のデータ増加見込み: 1.1×20%(※1)	0.22 TB
購入すべき対象データ量の合計	1.32 TB

(※1) 年間のデータ増加見込みが不明な場合、一般的な増加率として20%という値を用います。

Note :

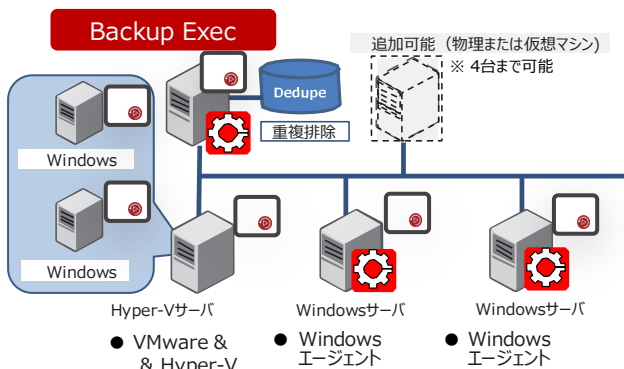
- Bronze/Silver/Gold Editionの容量ライセンス1本で1TB分です。
- 必要なTB数量分のライセンス本数を購入します。
- フルバックアップ対象のデータが課金対象になります。(下図参照)
- 保存期間、バックアップ回数、増分/差分バックアップ等は課金時に考慮不要です。
- 現在のバックアップ対象データ量に、年間のデータ量の増加見込みを合算します。
- データ量の集計時、最後にTB単位に小数点以下を切り上げます。
- バックアップ対象データ量が増加した場合、1TB単位で追加購入します。
- 1法人内の複数の拠点分を合算して購入可能です。
- バックアップ対象データ量が購入済みライセンス分を超過しない限り、許諾されている基本ライセンス/オプション/エージェントが本数無制限で利用可能です。例えば、左図中の「追加可能」分のサーバのバックアップが追加可能です。
- 1つのバックアップシステム内で、単体ライセンスとの混在利用はできません。
- Bronze/Silver Editionの容量ライセンスに単体ライセンスのオプション/エージェントを個別追加することはできません。追加が必要な場合は、上位エディション(例: Bronze → Silver, Silver → Gold等)にクロスグレードしてください。有効なサポート契約期間内のみクロスグレード可能です。

エンドエンドTBの例



<Bronze/Silver/Gold Edition 構成例>

Bronze/Silver/Gold Editionインスタンスライセンスの計算



製品	ライセンス数
Bronze/Silver/Gold Instance(10インスタンス)	1

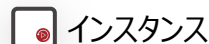
• Bronze/Silver/Gold Editionに含まれるエージェントやオプションはライセンスガイドの該当ページを参照

<インスタンス数の内訳>

Backup Execサーバ	1
Windowsサーバ	2
Hyper-Vサーバ	1
Hyper-V上ゲストOS (Windows)	2
インスタンスの合計	6

Note :

- 「インスタンス」とはBackup Execサーバ、Backup Exec集中管理サーバ、および、それらの配下で管理されるバックアップ対象の物理、仮想マシンとして定義されています。
- Bronze/Silver/Gold Instanceライセンスは、1ライセンスにつき、10インスタンスをバンドルして販売しています。10インスタンス以内であれば、1ライセンスの課金で済みます。
- インスタンス数が購入済みライセンス分を超過しない限り、許諾されている基本ライセンス、エージェント、オプションを本数無制限で利用可能です。例えば、左図中の「追加可能」分のサーバのバックアップが追加可能です。
- Backup Execサーバ、またはBackup Exec集中管理サーバ、および、それらの配下で管理されるバックアップ対象サーバで、単体ライセンスとの混在利用や容量ライセンスとの混在利用はできません。
- Bronze/Silver EditionのInstanceライセンスに単体ライセンスのオプション/エージェントを個別追加することはできません。追加が必要な場合は、上位エディション(例: Bronze → Silver, Silver → Gold等)にクロスグレードしてください。有効なサポート契約期間内のみクロスグレード可能です。
- 単体ライセンス、容量ライセンスからインスタンスライセンスへのクロスグレードは対応していません。
- バックアップ対象であるNDMPサーバ(NAS)もインスタンスとしてカウントされます。



インスタンス

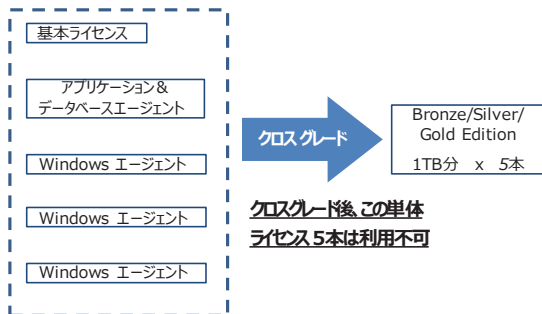
<Bronze/Silver/Gold Editionの容量ライセンスへのクロスグレード>

※) 移行の対象となる製品はライセンスガイドの該当ページを参照。インスタンスライセンスへのクロスグレードは現在対応しておりません。

**Bronze/Silver/Gold Editionへのクロスグレードの例**

- 全ての単体ライセンスをクロスグレードする例 -

現在所有しているクロスグレード対象の単体ライセンス、合計5本  
 ※) 各ライセンスのサポート契約期間中のみ、クロスグレード可能。



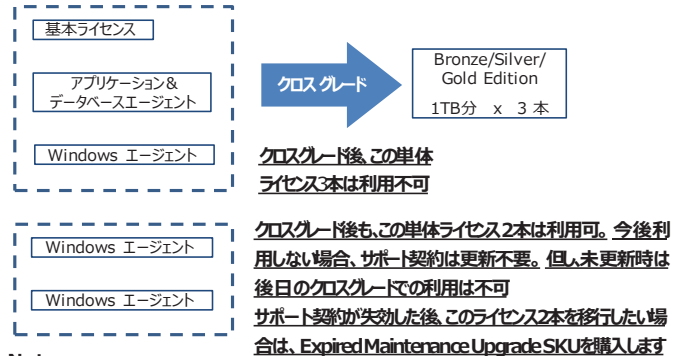
**Note :**

- 2018年4月2日までに購入した対象ライセンス1本で、Bronze/Silver/Gold Edition 1TB分にクロスグレード可能です。不足時は、通常のBronze/Silver/Gold Editionを追加購入可能です。
- 所有する対象ライセンスの全てもしくは任意の一部をクロスグレード可能です。
- クロスグレード後、その対象となった単体ライセンスは破棄され使用できません。
- Bronze/Silver/Gold Editionのサポート契約期間は、クロスグレードの契約時から開始されます。
- クロスグレードの翌年度のサポート契約の更新時は、Bronze/Silver/Gold Editionのサポート更新費用が必要となります。単体ライセンス利用時のサポート更新費用とは異なります。
- クロスグレードで入手したBronze/Silver/Gold Editionの注意点は、通常購入した場合と同じです。
- クロスグレードの注意点はBronze/Silver/Gold Editionで共通です。

**Bronze/Silver/Gold Editionへのクロスグレードの例**

- 一部のライセンスをクロスグレード、残りを利用しない例 -

現在所有しているクロスグレード対象の単体ライセンス、合計5本  
 ※) 各ライセンスのサポート契約期間中のみ、クロスグレード可能。



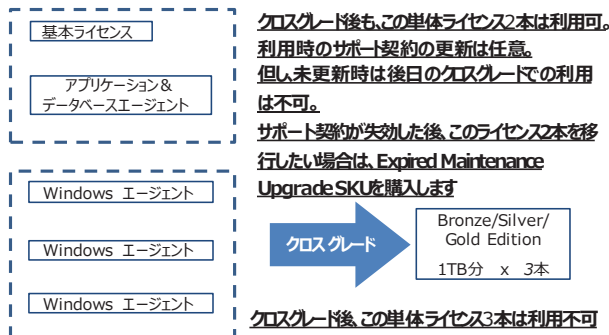
**Note :**

- 2018年4月2日までに購入した対象ライセンス1本で、Bronze/Silver/Gold Edition 1TB分にクロスグレード可能です。不足時は、通常のBronze/Silver/Gold Editionを追加購入可能です。
- 所有する対象ライセンスの全てもしくは任意の一部をクロスグレード可能です。
- クロスグレード後、その対象となった単体ライセンスは破棄され使用できません。
- Bronze/Silver/Gold Editionのサポート契約期間は、クロスグレードの契約時から開始されます。
- クロスグレードの翌年度のサポート契約の更新時は、Bronze/Silver/Gold Editionのサポート更新費用が必要となります。単体ライセンス利用時のサポート更新費用とは異なります。
- クロスグレードで入手したBronze/Silver/Gold Editionの注意点は、通常購入した場合と同じです。
- クロスグレードの注意点はBronze/Silver/Gold Editionで共通です。

**Bronze/Silver/Gold Editionへのクロスグレードの例**

- 一部のライセンスをクロスグレード、残りを利用する例

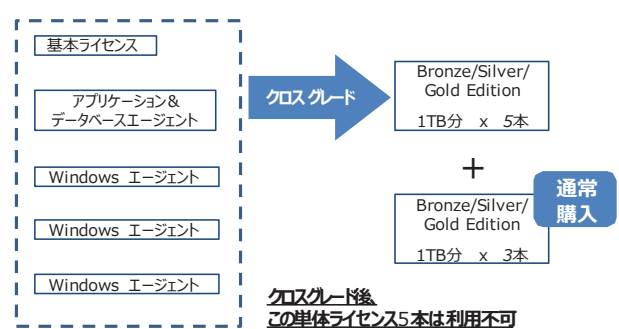
現在所有しているクロスグレード対象の単体ライセンス合計5本  
 ※) 各ライセンスのサポート契約期間中のみ、クロスグレード可能。



**Bronze/Silver/Gold Editionへのクロスグレードの例**

- 全てのライセンスをクロスグレード、更に 3TB分追加購入 -

現在所有しているクロスグレード対象の単体ライセンス合計5本  
 ※) 各ライセンスのサポート契約期間中のみ、クロスグレード可能。



---

# VERITAS™

---

## ベリタステクノロジーズ合同会社

<https://www.veritas.com/ja/jp>

〒107-0052 東京都港区赤坂 1-8-1 赤坂インターシティ AIR 26F  
ベリタスセールスインフォメーションセンター（法人のお客様向け製品購入に関する相談窓口）

- 電話受付時間：10:00～12:00, 13:00～17:00（土、日、祝日、年末年始を除く）
- 電話番号：0120-907-000（フリーダイヤル不可の場合 03-4531-1799）

# VERITAS™